

HP Data Protector 6.20

Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Server ユーザーガイド

製品番号:
初版: 2011年3月



ご注意

© Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Intel®、Itanium®、Pentium®、Intel Inside®、およびIntel Insideロゴは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、およびWindows NT®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

AdobeおよびAcrobatは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Javaは、米国におけるSun Microsystems, Inc.の商標です。

Oracle®は、Oracle Corporation (Redwood City, California) の米国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

目次

出版履歴	11
本書について	13
対象読者	13
ドキュメントセット	13
ガイド	13
オンラインヘルプ	16
ドキュメントマップ	17
略称	17
対応表	18
統合ソフトウェア	19
表記上の規則および記号	21
Data Protectorグラフィカルユーザーインターフェース	22
一般情報	22
HP技術サポート	23
メールニュース配信サービス	23
HP Webサイト	23
ドキュメントのフィードバック	23
1 はじめに	25
バックアップ	25
復旧	25
2 インストール	27
前提条件	28
3 構成	31
復旧Webアプリケーションの構成の確認	31
手順	31
HP Data Protectorのユーザー権限の構成	31
手順	31
Data Protectorバックアップ仕様の構成	32

インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認	34
4 バックアップ	35
留意事項	35
5 復旧	37
HP Data Protector Granular Recovery Extension GUIを開く	37
手順	37
バックアップからのコンテンツデータベースのインポート	41
前提条件	41
手順	42
ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート	45
前提条件	45
留意事項	45
手順	45
[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行	48
前提条件	48
手順	49
サイトアイテムの復旧	49
前提条件	49
留意事項	50
手順	52
キャッシュからのコンテンツデータベースの削除	59
手順	59
詳細復旧インポートジョブの監視	59
手順	59
HP Data Protector Granular Recovery Extensionの設定の変更	60
手順	61
6 コマンド行リファレンス	63
例	64
Data Protectorバックアップからのコンテンツデータベースの復元	64
ジョブの進行状況の監視	64
復元先のディスク容量の確認	65
コンテンツデータベースの一覧表示	65
復元ジョブの削除	66
オリジナルサイトへのサイトアイテムの復旧	66
別の場所へのサイトアイテムの復旧	66
キャッシュからのコンテンツデータベースの削除	67
ディスクからのコンテンツデータベースの削除	67
コンテンツデータベースの自動削除の設定	67

コンテンツデータベースからのアイテムのエクスポート	67
エクスポートするアイテムの一覧表示	68
コンテンツデータベースからのアイテムのインポート	68
Microsoft SharePointファームの情報の表示	68
コンテンツデータベースの情報の表示	68
サイトの一覧の表示	69
サイトの参照	69
詳細復旧のバージョンの表示	69

7 トラブルシューティング 71

インポートジョブが失敗する	71
問題	71
対処方法	72
復旧セッションが失敗する	73
問題	73
対処方法	73
マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない	73
問題	73
対処方法	73
マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない	74
問題	74
対処方法	75
コマンドラインインタフェースの応答が遅い	76
問題	76
対処方法	77
グラフィカルユーザーインタフェースの応答が遅い	77
問題	77
対処方法	77
Data Protectorサービスが実行されていない	78
問題	78
対処方法	78
[復元中 - マウント要求を保留]ステータス	78
問題	78
対処方法	78
サブフォルダが元の場所に復旧されない	79
問題	79
対処方法	79
Granular Recovery Extensionのアップグレードに失敗する	79
問題	79
対処方法	79
Granular Recovery Extensionコンポーネントのインストールに失敗する	80
問題	80

対処方法	80
Granular Recovery Extensionの削除に失敗する	80
問題	80
対処方法	81
用語集	83
索引	143

目 一 覧

1 Data Protectorグラフィカルユーザーインターフェース	22
2 HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSSベースソリューションを 使用する中規模ファームのインストール(例)	29
3 Data Protectorユーザー権限	32
4 コンテンツデータベースの選択	33
5 HP Data Protector Granular Recovery Extensionのリンク	38
6 復旧キャッシュ管理(空の状態)	39
7 コンテンツデータベースがマウントされた状態の復旧キャッシュ管理	40
8 [サイトコレクション選択]ページ	42
9 [バックアップバージョン選択]ページ	43
10 [コンテンツデータベース復旧]ページ	43
11 ジョブのステータスの監視	44
12 復旧キャッシュ管理	44
13 コンテンツデータベースのファイルの指定	46
14 ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート	46
15 ジョブのステータスの監視	47
16 復旧キャッシュ管理	47
17 [コンテンツ復旧の実行]タスク	48
18 [コンテンツ復旧の実行]リンク	49
19 復旧するコンテンツデータベースと複数のサイトの選択	52
20 サイトアイテムの選択	53
21 高度な検索	54
22 サイトアイテムの復旧	55
23 別の場所へのサイトアイテムの復旧	57

24	別のファームへのサイトアイテムの復旧	57
25	ネットワーク共有へのサイトアイテムの復旧	58
26	コンテンツデータベースの削除	59
27	インポートジョブの進行状況の監視	60
28	詳細復旧設定の変更	61
29	コマンド行ヘルプの表示	64
30	不十分なユーザー権限での復元の失敗	72
31	[ファーム機能の管理]でのHP Data Protector Granular Recovery Extension の非アクティブ化	74
32	[すべて読み取り]権限の付与	76

表一覧

1 出版履歴	11
2 表記上の規則	21
3 詳細復旧キャッシュ管理	41

出版履歴

次の版が発行されるまでの間に、間違いの訂正や製品マニュアルの変更を反映したアップデート版が発行されることもあります。アップデート版や新しい版を確実に入手するためには、対応する製品のサポートサービスにご登録ください。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

表 1 出版履歴

製品番号	ガイド版	製品
	2011年3月	HP Data Protector 6.20 Granular Recovery Extension 1.00

本書について

対象読者

本書は、Microsoft SharePoint Serverのバックアップおよび復旧の計画、セットアップ、保守を担当する管理者を対象としています。また、以下に関する十分な知識があることを想定しています。

- ・ Data Protectorの基本機能
- ・ Microsoft SharePoint Serverの管理

ドキュメントセット

その他のドキュメントおよびオンラインヘルプには、関連情報が記載されています。

ガイド

Data Protectorのガイドは、印刷された形式あるいはPDF形式で提供されます。PDFファイルは、Data Protectorのセットアップ時に、Windowsの場合はEnglish Documentation & Helpコンポーネントを、UNIXの場合はOB2-DOCSコンポーネントを、それぞれ選択してインストールします。ガイドのインストール後の保存先ディレクトリは、Data Protector_home¥ docsディレクトリ、UNIXの場合は/opt/omni/doc/Cディレクトリに保存されます。

ガイドは、HPサポートセンターのWebサイトの[マニュアル]ページから入手できます。

<http://www.hp.com/support/manuals>

[Storage]セクションの[Storage Software]をクリックし、ご使用の製品を選択してください。

- ・ *HP Data Protector*コンセプトガイド
このガイドでは、Data Protectorのコンセプトを解説するとともに、Data Protectorの動作原理を詳細に説明しています。手順を中心に説明しているオンラインヘルプとあわせてお読みください。
- ・ *HP Data Protector*インストールおよびライセンスガイド

このガイドでは、Data Protectorソフトウェアのインストール方法をオペレーティングシステムおよび環境のアーキテクチャごとに説明しています。また、Data Protectorのアップグレード方法や、環境に適したライセンスの取得方法についても説明しています。

- *HP Data Protectorトラブルシューティングガイド*
このガイドでは、Data Protectorの使用中に起こりうる問題に対するトラブルシューティングの方法について説明します。
- *HP Data Protectorディザスタリカバリガイド*
このガイドでは、ディザスタリカバリの計画、準備、テスト、および実行の方法について説明します。
- *HP Data Protectorインテグレーションガイド*
このガイドでは、さまざまなデータベースやアプリケーションをバックアップおよび復元するための、Data Protectorの構成方法および使用法を説明します。このガイドは、バックアップ管理者やオペレータを対象としています。4種類のガイドがあります。
 - *HP Data Protector Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド—SQL Server、SharePoint Portal Server、およびExchange Server*
このガイドでは、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Volume Shadow Copy ServiceといったMicrosoftアプリケーションに対応するData Protectorの統合ソフトウェアについて説明します。
 - *HP Data Protectorインテグレーションガイド—Oracle、SAP*
このガイドでは、Oracle、SAP R/3、SAP DB/MaxDBに対応するData Protectorの統合ソフトウェアについて説明します。
 - *HP Data Protector Integration Guide for IBM Applications: Informix, DB2, and Lotus Notes/Domino*
このガイドでは、Informix Server、IBM DB2、Lotus Notes/Domino ServerといったIBMアプリケーションに対応するData Protectorの統合ソフトウェアについて説明します。
 - *HP Data Protector Integration Guide for Sybase, Network Node Manager, and Network Data Management Protocol Server*
このガイドでは、VMware Virtual Infrastructure、Sybase、Network Node Manager、Network Data Management Protocol Server、およびCitrix XenServerに対応するData Protectorの統合ソフトウェアについて説明します。
 - *HP Data Protector Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service*
このガイドでは、Data ProtectorとMicrosoft Volume Shadow Copy Serviceの統合について説明します。
- *HP Data Protector integration guide for HP Service Information Portal*

このガイドでは、HP Service Information Portalに対応するData Protector統合ソフトウェアのインストール、構成、使用方法について説明します。これはバックアップ管理者用です。ここでは、アプリケーションを使用してData Protectorサービスを管理する方法について説明しています。

- *HP Data Protector integration guide for HP Reporter*
このガイドでは、HP Reporterに対応するData Protector統合ソフトウェアのインストール、構成、使用方法について説明します。これはバックアップ管理者用です。Data Protectorのサービス管理にアプリケーションを使用する方法について説明します。
- *HP Data Protector Integration Guide for HP Operations Manager for UNIX*
このガイドでは、UNIX版のHP Operations ManagerとHP Service Navigatorを使用して、Data Protector環境の健全性と性能を監視および管理する方法について説明します。
- *HP Data Protector Integration Guide for HP Operations Manager for Windows*
このガイドでは、Windows版のHP Operations ManagerとHP Service Navigatorを使用して、Data Protector環境の健全性と性能を監視および管理する方法について説明します。
- *HP Data Protector integration guide for HP Performance Manager and HP Performance Agent*
このガイドでは、Windows版、HP-UX版、Solaris版、Linux版のHP Performance Manager(PM)およびHP Performance Agent(PA)を使用してData Protector環境の健全性と性能を監視および管理する方法について説明します。
- *HP Data Protectorゼロダウンタイムバックアップコンセプトガイド*
このガイドでは、Data Protectorゼロダウンタイムバックアップとインスタントリカバリのコンセプトについて解説するとともに、ゼロダウンタイムバックアップ環境におけるData Protectorの動作原理を詳細に説明します。手順を中心に説明している『*HP Data Protector Zero Downtime Backup Administrator's Guide*』および『*HP Data Protector Zero Downtime Backup Integration Guide*』とあわせてお読みください。
- *HP Data Protector Zero Downtime Backup Administrator's Guide*
このガイドでは、HP StorageWorks Virtual Array、HP StorageWorks Enterprise Virtual Array、EMC Symmetrix Remote Data FacilityおよびTimeFinder、HP StorageWorks Disk Array XPに対応するData Protector統合ソフトウェアのインストール、構成、使用方法について説明します。このガイドは、バックアップ管理者やオペレータを対象としています。ファイルシステムやディスクイメージのゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、および復元についても説明します。
- *HP Data Protector Zero Downtime Backup Integration Guide*
このガイドでは、ゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、およびOracle、SAP R/3、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Serverの各データベースの標

準復元を実行するためのData Protectorの構成方法および使用方法について説明します。

- *HP Data Protector MPE/iX system user guide*
このガイドでは、MPE/iXクライアントの構成方法、およびMPE/iXデータのバックアップおよび復元方法を説明します。
- *HP Data Protector Media Operations User guide*
このガイドでは、オフラインストレージメディアのトラッキングと管理について説明します。アプリケーションのインストールと構成、日常のメディア操作、およびレポート作成のタスクについて説明します。
- *HP Data Protector 製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス*
このガイドでは、HP Data Protector 6.20の新機能について説明しています。また、インストールの必要条件、必要なパッチ、および制限事項に関する情報に加えて、既知の問題と回避策についても提供します。
- *HP Data Protector 製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス for integrations to HP Operations Manager, HP Reporter, HP Performance Manager, HP Performance Agent, and HP Service Information Portal*
このガイドは、記載されている統合ソフトウェアに対して同様の役割を果たします。
- *HP Data Protector Media Operations Product Announcements, Software Notes, and references*
このガイドは、Media Operationsに対して同様の役割を果たします。
- *HP Data Protector Command Line Interface Reference*
このガイドでは、Data Protectorコマンド行インタフェース、コマンドオプション、使用方法を、基本コマンド行の例とともに説明しています。

オンラインヘルプ

Data ProtectorはWindowsおよびUNIXの各プラットフォーム用にオンラインヘルプ(コンテキスト依存ヘルプ([F1]キー)および[ヘルプ]トピック)を備えています。

Data Protectorをインストールしていない場合でも、インストールDVD-ROMの最上位ディレクトリからオンラインヘルプにアクセスできます。

- **Windowsの場合:** DP_help.zipを解凍し、DP_help.chmを開きます。
- **UNIXの場合:** 圧縮されたtarファイルDP_help.tar.gzをアンパックし、DP_help.htmでオンラインヘルプシステムにアクセスします。

ドキュメントマップ

略称

次の表は、ドキュメントマップで使用される略称の説明です。ガイドのタイトルには、すべて先頭にHP Data Protectorが付きます。

略称	ガイド
CLI	Command Line Interface Reference
Concepts	コンセプトガイド
DR	ディザスタリカバリガイド
GS	スタートアップガイド
GRE-SPS	Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Serverユーザーガイド
GRE-VMware	Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere
Help	オンラインヘルプ
IG-IBM	Integration Guide for IBM Applications: Informix, DB2, and Lotus Notes/Domino
IG-MS	Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド - SQL Server、SharePoint Server、およびExchange Server
IG-O/S	インテグレーションガイド - Oracle、SAP
IG-OMU	Integration Guide for HP Operations Manager for UNIX
IG-OMW	Integration Guide for HP Operations Manager for Windows
IG-Var	Integration Guide for Sybase, Network Node Manager, and Network Data Management Protocol Server
IG-VirtEnv	Integration Guide for Virtualization Environments: VMware, Microsoft Hyper-V, and Citrix XEN Server

略称	ガイド
IG-VSS	Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service
Install	インストールおよびライセンスガイド
MO GS	Media Operations Getting Started Guide
MO RN	Media Operations Product Announcements, Software Notes, and References
MO UG	Media Operations User Guide
PA	製品案内、ソフトウェアノート、リファレンス
Trouble	トラブルシューティングガイド
ZDB Admin	ZDB Administrator's Guide
ZDB Concept	ZDBコンセプトガイド
ZDB IG	ZDB Integration Guide

対応表

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。セルが塗りつぶされているドキュメントを最初に参照してください。

統合	ガイド
IBM DB2 UDB	IG-IBM
Informix	IG-IBM
Lotus Notes/Domino	IG-IBM
Media Operations	MO User
MPE/iX system	MPE/iX
Microsoft Exchange Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoft Exchange Single Mailbox	IG-MS
Microsoft SharePoint Portal Server	IG-MS
Microsoft SQL Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoft Volume Shadow Copy Service (VSS)	IG-VSS
NDMP Server	IG-Var
Network Node Manager (NNM)	IG-Var
Oracle	IG-O/S
Oracle ZDB	ZDB IG
SAP DB	IG-O/S
SAP R/3	IG-O/S、ZDB IG
Sybase	IG-Var
EMC Symmetrix	すべてのZDB
VMware	IG-Var

表記上の規則および記号

表 2 表記上の規則

規則	要素
青色のテキスト:表2(21ページ)	相互参照リンクおよび電子メールアドレス
青色の下線付きテキスト: http://www.hp.com	Webサイトアドレス
斜体テキスト	テキスト強調
等幅のテキスト	<ul style="list-style-type: none">・ ファイル名とディレクトリ名・ システム出力・ コード・ コマンド、引数、および引数の値
等幅、斜体テキスト	<ul style="list-style-type: none">・ コード変数・ コマンド変数
等幅、太字 テキスト	強調された等幅テキスト

△ **注意:**

指示に従わなかった場合、機器設備またはデータに対し、損害をもたらす可能性があることを示します。

① **重要:**

詳細情報または特定の手順を示します。

📖 **注記:**

補足情報を示します。

💡 ヒント:

役に立つ情報やショートカットを示します。

Data Protectorグラフィカルユーザーインターフェース

Data Protectorでは、クロスプラットフォーム(WindowsとUNIX)のグラフィカルユーザーインターフェースを提供します。オリジナルのData ProtectorGUI (Windowsのみ)またはData ProtectorJava GUIを使用できます。Data Protectorグラフィカルユーザーインターフェースに関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

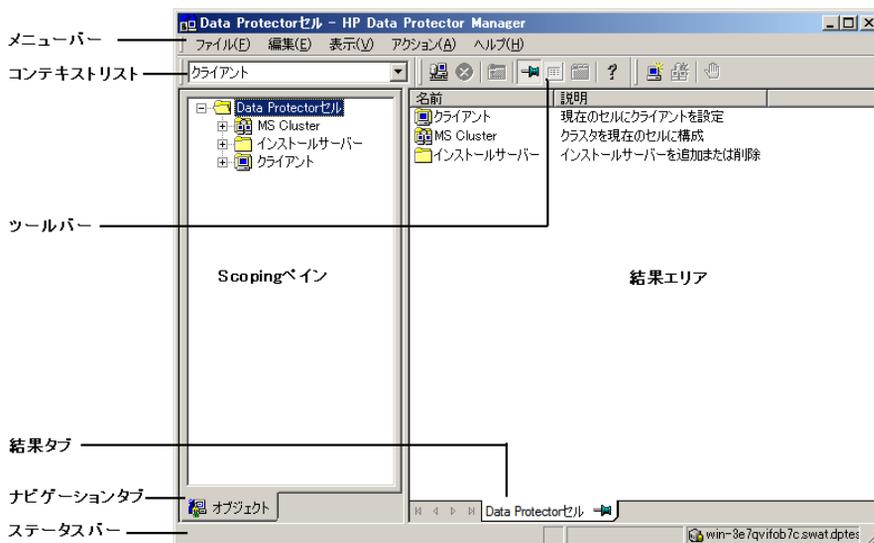


図 1 Data Protectorグラフィカルユーザーインターフェース

一般情報

Data Protectorに関する一般的な情報は、<http://www.hp.com/go/dataprotector>にあります。

HP技術サポート

世界各地の技術サポートについては、下記のHPサポートWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.hp.com/support>

HPに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- ・ 製品のモデル名とモデル番号
- ・ 技術サポートの登録番号(ある場合)
- ・ 製品のシリアル番号
- ・ エラーメッセージ
- ・ オペレーティングシステムのタイプとリビジョンレベル
- ・ 詳細な質問内容

メールニュース配信サービス

ご使用の製品を以下のアドレスのメールニュース配信登録Webサイトで登録することをお勧めします。

<http://www.hp.com/go/e-updates>

登録すると、製品の強化機能内容、ドライバの新バージョン、ファームウェアのアップデートなどの製品リソースに関する通知が電子メールで届きます。

HP Webサイト

その他の情報については、次のHP Webサイトを参照してください。

- ・ <http://www.hp.com>
- ・ <http://www.hp.com/go/software>
- ・ <http://www.hp.com/support/manuals>
- ・ <http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>
- ・ <http://www.hp.com/support/downloads>

ドキュメントのフィードバック

HPでは、お客様からのフィードバックを歓迎しています。

製品ドキュメントに関するご質問やお気づきの点があれば、DP.DocFeedback@hp.comまでメッセージを送信してください。お知らせいただいた内容は、すべてHPに帰属することになります。

1 はじめに

このドキュメントでは、HP Data Protector Granular Recovery Extension for Microsoft Office SharePoint Server 2007およびMicrosoft SharePoint Server 2010 (**Microsoft SharePoint Server**)について説明します。

バックアップ

Microsoft SharePoint Serverのデータのバックアップには、以下のいずれかのバックアップソリューションを使用します。

- ・ HP Data Protector Microsoft SharePoint Server 2007/2010用統合ソフトウェア
- ・ HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSSベースソリューション
- ・ HP Data Protector Microsoft SQL Server用統合ソフトウェア
- ・ HP Data Protector Microsoft Volume Shadow Copy Service用統合ソフトウェア
- ・ HP Data Protector Microsoft Volume Shadow Copy Service ZDB用統合ソフトウェア

復旧

HP Data Protector Granular Recovery Extensionの利点は、次のとおりです。

- ・ **復旧単位**
バックアップソリューションで復元できる最小オブジェクトは、Microsoft SQL Server データベース(**コンテンツデータベース**)です。このデータベースには複数のWebサイトのデータが格納されていることがあります。それに対して、HP Data Protector Granular Recovery Extensionでは、カレンダーアイテム、タスクアイテム、チームディスカッションアイテム、ドキュメント、共有ドキュメント、フォルダ、リスト、ライブラリ、お知らせ、フォーム、レポートテンプレート、オブジェクトのメタデータ、ドキュメントワークフローなどの個々のWebサイトアイテムが、復元可能な最小のオブジェクトになります。
- ・ **Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理への統合**
Granular Recovery Extensionは、Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理に完全に統合されます。これにより、サイトコレクションの管理者は、単一アイテムの復旧を独自に(バックアップ管理者の最小限の介在で)実行できるようになります。

- **複数サイトの復旧**

サイトを誤って削除しても問題にはなりません。これは、ごみ箱を使ってサイトを復旧することができない場合にも当てはまります。Granular Recovery Extensionは、複数のサブサイトを持つサイト全体を復旧できます。

- **容易な検索**

容易な検索 Granular Recovery Extensionの高度なクイック検索を使用して、復旧が必要なアイテムを検索できます。この検索システムではオブジェクトのメタデータがチェックされるため、検索内容をドキュメントタイプ、作者などで絞り込むことができます。オブジェクトは、オブジェクトツリーブラウザに表示されます。

- **別の場所への復旧**

Granular Recovery Extensionでは、別の場所への復旧が可能です。たとえば、別のサイト、別のファーム、別のファイルシステムなどにオブジェクトを復旧できます。

2 インストール

この章では、HP Data Protector Granular Recovery Extensionのインストール方法を説明します。

前提条件

Microsoft SQL Serverパッケージ

Microsoft SQL Server 2005またはMicrosoft SQL Server 2008用の以下のパッケージをインストールします。

- Microsoft SQL Server Native Client
- Microsoft Core XML Services (MSXML) 6.0
- Microsoft SQL Server 2008管理オブジェクトコレクション

上記のパッケージは、以下のサービスの少なくとも1つが有効になっているMicrosoft SharePoint Serverシステムすべてにインストールされている必要があります。

- サーバーの全体管理
- Windows SharePoint Services Webアプリケーション

パッケージはMicrosoft Webサイト(<http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx>)からダウンロードできます。

Microsoft SQL Server 2008用Feature Packを検索してください。

HP Data Protectorのインストールは、以下のドキュメントの説明に従って行ってください。

- *Data Protector HP Data Protector Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド—SQL Server、SharePoint Portal Server、およびExchange ServerのMicrosoft SharePoint Server 2007/2010 VSSベースソリューションの章*
- *HP Data Protector Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド—SQL Server、SharePoint Portal Server、およびExchange Server*
- *HP Data Protector Zero Downtime Backup Integration Guide*

このほか、以下のサービスの少なくとも1つが有効になっているMicrosoft SharePoint Serverシステムすべてに、Data Protector ユーザーインタフェースコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- サーバーの全体管理
- Windows SharePoint Services Webアプリケーション

図2(29ページ)では、HP Data Protectorコンポーネントが青色、Microsoft SQL Serverのインストールパッケージが緑色、HP Data Protector Granular Recovery Extensionが赤色で示されています。

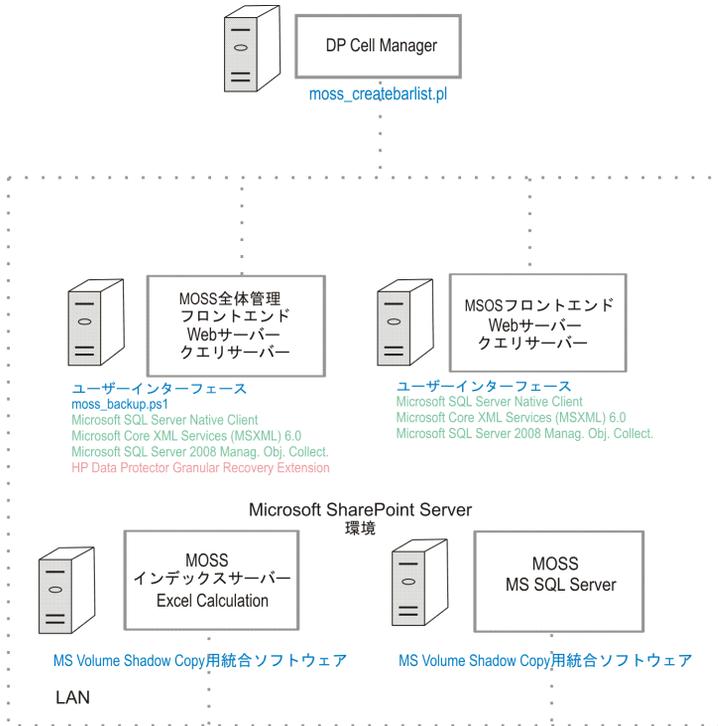


図 2 HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSSベースソリューションを使用する中規模ファームのインストール(例)

インストール手順については、「HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド」を参照してください。

3 構成

ここでは、実行しなければならない構成手順について説明します。この手順に従わなかった場合は、オブジェクトの復旧に失敗することがあります。

復旧Webアプリケーションの構成の確認

手順

1. [サーバーの全体管理]Webページを開き、[アプリケーション管理]タブをクリックします。
2. [アプリケーションセキュリティ]で[認証プロバイダ]をクリックし、[既定]をクリックします。
3. 復旧Webアプリケーションの設定が、サーバーの全体管理アプリケーションのデフォルト設定と同じであることを確認します。

HP Data Protectorのユーザー権限の構成

手順

1. Data Protector GUI ([Data Protector Manager])を開きます。
2. コンテキストリストで[ユーザー]を選択します。

3. Windows SharePoint Services Timerサービスを実行しているユーザーアカウントに、Data Protectorの[復元の開始]および[プライベートオブジェクトを表示]の各ユーザー権限が割り当てられていることを確認します。

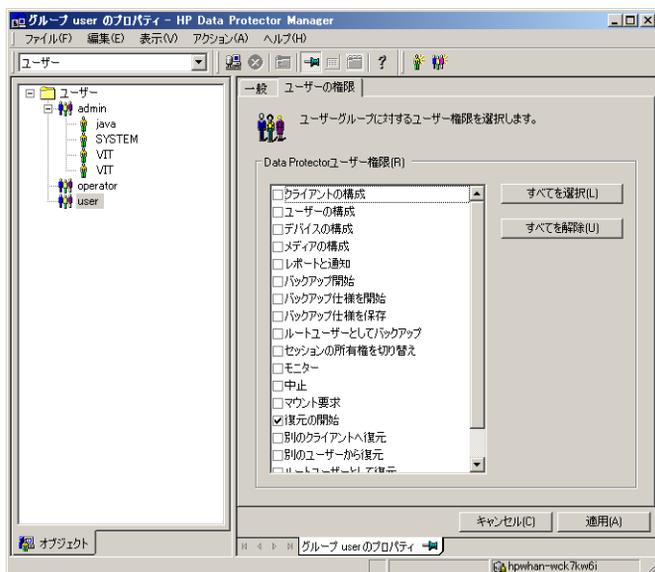


図 3 Data Protectorユーザー権限

 注記:

[プライベートオブジェクトを表示]のユーザー権限は、アクセスの種類をプライベートとして、バックアップオブジェクトオーナーを指定して構成されたバックアップ仕様を作成した場合に有用です。このユーザーアカウントは、バックアップを実行したアカウントか、[所有権]バックアップオプションで指定されたアカウントです。このユーザーアカウントがWindows SharePoint Services Timerサービスを実行しているユーザーアカウントと異なる場合、[復旧キャッシュ管理]でプライベートバックアップオブジェクトにアクセスすることはできません。

Data Protectorバックアップ仕様の構成

- ・ VSSトランスポートブルバックアップを作成する場合は、[複製をインスタントリカバリーに使用する]オプションが選択されていないことを確認します。

- ・ Data Protectorが[詳細復旧キャッシュ管理]のコンテンツデータベースをバックアップしない(つまり、Data Protectorが同じコンテンツデータベースを2回バックアップしない)ようにするために、構成に応じて以下の作業を行います。
- ・ 同じMicrosoft SQL ServerインスタンスがMicrosoft SharePoint ServerとHP Data Protector Granular Recovery Extensionの両方で使用されている場合:
バックアップ仕様を作成するときに、個々のコンテンツデータベースを選択します。クライアント、Microsoft SQL Serverインスタンス、またはMicrosoft Volume Shadow Copyライターは選択しません。

HP Data Protector Granular Recoveryで復元されるコンテンツデータベースの名前は`OriginalName_DataProtectorSessionID`です。

図4(33ページ)を参照してください。

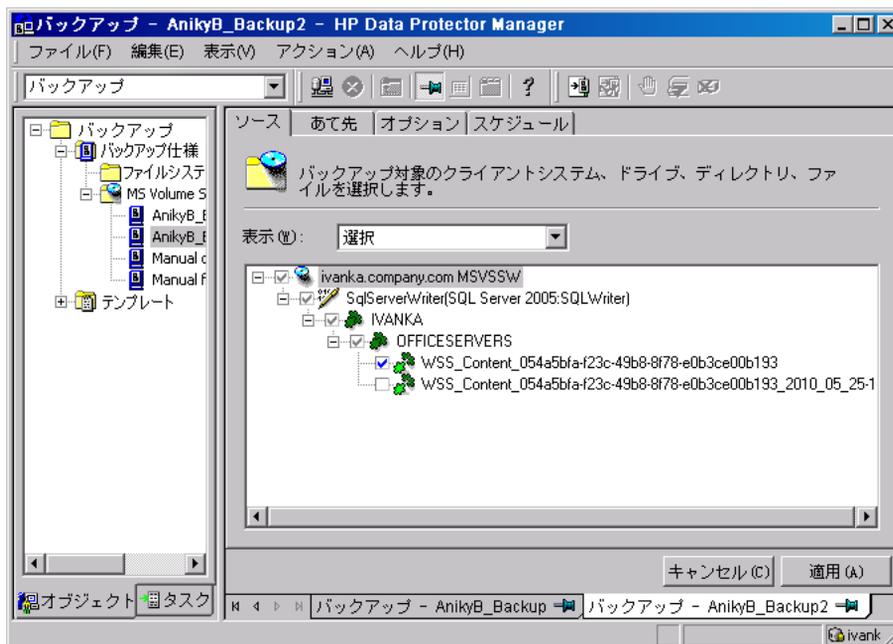


図 4 コンテンツデータベースの選択

注記:

個別のコンテンツデータベースが選択されているバックアップ仕様がある場合は、ファーム管理者が新しいコンテンツデータベースを追加するたびに、新しく追加されたコンテンツデータベースをバックアップ仕様に含める必要があります。

- ・ 詳細復旧のために単独のMicrosoft SQL Serverインスタンスが使用されている場合は、このシステムを[バックアップからのインポート]の手順のインポート先のMicrosoft SQL Serverとして指定します。
このシステムがバックアップ仕様から除外されていることを確認してください。

インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認

復旧WebアプリケーションとSharePoint Central Administration v3アプリケーションプールの両方で、同じMicrosoft SharePoint Serverユーザーアカウントが使用されます。

アイテムをファイルシステムに復旧できるようにするために、これらのアプリケーションプールで指定されているユーザーに十分なパーミッションが付与されていることを確認します。このユーザーにファイルシステムのフルコントロールが付与されていることを確認してください。

復旧WebアプリケーションまたはSharePoint Central Administration (Microsoft Office SharePoint Server 2007の場合はv3、Microsoft SharePoint Server 2010の場合はv4)アプリケーションプールでどのユーザーアカウントが構成されているかを確認するには、次の手順に従います。

1. Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理システムに接続します。
2. [スタート]メニューで[コントロールパネル]、[管理ツール]、[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]の順にクリックします。
3. オペレーティングシステムのバージョンによって、以下の手順を実行します。

Windows Server 2008:

- a. [アプリケーションプール]ページを開きます。
- b. アプリケーションプールを右クリックし、[詳細設定]をクリックします。
- c. [プロセスモデル]で、Microsoft SharePoint ServerユーザーアカウントのIDを確認します。

Windows Server 2003:

- a. [アプリケーションプール]を展開します。
- b. アプリケーションプールを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- c. [ID]タブをクリックし、[構成可能]オプションを選択して、選択したMicrosoft SharePoint Serverユーザーアカウントを確認します。

4 バックアップ

Microsoft SharePoint Serverデータのバックアップは、バックアップソリューションのドキュメントの説明に従って行います。

HP Data Protectorのバックアップソリューションの詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- ・ *HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSSベースソリューションのホワイトペーパー*
- ・ *HP Data Protector Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド—SQL Server、SharePoint Portal Server、およびExchange Server*
- ・ *HP Data Protector Zero Downtime Backup Integration Guide*

注記:

Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Serverは、さまざまなオブジェクトを同じ手順で復旧します。復旧手順は、バックアップの種類に関係しません。

留意事項

- ・ 10 GBより大きなコンテンツデータベースは、VSSトランスポートابلバックアップから復元することをお勧めします。
- ・ disk + tapeへのZDBを使用するVSSトランスポートابلバックアップを構成した場合、Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Serverは、ディスクからコンテンツデータベースバージョンを復元用を選択します。このバックアップタイプは、ディスク容量が余分に必要ないため、比較的大きなコンテンツデータベースに適しており、復元セッションを短い時間で完了できます。

5 復旧

各サイトのデータは、Microsoft SQL Serverデータベース(**コンテンツデータベース**)に格納されています。このため、サイトアイテムを復旧するために以下の基本的な手順に従います。

1. **インポート**
 - a. **復元**

コンテンツデータベースをバックアップからMicrosoft SQL Serverシステム上の一時的な保管場所に復元します。
 - b. **マウント**

復元したコンテンツデータベース(**復旧コンテンツデータベース**)をMicrosoft SharePoint Serverに認識させます。これにより、一時的なサイト(**復旧サイト**)が作成されます。
2. **復旧**

サイトアイテムを復旧サイトから元のサイトに転送するか、選択した別の場所に転送します。
3. **アンマウント**

復旧コンテンツデータベースをMicrosoft SharePoint Serverからアンマウントします。必要に応じて、コンテンツデータベースをディスクから削除します。

HP Data Protector Granular Recovery Extension GUIを開く

手順

1. Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファームの管理者**ユーザーアカウントでログオンします。
2. [サーバーの全体管理]Webページに接続します。
3. Microsoft Office SharePoint Server 2007特有: **[操作]**タブをクリックします。

4. HP Data Protector Granular Recovery Extensionを探します。

[HP Data Protector Granular
Recovery Extension](#)
[Granular Recovery Cache Management](#)
[Granular Recovery Import Job Status](#)
[Granular Recovery Settings](#)

 [5 HP Data Protector Granular Recovery Extensionのリンク](#)

5. [詳細復旧キャッシュ管理]をクリックします。[復旧キャッシュ管理]ページが表示されます。

詳細復旧キャッシュは、どの復旧コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverに現在マウントされているかを示します。最初は、詳細復旧キャッシュは空です。図6(39ページ)を参照してください。

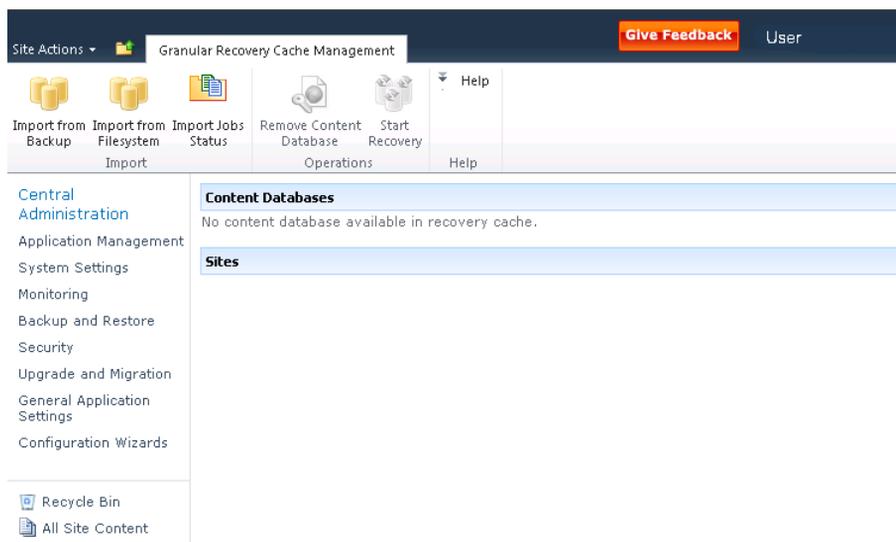


図 6 復旧キャッシュ管理(空の状態)

図7(40ページ)は、コンテンツデータベースがすでにマウントされているときに使用可能な[復旧キャッシュ管理]の機能を示しています。機能の概要については、表3(41ページ)を参照してください。

Site Actions ▾ **Granular Recovery Cache Management** Give Feedback User

Import from Backup
Import from Filesystem
Import Jobs Status
Remove Content Database
Start Recovery
Help

Import
Operations
Help

Central Administration
 Application Management
 System Settings
 Monitoring
 Backup and Restore
 Security
 Upgrade and Migration
 General Application Settings
 Configuration Wizards

Recycle Bin
All Site Content

Content Databases

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Sites

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

図 7 コンテンツデータベースがマウントされた状態の復旧キャッシュ管理

表 3 詳細復旧キャッシュ管理

<ul style="list-style-type: none"> ・ バックアップからのインポート コンテンツデータベースをHP Data Protectorのバックアップソリューションでバックアップした後で、[バックアップからのインポート]を使用してデータベースを一時的な場所に復元し、そのデータベースをMicrosoft SharePoint Serverにマウントします。 詳細については、「バックアップからのコンテンツデータベースのインポート」(41ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルシステムからのインポート コンテンツデータベースをファイルシステムに復元した場合は、[ファイルシステムからのインポート]を使用してコンテンツデータベースをMicrosoft SharePoint Serverにマウントします。 詳細については、「ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート」(45ページ)を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ インポートジョブのステータス これにより、インポートジョブ(バックアップまたはファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート処理)のステータスを監視することができます。 詳細については、「詳細復旧インポートジョブの監視」(59ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧キャッシュから削除 復旧コンテンツデータベースをMicrosoft SharePoint Serverからアンマウント(コンテンツデータベースを詳細復旧キャッシュから削除)し、データベースファイルをディスクから削除します。 詳細については、「キャッシュからのコンテンツデータベースの削除」(59ページ)を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧の開始 これは、復旧コンテンツデータベースに格納されているオブジェクトを選択して復旧するために使用します。 これは、元のサイトからサイトコレクションの管理者も使用可能です([サイトアクション]→[サイト設定]→[詳細復旧])。 詳細については、「[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行」(48ページ)および「サイトアイテムの復旧」(49ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルサイトURL オリジナルサイトへのリンクです。 ・ 復旧サイトURL 復旧サイトへのリンクです。

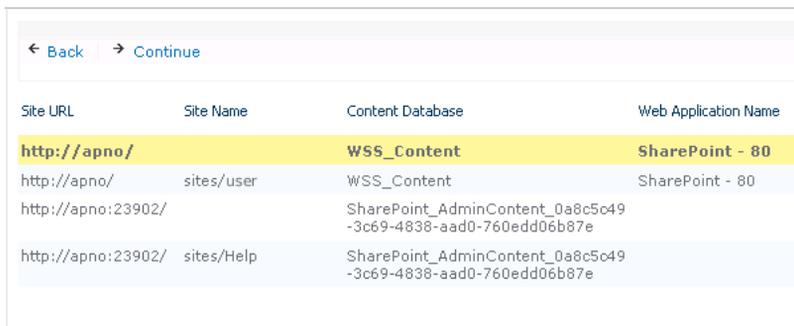
バックアップからのコンテンツデータベースのインポート

前提条件

インポート先のMicrosoft SQL Serverシステム上に、インポートするコンテンツデータベースに対して十分なディスクスペースが必要です。

手順

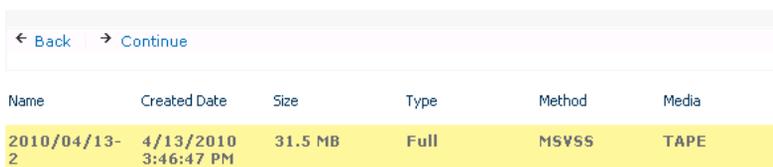
1. [復旧キャッシュ管理]ページで[バックアップからのインポート]をクリックします。[サイトコレクション選択]ページが表示されます。復旧するサイトのコンテンツデータベースを選択し、[続行]をクリックします。



Site URL	Site Name	Content Database	Web Application Name
http://apno/		WSS_Content	SharePoint - 80
http://apno/	sites/user	WSS_Content	SharePoint - 80
http://apno:23902/		SharePoint_AdminContent_0a8c5c49-3c69-4838-aad0-760edd06b87e	
http://apno:23902/	sites/Help	SharePoint_AdminContent_0a8c5c49-3c69-4838-aad0-760edd06b87e	

図 8 [サイトコレクション選択]ページ

2. [バックアップバージョン選択]ページで、復元するコンテンツデータベースのバージョンを選択し、[続行]をクリックします。



Name	Created Date	Size	Type	Method	Media
2010/04/13-2	4/13/2010 3:46:47 PM	31.5 MB	Full	MSVSS	TAPE

図 9 [バックアップバージョン選択]ページ

3. 以下のように、[コンテンツデータベース復旧]ページが表示されます。

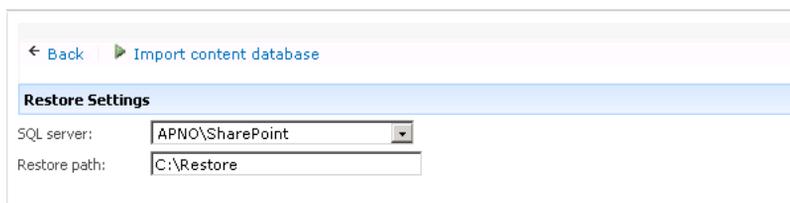


図 10 [コンテンツデータベース復旧]ページ

[SQL Server]ドロップダウンリストで、インポート先のMicrosoft SQL Serverインスタンスを選択します。新しいパスを指定して、デフォルトの復元場所を変更することが可能です。デフォルトの復元場所はC:\Restoreです。

注記:

Microsoft SQL Serverがクラスター内で構成されている場合は、復元場所がMicrosoft SQL Serverのクラスター共有ディスクに存在することを確認してください。

[コンテンツデータベースのインポート]をクリックします。

4. 必要に応じて、ジョブのステータスを監視するために[続行]をクリックします。[詳細復旧インポートジョブのステータス]ページが以下のように表示されます。

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
9528425a-7973-4110-9b84-d64ab0632416	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History
No import of content databases to recovery cache performed.

図 11 ジョブのステータスの監視

5. [復旧キャッシュ管理]をクリックして[復旧キャッシュ管理]ページに戻ります。コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされます。

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

図 12 復旧キャッシュ管理

注記:

コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされると、[コンテンツ復旧の実行]タスクがサイトコレクションの管理者に割り当てられます。詳細については、「[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行」(48ページ)を参照してください。

ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート

前提条件

- ・ コンテンツデータベースはファイルシステムに復元する必要があります。
- ・ Windows SharePoint Services Timerサービスを実行しているユーザーアカウントに、コンテンツデータベースへのフルコントロールのアクセス許可が付与されている必要があります。

留意事項

- ・ Microsoft SQL Serverデータベースプライマリデータファイル、およびすべてのトランザクションログファイルは、ネットワーク共有からはインポートできません。
- ・ サイトがすでに復旧キャッシュ管理に存在していて、そのサイトに対してファイルシステムからのインポートセッションを実行する場合、新しいURLは以下のようになります。
 - ・ `http://computer.company.com:38000/OriginalNameSequenceNumber`
 - ・ `http://computer.company.com:25884/SequenceNumber`
(ルートサイト)
- ・ オリジナルサイトが[復旧キャッシュ管理]に存在しない場合、サイトのURLは変更されません。
- ・ ルートサイトが存在しない場合、復元セッション中に[復旧キャッシュ管理]で空の文字列が使用され、ルートサイトのURLが以下のURLに変更されます。
`http://computer.company.com:25884/SequenceNumber`

手順

1. [復旧キャッシュ管理]ページで[ファイルシステムからのインポート]をクリックします。

2. [コンテンツデータベースのデータの入力]ページで、Microsoft SQL Serverデータベースプライマリデータファイル`AbsolutePath.mdf`およびすべてのトランザクションログファイル`AbsolutePath.ldf`の場所を指定します。**[追加]**をクリックします。

[続行]をクリックします。

Central Administration > Enter content database data
Specify database files

← Back → Continue

Database File Location

Database file path: Add

Database Files

File path

C:\Restore\2010-09-16-2\C\Program Files\Microsoft Office Servers\14.0\Data\MSSQL10.SHAREPOINT\MSSQL\DATA\WSS_Content.mdf	Remove
C:\Restore\2010-09-16-2\C\Program Files\Microsoft Office Servers\14.0\Data\MSSQL10.SHAREPOINT\MSSQL\DATA\WSS_Content_log.LDF	Remove

図 13 コンテンツデータベースのファイルの指定

3. [SQL Server]ド롭ダウンリストで、インポート先のMicrosoft SQL Serverインスタンスを選択します。

Give Feedback User

Central Administration > Import content database
Click **Import content database** to start import.

← Back ▶ Import content database

Import Settings

SQL server: APNO\SharePoint

Database name: WSS_Content

Version: 20100916170737

図 14 ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート

コンテンツデータベースの名前とバージョンが自動的に入力されます。このデータベースの名前とバージョンは、必要に応じて変更することができます。

[コンテンツデータベースのインポート]をクリックします。

4. 必要に応じて、ジョブのステータスを監視するために[続行]をクリックします。
[詳細復旧インポートジョブのステータス]ページが以下のように表示されます。

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
9528425a-7973-4110-9b84-d64ab0632416	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History
No import of content databases to recovery cache performed.

図 15 ジョブのステータスの監視

5. [復旧キャッシュ管理]をクリックして[復旧キャッシュ管理]ページに戻ります。
コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされます。

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

図 16 復旧キャッシュ管理

注記:

コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされると、[コンテンツ復旧の実行]タスクがサイトコレクションの管理者に割り当てられます。
詳細については、「[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行」(48ページ)を参照してください。

[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行

前提条件

- ・ バックアップからのコンテンツデータベースのインポート、(41 ページ)またはファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート、(45 ページ)に従って、コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされている必要があります。
- ・ 復旧するサイトの**サイトコレクションの管理者**である必要があります。

Central Administration ▶ Administrator Tasks : All Tasks ▼
An Administrator Tasks list is created by the system to contain actions required of Farm Administrators.

Search

<input type="checkbox"/>	Type	 Title	Action	Associated Service	System Task	<input type="checkbox"/> Assigned To	Status	Order	Due Date
<input type="checkbox"/>		 Perform content recovery 2010/09/17 -3  NEW	Perform granular recovery			User	Not Started	20	10/8/2010

図 17 [コンテンツ復旧の実行]タスク

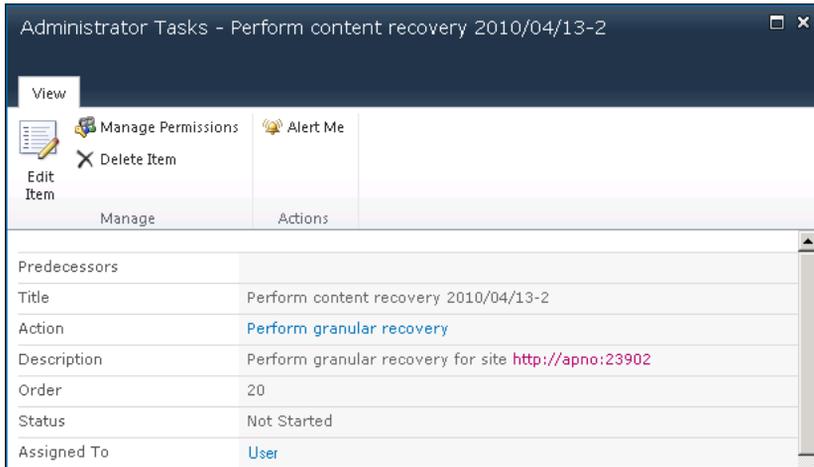


図 18 [コンテンツ復旧の実行]リンク

手順

1. [コンテンツ復旧の実行]タスクのリンクをクリックします。[オブジェクトのブラウズと選択]ページが表示されます。
2. 「[サイトアイテムの復旧](#)」(49ページ)のステップ2に進みます。

サイトアイテムの復旧

前提条件

- すべてのフロントエンドWebサーバーシステム上に、復旧するサイトアイテムに対して十分なディスクスペースが必要です。デフォルトの復旧先はC:\\$Recoveryです。このデフォルトのパスを変更する場合は、「[HP Data Protector Granular Recovery Extension の設定の変更](#)」(60ページ)を参照してください。
- 復旧するサイトの[サイトコレクションの管理者](#)である必要があります。
- 復旧コンテンツデータベースがMicrosoft SharePoint Serverにマウントされている必要があります。
- 元のサイトが存在しない場合は、空のサイトを作成して、[\[既存を上書き\]](#)復旧モードを使用します。[\[復旧キャッシュ管理\]](#)で復旧するサイトの[ファーム管理者](#)である必要があります。復旧したサイトにサブサイトがある場合は、クイックリンクとトップナビゲーションバーがリストの最後に再配置されます。
- サイトのURLパスが260文字以下であることを確認します。

[存在する場合は名前を変更]復旧モードを使用する場合は、URLパスが255文字未満である必要があります。

留意事項

- ・ 復旧するデータが復旧先にすでに存在する場合は、復旧モードに応じて、以下の事項に留意してください。
 - ・ **[存在する場合は名前を変更]**:ファイル、フォルダ、およびアイテムは、別の名前 (*OriginalName_DPGRE_Timestamp*) で復旧されます。たとえば、2009年11月17日10時59分35秒にファイル wizard.txt の復旧を開始したとします。このファイルの復旧後の名前は wizard_DPGRE_20091117-105935.txt になります。
テンプレート、ドキュメント、およびタスクアイテムは復旧されません。また名前が元の場所に変更されることもありません。
 - ・ **[既存を置き換えない]**:ファイル、フォルダ、およびアイテムは復旧されません。
 - ・ **[既存を上書き]**:ファイル、フォルダ、およびアイテムは元の名前で復旧され、既存のファイル、フォルダ、およびアイテムが置き換えられます。たとえば、既存の Microsoft SharePoint Server アイテム (ドキュメントライブラリ) は、バックアップデータからのアイテムによって上書きされます。ただし、リストとサイトだけは上書きされません。
- ・ 復旧対象のデータが復旧先に存在しない場合、データは元の名前で復旧されます。
- ・ リストアイテム (お知らせ、連絡先、リンク、カレンダー、またはタスク) は、復旧モードに応じて、別の場所に復旧されるか、他のファームに2回復旧されます。
 - ・ **[既存を上書き]**:リストアイテムは同じ名前と別のIDで複製されます。同じ名前のアイテムを削除してください。
 - ・ **[存在する場合は名前を変更]**:リストアイテムは、名前の変更がサポートされていない種類であっても、名前が変更されます。
- ・ 添付ファイルや返信のあるディスカッションアイテム、回答のある調査が **[既存を上書き]** 復旧モードで復旧される場合、アイテムは上書きされますが、添付ファイル、返信、回答は復旧されません。データの消失を防ぐには、復旧セッションを開始する前に、添付ファイル、返信、または回答を削除します。
- ・ 復旧対象として同じアイテムを選択している場合を除き、複数の復旧セッションを同時に実行できます。
- ・ 複数のファーム管理者またはサイトコレクションの管理者が同時にオブジェクトをブラウズできます。

- ・ ドキュメントのワークフローステータスを復旧するには、復旧先のサイトでテンプレートおよび関連付けを作成してください。ワークフローステータスは、他のファームに復旧できません。
- ・ ワークフロー履歴は復旧できません。

手順

1. [復旧キャッシュ管理]ページで、復旧するコンテンツデータベースおよびサイトを選択します。複数のサイトのデータがコンテンツデータベースに含まれていることがあるので注意してください。

💡 ヒント:

複数のサイトからアイテムを復旧する場合は、Ctrlキーを押しながら[サイト]で特定のサイトを複数選択し、[復旧の開始]をクリックします。

また、Shiftキーを押しながら[サイト]で一連のサイトを選択し、[復旧の開始]をクリックすることも可能です。

The screenshot shows the HP Data Protector Granular Recovery Cache Management interface. The top navigation bar includes 'Site Actions', 'Granular Recovery Cache Management', 'Give Feedback', and 'User'. Below the navigation bar are icons for 'Import from Backup', 'Import from Filesystem', 'Import Jobs Status', 'Remove Content Database', and 'Start Recovery'. The main content area is divided into two sections: 'Content Databases' and 'Sites'. The 'Content Databases' section contains a table with the following data:

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	User

The 'Sites' section contains a table with the following data:

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites/	http://apno:38000/sites/

図 19 復旧するコンテンツデータベースと複数のサイトの選択

📖 注記:

または、以下の方法で復旧セッションを開始することもできます。

- 元のWebサイトに接続します。[サイトアクション]メニューで、[サイト設定]を選択します。[サイト設定]ページで、HP Data Protector Granular Recovery Extensionを探します。[詳細復旧]をクリックします。
- サイトタスクを実行します。詳細については、「[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行」(48ページ)を参照してください。

2. [オブジェクトのブラウズと選択]ページで、復旧するサイトアイテムを選択します。

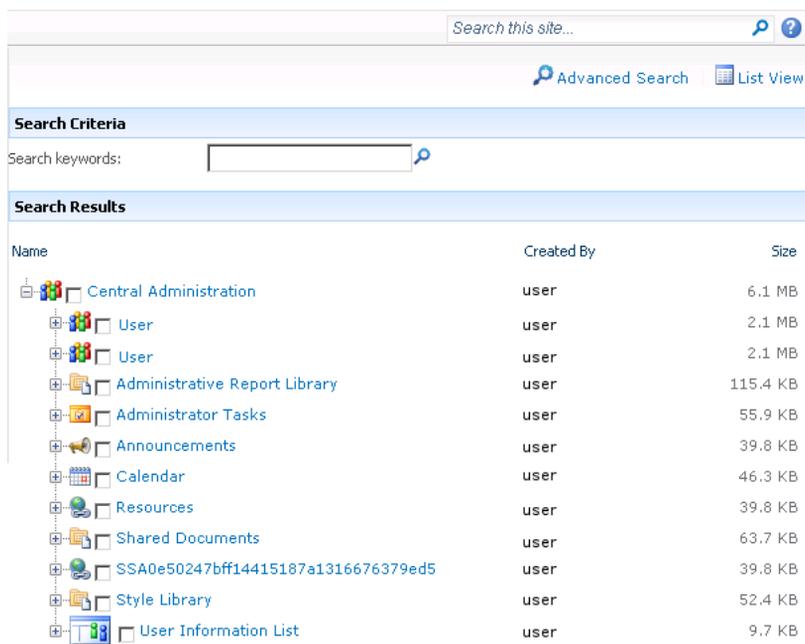


図 20 サイトアイテムの選択

 **注記:**

どのアイテムも、アイテム名をクリックするとプレビューできます。

 **ヒント:**

一覧表示されているアイテムを複数選択するには、Ctrlキーを押しながら特定のアイテムを選択します。また、Shiftキーを押しながら一連のアイテムを選択することもできます。

Central Administration ▶ Browse and Select Objects
Select items for recovery.

Search this site...

→ Continue Quick Search List View

Search Criteria

Find documents with...

All of these words:

The exact phrase:

Any of these words:

None of these words:

Narrow the search...

Result type: All Results

Add property restrictions...

Where the Property... (Pick Property) Equals And Add Property...
Search

図 21 高度な検索

 **ヒント:**

高度な検索を使用して、アイテムをフィルタ処理することができます。たとえば、[結果の種類]で[Microsoft Office Wordドキュメント]を選択し、[プロパティ制限の追加]でプロパティを選択し、[検索]をクリックします。

高度なクイック検索の詳細については、*Microsoft SharePoint Server*ヘルプを参照してください。

一覧表示されているアイテムを複数選択するには、Ctrlキーを押しながら特定のアイテムを選択します。また、Shiftキーを押しながら一連のアイテムを選択することもできます。

[続行]をクリックします。

3. [復旧オブジェクト]ページに、選択したサイトアイテムが表示されます。

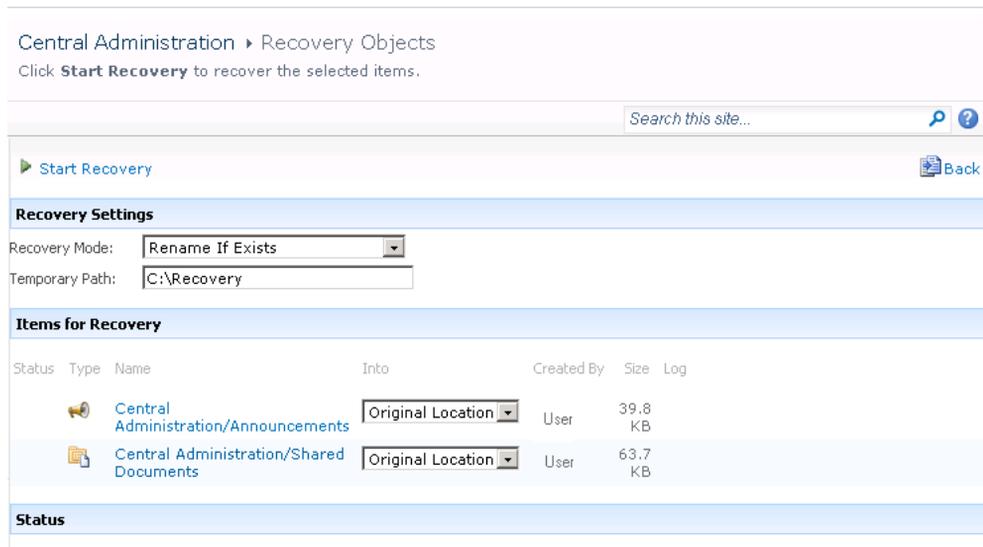
 **注記:**

[復旧モード]ドロップダウンリストには以下のオプションがあります。

- ・ [存在する場合は名前を変更]:ファイルやフォルダなどのアイテムは、新しい名前(*OriginalName_DPGRE_Timestamp*)で復旧されます。
- ・ [既存を置き換えない]:アイテムは復旧されません。既存のアイテムは復旧先で同じ状態のままです。
- ・ [既存を上書き]:既存のアイテムが、復旧したアイテムによって置き換えられます。

 **ヒント:**

カレンダーの毎週のチームミーティングなど、繰り返されるイベントを復旧するときは、[既存を上書き]復旧モードを選択する前に、繰り返されるイベントをすべて削除してください。



Central Administration > Recovery Objects
Click **Start Recovery** to recover the selected items.

Search this site...

Start Recovery [Back](#)

Recovery Settings

Recovery Mode:

Temporary Path:

Items for Recovery

Status	Type	Name	Info	Created By	Size	Log
		Central Administration/Announcements	<input type="text" value="Original Location"/>	User	39.8 KB	
		Central Administration/Shared Documents	<input type="text" value="Original Location"/>	User	63.7 KB	

Status

 **図 22 サイトアイテムの復旧**

[一時パス]オプションでは、復旧に使用するMicrosoft SharePoint Serverシステム上の場所を指定します。

 注記:

[復元先]ドロップダウンリストでは、復旧先を以下のように指定します。

- ・ [元の場所]:アイテムは元のサイトの元の場所に復旧されます。
 - ・ [他の場所]:アイテムは、他のサイト、または元のサイトの他の場所に復旧されます。これは、元のサイトが消失してしまっている場合に使用します。
 - ・ [他のファーム]:アイテムは、別の復旧先ファームに復旧されます。
 - ・ [ファイルシステム]:アイテムは、ファイルシステムのディレクトリに復旧されます。このオプションはファイルおよびフォルダに対してのみ使用できます。
-

- ・ [他の場所]を選択した場合は、[他の場所へ復旧]ダイアログボックスが表示されます。



図 23 別の場所へのサイトアイテムの復旧

[サイト]ドロップダウンリストで復旧先サイトを選択します。

[同じ種類のすべてのアイテムに適用]オプションを選択した場合は、同じ種類のアイテム(カレンダーアイテムなど)が同じ場所に復旧されます。

[OK]をクリックします。

 **ヒント:**

[他の場所へ復旧]ダイアログボックスには、サイトのうち、十分なパーミッションを保有しているサイトが一覧表示されます。たとえば、サイトコレクションの管理者の場合、構成データベースの読み取り権限が付与されている必要があります。

- ・ [他のファーム]を選択した場合は、[他のファームへ復旧]ダイアログボックスが表示されます。

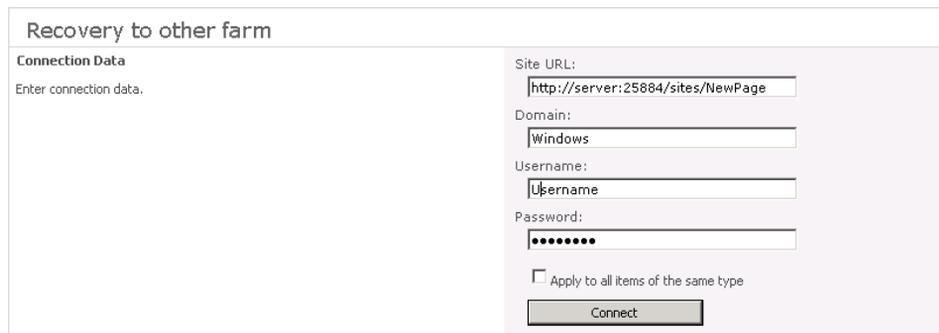


図 24 別のファームへのサイトアイテムの復旧

復旧先のファームと、使用するWindowsドメインのユーザーアカウントを指定します。

[同じ種類のすべてのアイテムに適用]オプションを選択した場合は、同じ種類のアイテム(カレンダーアイテムなど)が同じファームに復旧されます。

[接続]をクリックします。

- ・ [ファイルシステム]を選択した場合は、[ファイルシステムへ復旧]ダイアログボックスが表示されます。



図 25 ネットワーク共有へのサイトアイテムの復旧

[パス]で復旧先ディレクトリを指定します。

ネットワーク共有を復旧先として指定するときは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 復旧セッションを開始するユーザーに、読み取り、書き込み、および変更パーミッションが付与されている。
- ・ 必要なすべてのパーミッションがネットワーク共有に付与されている。**Web Recovery Application**および**SharePoint Central Administration v3**アプリケーションプールで構成されているユーザーアカウントに指定されているものと同じパーミッションを付与してください。詳細については、「[インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認](#)」(34ページ)を参照してください。
- ・ 復旧セッションを開始した、Windows SharePoint Services Webアプリケーションが実行されているシステムから、そのネットワーク共有にアクセスできる。

復旧先としてフォルダを指定するときは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ Windows SharePoint Services Webアプリケーションが実行されているシステムから、そのフォルダにアクセスできる。
- ・ 復旧セッションを開始するユーザーに、読み取り、書き込み、および変更パーミッションが付与されている。

[すべてのファイルとフォルダに適用]オプションを選択した場合は、すべてファイルとフォルダが同じディレクトリに復旧されます。

[OK]をクリックします。

4. [復旧の開始]をクリックします。

復旧が完了すると、指定した復旧先にアイテムが復旧されます。

キャッシュからのコンテンツデータベースの削除

手順

コンテンツデータベースは3週間使用できます。その後は、キャッシュから自動的に削除されます。コンテンツデータベースを復旧キャッシュから手動で削除するには、以下の手順を実行します。

1. [復旧キャッシュ管理]ページで、削除するコンテンツデータベースを選択し、[復旧キャッシュから削除]をクリックします。[復旧キャッシュから削除]ページが表示されます。
2. コンテンツデータベースのファイルをディスクに残しておくには、[ディスクからファイルを削除]オプションをオフにします。
[削除]をクリックします。

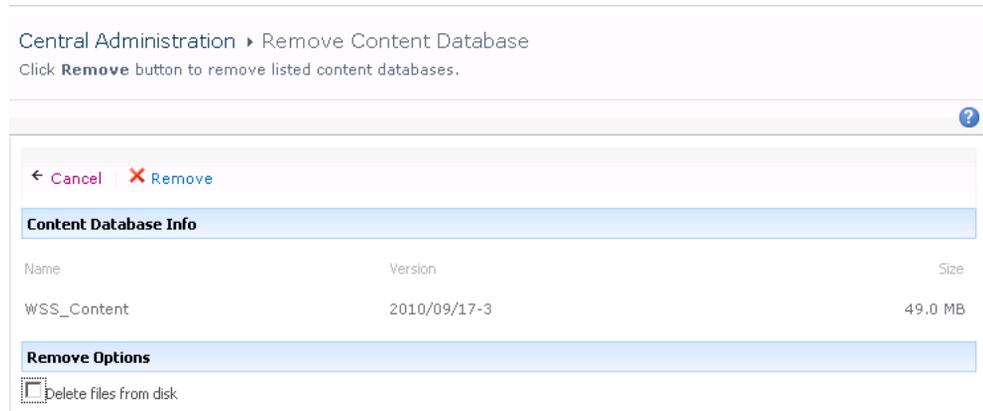


図 26 コンテンツデータベースの削除

詳細復旧インポートジョブの監視

手順

1. [サーバーの全体管理]Webページに接続します。
2. Microsoft Office SharePoint Server 2007特有: [操作]タブをクリックします。

- HP Data Protector Granular Recovery Extensionを探して、[詳細復旧ジョブのステータス]をクリックします。[詳細復旧インポートジョブ]ページが表示されます。
- コンテンツデータベースのインポートセッションを開始すると、HP Data Protector Granular Recovery Extensionでインポートジョブの進行状況の監視が開始されます。

Central Administration ▶ Granular Recovery Import Job Status
Click **Refresh** to update jobs list.

Refresh Clear History Recovery Cache Management

Active

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
1021ebca-05b3-4637-9a90-27e9069e5111	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History

Status	ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
	93a17a01-0ec4-421b-8b7d-4778ecec0a14	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/09/16-2	user	9/16/2010 3:40:22 PM	9/16/2010 3:42:13 PM	<ul style="list-style-type: none"> Checking disk space Restoring Mounting Creating recovery cache remove job Starting recovery cache content source crawl Posting recovery tasks to site collection administrators

図 27 インポートジョブの進行状況の監視

必要に応じて、復旧ジョブの完了後にジョブステータスが不要になった場合は[履歴のクリア]をクリックします。

進行中の操作を停止するには、[中止]をクリックします。

HP Data Protector Granular Recovery Extensionの設定の変更

詳細復旧セッションでは、選択したMicrosoft SQL Serverシステムの一時的な場所(デフォルトではC:\Restore)に、まずコンテンツデータベースが復旧されます。

サイトアイテムは、復旧される前にMicrosoft SharePoint Serverシステム上の一時的な場所(デフォルトではC:\Recovery)にコピーされます。

手順

1. これらのデフォルトの場所を変更するには、[サーバーの全体管理]Webページに接続します。
2. Microsoft Office SharePoint Server 2007特有: [操作]タブをクリックします。
HP Data Protector Granular Recovery Extensionを探して、[詳細復旧設定]をクリックします。
3. [詳細復旧設定]ページで、新しい復旧場所または一時復旧場所を入力し、[OK]をクリックします。

Product Version View Granular Recovery Extension version.	Version 6.11.28.1500
Default SQL Server for Import Select default SQL Server for import of content database.	SQL server <input type="text" value="APNO\SharePoint"/>
Restore Location Specify path on SQL server to which selected content database will be restored during import from backup.	Path <input type="text" value="C:\Restore"/> Example: c:\Restore
Temporary Location for Recovery Specify path for temporary files created during recovery.	Path <input type="text" value="C:\Recovery"/> Example: c:\Recovery

図 28 詳細復旧設定の変更

6 コマンド行リファレンス

使用するコマンド行ツールHP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exeは、以下の場所にあります。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

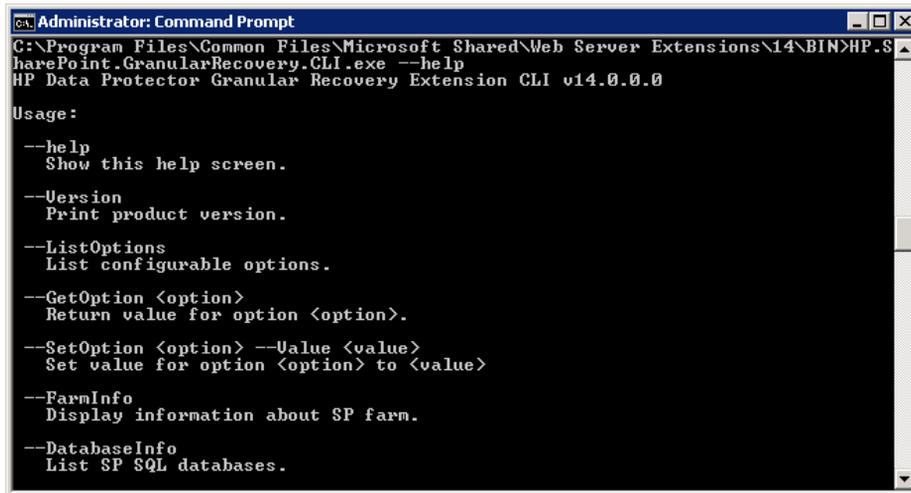
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN

オプションの説明と使用方法を表示するには、以下のコマンドを実行します。

HP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exe --help.



```
Administrator: Command Prompt
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN>HP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exe --help
HP Data Protector Granular Recovery Extension CLI v14.0.0.0

Usage:

--help
  Show this help screen.

--Version
  Print product version.

--ListOptions
  List configurable options.

--GetOption <option>
  Return value for option <option>.

--SetOption <option> --Value <value>
  Set value for option <option> to <value>

--FarmInfo
  Display information about SP farm.

--DatabaseInfo
  List SP SQL databases.
```

図 29 コマンド行ヘルプの表示

 注記:

以下の例では、簡単にするためにHP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exeが省略されています。

例

Data Protectorバックアップからのコンテンツデータベースの復元

- WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193という名前のコンテンツデータベースのバックアップバージョンをすべて一覧表示するには、以下のように指定します。
--ListBackupVersions --ContentDB=WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193

ジョブの進行状況の監視

- 開始されたコンテンツデータベースのジョブをすべて一覧表示するには、以下のように指定します。
--ListJobs

- バックアップバージョン「2010/04/20-4」からデフォルトの復元場所C:¥Restoreにコンテンツデータベースをインポートして復元ジョブを開始するには、以下のように指定します。

```
--StartImportJob
--ContentDB WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193
--BackupID "2010/04/20-4" --Server computer
--Instance OFFICESERVERS --TargetLocation C:¥Restore
```

- Microsoft SharePoint Serverのファイルシステムからデフォルトの復元場所C:¥Restoreにコンテンツデータベースをインポートして復元ジョブを開始するとします。

Microsoft SQL ServerデータベースプライマリデータファイルがWSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193.mdfで、SQL ServerトランザクションログファイルがWSS_Content054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193_log.LDFである場合は、以下のように指定します。

```
--StartImportJob
--ContentDB WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193
--BackupID "2010/04/20-4" --Server computer
--Instance OFFICESERVERS
--Files="C:¥Restore¥WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193.mdf";"C:¥Restore¥WSS_Content054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193_log.LDF"
--TargetLocation C:¥Restore
```

復元先のディスク容量の確認

- デフォルトの復元先C:¥Restoreの空き容量を確認するには、以下のように指定します。

```
--QueryServerInfo --Server computer --Instance OFFICESERVERS --TargetLocation C:¥Restore
```

この場合、コンテンツデータベースのすべてのファイルの場所がツリー構造で一覧表示されます。

コンテンツデータベースの一覧表示

- バックアップバージョンを含め、復旧キャッシュのすべてのコンテンツデータベースを一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListCache --All
```

- コンテンツデータベースの詳細情報を一覧表示するには、以下のように指定します。

--ListCache --Verbose

復元ジョブの削除

- ・ 復元ジョブのステータスをすべて削除するには、以下のように指定します。
--DeleteAllJobs Confirm
- ・ 特定の復元ジョブを削除するには、以下のように指定します。
--DeleteJob=JobID
- ・ アクティブでない復元ジョブをすべて中止するには、以下のように指定します。
--DeleteJob=JobID

オリジナルサイトへのサイトアイテムの復旧

- ・ サイトhttp://computer.company.com:25884/sites/AnikyBからバックアップされたサイトアイテム/Shared Documents/Document.txtを復旧するとします。また、復旧サイトはhttp://computer.company.com:38000/sites/AnikyBであるとします。サイトアイテムを元の場所に復旧するには、以下のように指定します。

```
--Recover
--Source http://computer.company.com:38000/sites/AnikyB
--Destination http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB
--TempLocation="C:¥Recovery"
--Items "/Shared Documents/Document.txt"
```

復旧セッションが完了すると、以下のメッセージが表示されます。

```
recovery ended, object status:object:[/Shared Documents/Document.txt] destination:
[/Shared Documents/Document_MOSSGR_24032010-024302.txt]
status:Finished status details:[recovered to
[http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB//Shared Documents]]
```

別の場所へのサイトアイテムの復旧

- ・ サイトアイテム"/Shared Documents/Document.txt"をMy Documentsに復旧するには、以下のように指定します。

```
--Recover
--Source http://computer.company.com:38000/sites/AnikyB
--Destination http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB
--TempLocation="C:¥Recovery"
--Items "/Shared Documents/Document.txt:/My Documents"
```

キャッシュからのコンテンツデータベースの削除

- ・ キャッシュからデータベースを削除するには、以下のように指定します。
`--RemoveFromCache --ContentDB DatabaseName--BackupIDBackupID`
- ・ キャッシュからコンテンツデータベースをすべて削除するには、以下のように指定します。
`--RemoveFromCache --All`

ディスクからのコンテンツデータベースの削除

- ・ あるコンテンツデータベースをキャッシュから削除した後、それをディスクから削除するには、以下のように指定します。
`--RemoveFromCache --ContentDB DatabaseName --DeleteFiles`

コンテンツデータベースの自動削除の設定

- ・ コンテンツデータベースがキャッシュから削除され使用できなくなるまでの時間(日数)を表示するには、以下のように指定します。
`--GetOption RecoveryDatabaseAutoCleanupDays`
- ・ コンテンツデータベースがキャッシュから自動的に削除され使用できなくなるまでの時間を設定するには、以下のように指定します。
`--SetOption RecoveryDatabaseAutoCleanupDays --Value number_of_days`

コンテンツデータベースからのアイテムのエクスポート

- ・ あるアイテムをコンテンツデータベースからエクスポートするには、以下のように指定します。
`--Export --Source source --Location path
--Item item`
- ・ 複数のアイテムをコンテンツデータベースからエクスポートするには、以下のように指定します。
`--Export --Source source --Location path
--Items item1 item2 item3`

 **注記:**

ワークフローはエクスポートできません。

エクスポートするアイテムの一覧表示

- ・ エクスポートするアイテムを一覧表示するには、以下のように指定します。
--ListExport --Location

コンテンツデータベースからのアイテムのインポート

- ・ あるアイテムをコンテンツデータベースからインポートするには、以下のように指定します。
--Import --Destination *destination* --Location *path*
--Item *item*
- ・ 複数のアイテムをコンテンツデータベースからインポートするには、以下のように指定します。
--Import --Destination *destination* --Location *path*
--Items *item1 item2 item3*

 **注記:**

ワークフローはインポートできません。

Microsoft SharePointファームの情報の表示

- ・ ファームの詳細情報(名前、表示名、アドレス、タイプ名、ロール、バージョン、ステータス、そのファームで実行されているすべてのサービスなど)を表示するには、以下のように指定します。
--FarmInfo

コンテンツデータベースの情報の表示

- ・ コンテンツデータベースの情報(Office Servers、Shared Services、SharePoint構成、SharePoint Services Search、復旧Webアプリケーション、Shared Services Content、

SharePoint Admin Content、コンテンツデータベース名など)を表示するには、以下の
ように指定します。

--DatabaseInfo

サイトの一覧の表示

- ・ Webアプリケーション名、サイトのURL、コンテンツデータベース名、そのコンテンツデータベースのすべてのサイトを表示するには、以下のよう
に指定します。

--ListSites

サイトの参照

- ・ マイサイトの構造およびアイテム(フォーム、リスト、テンプレートギャラリー、マスター
ページギャラリー、個人用ドキュメント、共有ドキュメント、共有画像、サイトテンプレ
ートギャラリー、ユーザー情報リスト、Webパーツギャラリーなど)を参照するには、以下の
ように指定します。

--BrowseSite --Site <http://ivanka/personal/anikyb>

詳細復旧のバージョンの表示

- ・ 詳細復旧のバージョンを表示するには、以下のよう
に指定します。

--Version

7 トラブルシューティング

デバッグエントリおよびログを含むフォルダは、次のフォルダにあります。

- Microsoft Office SharePoint Server 2007:
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\LOGS\GranularRecovery
- Microsoft SharePoint Server 2010:
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS\GranularRecovery

このフォルダには、debugs.txt、debugs_cliproxy.txt、note.txt、およびnote_cliproxy.txtファイルがあります。フォルダの場所は、Microsoft SharePoint Serverのインストール先により異なる場合があります。

インポートジョブが失敗する

問題

[バックアップからのインポート]を実行した後、復元中フェーズでの失敗ステータスが[詳細復旧インポートジョブのステータス]で報告されます。

Central Administration ▶ Granular Recovery Import Job Status
Click **Refresh** to update jobs list.

Refresh Clear History Recovery Cache Management

Active
No import of content database to recovery cache is in progress.

History

Status	ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
✖	1021ebca-05b3-4637-9a90-27e9069e5111	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user	9/16/2010 4:25:37 PM	9/16/2010 4:26:58 PM	<ul style="list-style-type: none"> ✔ Checking disk space ✖ Restoring - Restore failed.

図 30 不十分なユーザー権限での復元の失敗

対処方法

Windows SharePoint Services Timerサービスを実行しているユーザーアカウントに、Data Protectorの[復元の開始]および[プライベートオブジェクトを表示]の各ユーザー権限が割り当てられていることを確認します。たとえば、Windows SharePoint Services Timerサービスがネットワークサービスアカウントで実行されている場合は、次の手順に従います。

1. Data Protector GUI ([Data Protector Manager])を開きます。
2. コンテキストリストで[ユーザー]を選択します。[復元の開始]および[プライベートオブジェクトを表示]ユーザー権限を持つユーザーグループを右クリックし、[ユーザーの追加/削除]をクリックします。

[ネットワークサービス]ユーザーアカウントは以下のプロパティで構成されているはずです。

- ・ 名前:ネットワークサービス
- ・ ドメイン/グループ:NT Authority
- ・ クライアントシステム:任意

詳細については、「[HP Data Protectorのユーザー権限の構成](#)」(31ページ)を参照してください。

復旧セッションが失敗する

問題

オリジナルのWebサイトに接続して復旧セッションを開始した場合に、以下のメッセージが表示されます。

このサイトhttp://computer:25884/sites/User!に使用できる復旧はありません。
詳細については、詳細復旧管理者にお問い合わせください!

対処方法

この問題の根本的な原因は、コンテンツデータベースがキャッシュ内に存在しないことです。インポートジョブを実行してください。

マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない

問題

新しいサイトコレクション、新しいWebアプリケーションを作成し、新しいサイトコレクションをバックアップした後、マイサイトで[サイトアクション]→[サイト設定]→[詳細復旧]の順に選択すると、マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできません。以下のメッセージが表示されます。

サイトの“App_GlobalResources”フォルダにGRリソースファイルが見つかりません。

対処方法

[サーバーの全体管理]を開きます。

- ・ Microsoft Office SharePoint Server 2007:
[操作]タブの[グローバル構成]で[ファーム機能の管理]を選択します。
- ・ Microsoft SharePoint Server 2010:
[システム設定]で[ファーム機能の管理]を選択します。

[HP Data Protector Granular Recovery Extension]の[非アクティブ化]をクリックします。
[警告]ページが表示されます。この機能を非アクティブ化するリンクをクリックし、[ファーム機能の管理]に戻って[HP Data Protector Granular Recovery Extension]の[アクティブ化]をクリックします。

Central Administration ▶ Manage Farm Features	
This page allows you to manage SharePoint-wide features.	
Name	Status
"Connect to Office" Ribbon Controls	
 Adds entry points in the ribbon user interface for creating library shortcuts in the user's SharePoint Sites list if they have a recent version of Office installed. Office will periodically cache templates available in those libraries on the user's local machine.	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
Access Services Farm Feature	
 Adds farm-level Access Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
Data Connection Library	
 Adds Data Connection Library feature	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
Excel Services Farm Feature	
 Adds farm-level Excel Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
Excel Services Farm Feature	
 Adds farm-level Excel Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
FAST Search for SharePoint Master Job Provisioning	
 Provisions FAST Search for SharePoint Master Job.	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
Global Web Parts	
 Installs additional web parts common to all types of sites.	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>
HP Data Protector Granular Recovery Extension	
 HP Data Protector Granular Recovery Extension	<input type="button" value="Deactivate"/> <input checked="" type="button" value="Active"/>

図 31 [ファーム機能の管理]でのHP Data Protector Granular Recovery Extensionの非アクティブ化

マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない

問題

新しいサイトコレクション、新しいWebアプリケーションを作成し、新しいサイトコレクションをバックアップした後、[バックアップからのインポート]の手順を実行してから、マイサイト

で[サイトアクション]→[サイト設定]→[詳細復旧]の順に選択すると、マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできません。「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示されます。また、以下のデバッグエントリが表示されます。

[6 - Fatal] FATALデバッグ - Recovery.aspx:OnPreInit:- 例外:スレッドを中止しようとしてしました。

対処方法

アプリケーションプールのすべてのユーザーには、復旧Webアプリケーションでの読み取りパーミッションが付与されている必要があります。アプリケーションプールのユーザーアカウントに読み取りパーミッションを付与するには、次の手順に従います。

1. Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理システムに接続します。
 - ・ Microsoft Office SharePoint Server 2007:
[アプリケーション管理]をクリックし、[アプリケーションセキュリティ]の[Webアプリケーションのポリシー]をクリックします。
 - ・ Microsoft SharePoint Server 2010:
[アプリケーション管理]で、[Webアプリケーションの管理]→[Webアプリケーションの復旧]を選択し、[ユーザーポリシー]をクリックします。[Webアプリケーションのポリシー]が表示されます。
2. ユーザーを選択し、[選択したユーザーの権限を編集]をクリックします。[ユーザーの編集]ページが表示されます。[アクセス許可ポリシーレベル]で、[すべて読み取り-すべてに読み取り専用のアクセス権を持ちます。]オプションを選択し、[保存]ボタンをクリックします。

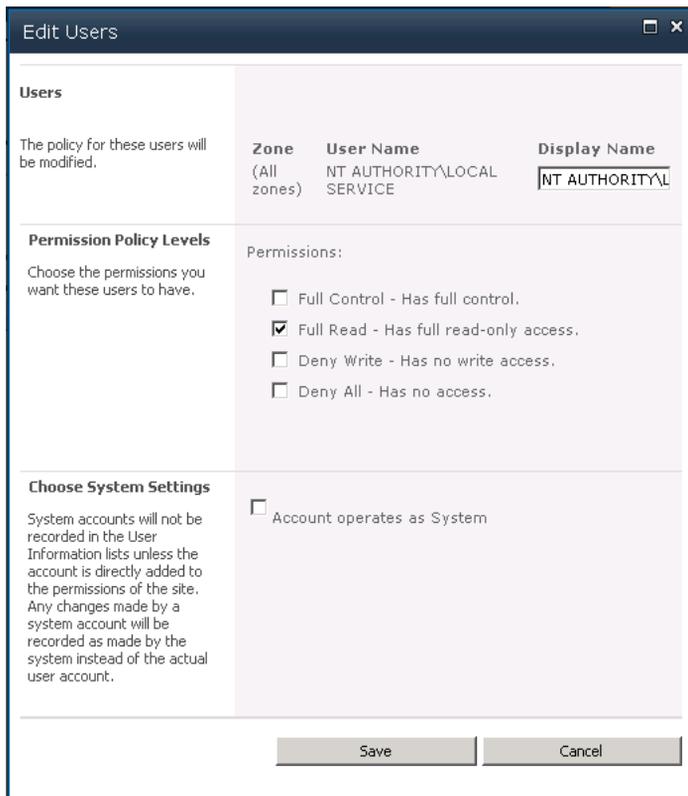


図 32 [すべて読み取り]権限の付与

コマンドラインインタフェースの応答が遅い

問題

HP Data Protector Granular Recovery Extensionのコマンド行インタフェースの応答が遅いのに気付くことがあります。たとえば、HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe --helpというコマンドを実行すると、使用方法が表示されるのに10秒から数分かかります。この問題の根本的な原因は、HP Data Protector Granular Recovery Extensionの署名の検証が完了するのに時間が相当かかることがあるためです。

対処方法

HP Data Protector Granular Recovery Extensionの署名の検証を無効にするために、Microsoft SharePoint ServerのBINフォルダでcliproxy.exeファイルとHP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exeファイルを探します。BINフォルダのパスは、デフォルトでは次のとおりです。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN

BINフォルダで、以下の内容が入力された構成ファイルcliproxy.exe.configおよびHP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe.configを作成します。

グラフィカルユーザーインターフェースの応答が遅い

問題

HP Data Protector Granular Recovery ExtensionのGUIの応答が遅いのに気付くことがあります。たとえば、バックアップまたはファイルシステムからコンテンツデータベースをインポートするときにこの現象が発生することがあります。この場合、インポートジョブがタイムアウトになって失敗することがあります。この問題の根本的な原因は、HP Data Protector Granular Recovery Extensionの署名の検証が完了するのにかかる時間が長すぎるためです。

対処方法

HP Data Protector Granular Recovery Extensionの署名の検証を無効にするために、Microsoft SharePoint ServerのBINフォルダでcliproxy.exeファイルとHP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exeファイルを探します。BINフォルダのパスは、デフォルトでは次のとおりです。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN

BINフォルダで、以下の内容が入力された構成ファイルcliproxy.exe.configおよびHP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe.configを作成します。

Data Protectorサービスが実行されていない

問題

ファイルシステムセッションからインポートを実行したときに、以下のメッセージが表示されます。必要なData Protectorサービスが実行されていません。

対処方法

1. [コントロールパネル]を開いて、[管理ツール]→[サービス]の順にダブルクリックします。
Data Protectorサービスを探して、その無効になっているサービスを右クリックし、[開始]をクリックして有効にします。
2. [バックアップバージョン選択]ページで、[戻る]をクリックしてセッションを終了します。

[復元中 - マウント要求を保留]ステータス

問題

バックアップセッションからのインポートを実行したときに、[詳細復旧インポートジョブのステータス]ページに[復元中 - マウント要求を保留]ステータスが表示されます。

対処方法

1. Data Protector GUI (Data Protector Manager)を開きます。
2. [モニター]コンテキストで、マウント要求の有無を確認します。マウント要求を確認し、バックアップセッションを再起動します。
3. バックアップセッションが終了したら、バックアップセッションからのインポートを再度実行します。

サブフォルダが元の場所に復旧されない

問題

Microsoft SharePoint Server 2010システムで、サブフォルダがあるフォルダを復旧するときに、親フォルダは復旧されますが、サブフォルダが復旧されません。

対処方法

ユーザーがフォルダを削除すると、Microsoft SharePoint Serverは、そのフォルダをサイトコレクションのごみ箱に入れます。フォルダとそのサブフォルダを元の場所に復旧するには、Granular Recovery Extensionを使用して次の手順を実行します。

1. サイトコレクションのごみ箱で、フォルダを選択して、[選択内容を削除]をクリックします。
2. フォルダの復旧セッションを再度実行します。

Granular Recovery Extensionのアップグレードに失敗する

問題

Microsoft Office SharePoint Server 2007からMicrosoft SharePoint Server 2010にアップグレードした後で、Granular Recovery Extension 1.00からHP Data Protector Granular Recovery Extensionにアップグレードしようとする、アップグレードに失敗し、以下のメッセージが表示されます。

同じ名前 “moss_gr-1.1.5037.1353.wsp” または ID “67f59f7b-5744-4f8f-98ea-94ea50a3db d3” を持つソリューションが既にソリューションストアに存在します。MOSS_GRE_2010.wsp:ソリューションのインストールが失敗しました。

“MOSS_GRE_2010.wsp”はソリューションストアに存在しません。完了しました。

対処方法

Microsoft Office SharePoint Server 2007からMicrosoft SharePoint Server 2010にアップグレードする前に、Granular Recovery Extension 1.00を削除します。その後、Microsoft

SharePoint Server 2010にアップグレードしてから、Granular Recovery Extensionコンポーネントをインストールしてください。

Granular Recovery Extensionコンポーネントのインストールに失敗する

問題

Granular Recovery Extensionコンポーネントを有効にした状態で、HP Data Protectorのインストールが失敗します。

対処方法

HP Data Protectorの標準インストール手順を使用せずに、HP Data Protector Granular Recovery Extensionを手動でインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファームの管理者**ユーザーアカウントでログオンします。
2. [スタート]メニューで、[コマンドプロンプト]を右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
3. 現在のディレクトリを、製品のインストールプロセス中に自己解凍アーカイブから抽出されたファイルがある `Data_Protector_home¥bin` ディレクトリに変更します。
4. `grm_install`を実行して、HP Data Protector Granular Recovery Extensionソリューションをインストールします。インストールが完了したら、次のメッセージが[コマンドプロンプト]ウィンドウに表示されます。

完了しました。

Granular Recovery Extensionの削除に失敗する

問題

HP Data Protectorを削除しても、HP Data Protector Granular Recovery Extensionが削除されません。

対処方法

HP Data Protectorの標準的な削除手順を使用せずに、HP Data Protector Granular Recovery Extensionを手動で削除するには、以下の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Serverサーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファームの管理者**ユーザーアカウントでログオンします。
2. [スタート]メニューで、[コマンドプロンプト]を右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
3. 現在のディレクトリを、製品のインストールプロセス中に自己解凍アーカイブから抽出されたファイルがある¥binディレクトリに変更します。
4. grm_uninstallを実行して、HP Data Protector Granular Recovery Extensionソリューションを削除します。削除処理が完了したら、次のメッセージが[コマンドプロンプト]ウィンドウに表示されます。

完了しました。

用語集

ACSL	(StorageTek固有の用語)Automated Cartridge System Library Server の略語。ACS(Automated Cartridge System:自動カートリッジシステム)を管理するソフトウェア。
Active Directory	(Windows固有の用語)Windowsネットワークで使用されるディレクトリサービス。ネットワーク上のリソースに関する情報を格納し、ユーザーやアプリケーションからアクセスできるように維持します。このディレクトリサービスでは、サービスが実際に稼動している物理システムの違いに関係なく、リソースに対する名前や説明の付加、検索、アクセス、および管理を一貫した方法で実行できます。
AES 256-ビット暗号化	256ビット長のランダムキーを使用するAES-CTR(Advanced Encryption Standard in Counter Mode)暗号化アルゴリズムを基にしたData Protectorソフトウェア暗号化。暗号化と復号化の両方で同じキーが使用されます。データはネットワークを介して転送される前およびメディアに書き込まれる前に、AES256ビット暗号化機能によって暗号化されます。
AML	(ADIC/GRAU固有の用語)Automated Mixed-Media library(自動混合メディアライブラリ)の略。
AMU	(ADIC/GRAU固有の用語)Archive Management Unit(アーカイブ管理単位)の略。
ASRセット	フロッピーディスク上に保存されたファイルのコレクション。交換用ディスクの適切な再構成(ディスクパーティション化と論理ボリュームの構成)およびフルクライアントバックアップでバックアップされたオリジナルシステム構成とユーザーデータの自動復旧に必要となります。これらのファイルは、バックアップメディア上に保存されると共に、Cell Manager上のASRアーカイブファイルとしてディレクトリ Data_Protector_program_data¥Config¥Server¥dr¥asr(Windows Server 2008の場合)、Data_Protector_home¥Config¥Server¥dr¥asr(他のWindowsシステム)、または/etc/opt/omni/server/dr/asr/(UNIXシステムの場合)に保存されます。障害発

生後、ASRアーカイブファイルは、ASRを実行する必要があるフロッピーディスクに展開されます。

- Automatic Storage Management** (Oracle固有の用語)自動ストレージ管理は、Oracleデータベースファイルを管理するOracle10g/11g統合型ファイルシステムおよびボリュームマネージャです。データとディスクの管理の複雑さを解消するとともに、ストライプ化とミラー化によってパフォーマンスの最適化も行います。
- BACKINT** (SAP R/3固有の用語)SAP R/3バックアッププログラムが、オープンインタフェースへの呼び出しを通じてDataProtector backintインタフェースソフトウェアを呼び出し、Data Protectorソフトウェアと通信できるようにします。バックアップ時および復元時には、SAPR/3プログラムがData Protectorbackintインタフェースを通じてコマンドを発行します。
- BC EVA** (HP StorageWorks EVA固有の用語)BusinessCopy EVAは、ローカル複製ソフトウェアソリューションです。EVAファームウェアのスナップショット機能とクローン機能を使用して、ソースボリュームのポイントインタイムコピー(複製)を作成できます。
「複製、ソースボリューム、スナップショット、およびCA+BC EVA」を参照。
- BC Process** (EMC Symmetrix固有の用語)保護されたストレージ環境のソリューション。特別に構成されたEMCSymmetrixデバイスを、EMC Symmetrix標準デバイス上でデータを保護するために、ミラーとして、つまりBusinessContinuance Volumesとして規定します。
「BCV」を参照。
- BC VA** (HP StorageWorks Virtual Array固有の用語)BusinessCopy VAの略。BC VAを使うと、HP StorageWorks Virtual Array LUNの内部コピーを同じ仮想アレイにデータバックアップやデータ複製などの目的で維持できます。コピー(子またはBusinessCopy LUN)は、バックアップやデータ解析、開発などさまざまな目的で使用できます。バックアップ目的で使用される場合は、元(親)のLUNはアプリケーションシステムに接続され、BusinessCopy(子)LUNはバックアップシステムに接続されます。
「HPStorageWorks Virtual Array LUN、アプリケーションシステム、およびバックアップシステム」を参照。
- BC** (EMC Symmetrix固有の用語)BusinessContinuanceの略。BCは、EMC Symmetrix標準デバイスのインスタントコピーに対するアクセスおよび管理を可能にするプロセスです。
「BCV」を参照。

BC	<p>(<i>HP StorageWorks</i>ディスクアレイXP固有の用語)BusinessCopyの略。BC XPを使うと、HP StorageWorks Disk Array XP LDEVの内部コピーをデータバックアップやデータ複製などの目的で維持できます。これらのコピー(セカンダリボリュームまたはS-VOL)は、プライマリボリューム(P-VOL)から分離して、バックアップや開発などの用途に応じた別のシステムに接続することができます。バックアップ目的の場合、P-VOLをアプリケーションシステムに接続し、S-VOLミラーセットのいずれかをバックアップシステムに接続する必要があります。</p> <p>「HPStorageWorks Disk Array XP LDEV、CA、Main Control Unit、アプリケーションシステム、およびバックアップシステム」を参照。</p>
BCV	<p>(<i>EMC Symmetrix</i>固有の用語)BusinessContinuance Volumesの略。BCVデバイスはICDA内であらかじめ構成された専用のSLDです。ビジネスの継続運用を可能にするために使用されます。BCVデバイスには、これらのデバイスによりミラー化されるSLDのアドレスとは異なる、個別のSCSIアドレスが割り当てられます。BCVデバイスは、保護を必要とする一次EMCSymmetrix SLDの分割可能なミラーとして使用されます。</p> <p>「BCおよびBC Process」を参照。</p>
BRARCHIVE	<p>(<i>SAP R/3</i>固有の用語)SAP R/3バックアップツールの1つ。アーカイブREDOログファイルをバックアップできます。BRARCHIVEでは、アーカイブプロセスのすべてのログとプロファイルも保存されます。</p> <p>「BRBACKUPおよびBRRESTORE」を参照。</p>
BRBACKUP	<p>(<i>SAP R/3</i>固有の用語)SAP R/3バックアップツールの1つ。制御ファイル、個々のデータファイル、またはすべての表領域をオンラインでもオフラインでもバックアップできます。また、必要に応じて、オンラインREDOログファイルをバックアップすることもできます。</p> <p>「BRARCHIVEおよびBRRESTORE」を参照。</p>
BRRESTORE	<p>(<i>SAP R/3</i>固有の用語)SAP R/3のツール。以下の種類のファイルを復元するために使います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BRBACKUPで保存されたデータベースデータファイル、制御ファイル、オンラインREDOログファイル ・ BRARCHIVEでアーカイブされたREDOログファイル ・ BRBACKUPで保存された非データベースファイル <p>ファイル、表領域、バックアップ全体、REDOログファイルのログシーケンス番号、またはバックアップのセッションIDを指定することができます。</p> <p>「BRBACKUPおよびBRARCHIVE」を参照。</p>

BSM	Data Protector Backup Session Managerの略。バックアップセッションを制御します。このプロセスは、常にCellManagerシステム上で稼働します。
CA+BC EVA	(HP StorageWorks EVA固有の用語)ContinuousAccess (CA) EVAとBusiness Copy (BC) EVAを併用すると、リモートEVA上にソースボリュームのコピー(複製)を作成して保持でき、その後、これらのコピーをそのリモートアレイ上でローカル複製のソースとして使用できます。 「BC EVA、複製、およびソースボリューム」を参照。
CA	(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)ContinuousAccess XPの略。CAでは、データ複製、バックアップ、およびディザスタリカバリなどの目的でHP StorageWorks DiskArray XP LDEVのリモートコピーを作成および維持できます。CAを使用するには、メイン(プライマリ)ディスクアレイとリモート(セカンダリ)ディスクアレイが必要です。オリジナルのデータを格納し、アプリケーションシステムに接続されているCAプライマリボリューム(P-VOL)が、メインディスクアレイに格納されます。リモートディスクアレイには、バックアップシステムに接続されているCAセカンダリボリューム(S-VOL)が格納されます。 「BC(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)、Main Control UnitおよびHP StorageWorks DiskArray XP LDEV」を参照。
CAP	(StorageTek固有の用語)CartridgeAccess Portの略。ライブラリのドアパネルに組み込まれたポートです。メディアの出し入れに使用されます。
CDB	Catalog Database(カタログデータベース)の略。CDBはIDBの一部で、バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、メディア管理の各セッションに関する情報が格納されます。選択したロギングレベルによっては、ファイル名とファイルバージョンも格納されます。CDBは、常にセルに対してローカルとなります。 「MMDB」を参照。
CDFファイル	(UNIX固有の用語)Context DependentFile(コンテキスト依存ファイル)の略。CDFファイルは、同じパス名でグループ化された複数のファイルからなるファイルです。通常、プロセスのコンテキストに基づいて、これらのファイルのいずれかがシステムによって選択されます。このメカニズムにより、クラスター内のすべてホストから同じパス名を使って、マシンに依存する実行可能ファイル、システムデータ、およびデバイスファイルを正しく動作させることができます。

Cell Manager	セル内のメインシステム。Data Protectorの運用に不可欠なソフトウェアがインストールされ、すべてのバックアップおよび復元作業がここから管理されます。管理タスク用のGUIは、異なるシステムにインストールできます。各セルにはCellManagerシステムが1つあります。
Change Journal	<i>(Windows固有の用語)</i> ローカルNTFSボリューム上のファイルやディレクトリへの変更が発生するたび、それに関するレコードをログに記録するWindowsファイルシステム機能。
Change Log Provider	<i>(Windows固有の用語)</i> ファイルシステム上のどのオブジェクトが作成、変更、または削除されたかを判断するために照会できるモジュール。
CMMDB(Centralized Media Management Database:集中型メディア管理データベース)	「 CMMDB 」を参照。
CMMDB	Data ProtectorのCMMDB(Centralized Media Management Database:メディア集中管理データベース)は、MoMセル内で、複数セルのMMDBをマージすることにより生成されます。この機能を使用することで、MoM環境内の複数のセルの間でハイエンドデバイスやメディアを共有することが可能になります。いずれかのセルからロボティクスを使用して、他のセルに接続されているデバイスを制御することもできます。CMMDBはManager-of-Manager上に置く必要があります。MoMセルとその他のDataProtectorセルの間には、できるだけ信頼性の高いネットワーク接続を用意してください。「 MoM 」を参照。
COM+クラス登録データベース	<i>(Windows固有の用語)</i> COM+クラス登録データベースとWindowsレジストリには、アプリケーションの属性、クラスの属性、およびコンピュータレベルの属性が格納されます。これにより、これらの属性間の整合性を確保でき、これらの属性を共通の方法で操作できます。
Command View (CV)EVA	<i>(HP StorageWorks EVA固有の用語)</i> HPStorageWorksEVAストレージシステムを構成、管理、モニターするためのユーザーインターフェース。さまざまなストレージ管理作業を行うために使用されます。たとえば、仮想ディスクファミリの作成、ストレージシステムハードウェアの管理、仮想ディスクのスナップクローンやスナップショットの作成などに使用されます。CommandView EVAソフトウェアはHP

	Storageマネジメントアプライアンス上で動作し、Webブラウザからアクセスできます。 「 HPStorageWorks EVA SMI-S Agent および HP StorageWorks SMI-SEVAプロバイダ 」を参照。
Command View VLS	(VLS固有の用語)LAN経由でVLSを構成、管理、モニターするのに使用するWebブラウザベースのGUI。 「 仮想ライブラリシステム(VLS) 」を参照。
CRS	Data Protector Cell Manager上で実行され、バックアップと復元セッションを開始、制御する、CellRequest Serverのプロセス(サービス)。このサービスは、Data ProtectorがCell Manager上にインストールされるとすぐに開始されます。Windowsシステムでは、CRSはインストール時に使用したユーザーアカウントで実行されます。UNIXシステムでは、CRSはアカウントルートで実行されます。
CSM	Data Protector Copy and Consolidation Session Manager(コピーおよび集約セッションマネージャ)の略。このプロセスは、オブジェクトコピーセッションとオブジェクト集約セッションを制御し、CellManagerシステム上で動作します。
Data_Protector_home	Windows VistaおよびWindows Server 2008では、Data Protectorのプログラムファイルを含むディレクトリ。その他のWindowsオペレーティングシステムでは、Data Protectorのプログラムファイルとデータファイルを含むディレクトリ。デフォルトのパスは、%ProgramFiles%\OmniBackですが、パスはインストール時にData Protectorセットアップウィザードで変更できます。 「 Data_Protector_program_data 」を参照。
Data_Protector_program_data	Windows VistaおよびWindows Server 2008では、Data Protectorのデータファイルを含むディレクトリ。デフォルトのパスは、%ProgramData%\OmniBackですが、パスはインストール時にData Protectorセットアップウィザードで変更できます。 「 Data_Protector_home 」を参照。
Dboject	(Informix Server固有の用語)Informix Server物理データベースオブジェクト。blob space、db space、または論理ログファイルなどがそれにあたります。
DCBF	DCBF(Detail Catalog Binary Files: 詳細カタログバイナリファイル)ディレクトリは、IDBの一部です。IDBの約80%を占めるファイルバージョンと属性に関する情報を格納します。バックアップに使用されるData Protectorメディアごとに1つのDCバイナリファイルが作成さ

れます。サイズの最大値は、ファイルシステムの設定による制限を受けます。

DCディレクトリ	詳細カタログ(DC)ディレクトリには、詳細カタログバイナリファイル(DCBF)が含まれており、そのファイルの中にはファイルバージョンについての情報が保管されています。これは、IDBのDCBF部分を表し、IDB全体の約80%の容量を占めます。デフォルトのDCディレクトリはdcbfと呼ばれ、Data_Protector_program_data¥db40ディレクトリ(WindowsServer 2008の場合)、Data_Protector_home¥db40ディレクトリ(その他のWindowsシステムの場合)、または/var/opt/omni/server/db40ディレクトリ(UNIXシステム)のCellManagerに置かれます。他のDCディレクトリを作成し、独自に指定した場所を使用することができます。1つのセルでサポートされるDCディレクトリは50個までです。DCディレクトリのデフォルト最大サイズは16GBです。
DHCPサーバー	Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)を通じて、DHCPクライアントにIPアドレスの動的割り当て機能とネットワークの動的構成機能を提供するシステム。
Disk Agent	クライアントのバックアップと復元を実行するためにクライアントシステム上にインストールする必要があるコンポーネントの1つ。DiskAgentは、ディスクに対するデータの読み書きを制御します。バックアップセッション中には、Disk Agentがディスクからデータを読み取って、MediaAgentに送信してデータをデバイスに移動させます。復元セッション中には、Disk AgentがMedia Agentからデータを受信して、ディスクに書き込みます。オブジェクト検証セッション中に、DiskAgentはMedia Agentからデータを取得し、確認処理を実行しますが、データはディスクには書き込まれません。
Disk Agentの同時処理数	1つのMedia Agentに対して同時にデータを送信できるDisk Agentの数。
DMZ	DMZ(Demilitarized Zone)は、企業のプライベートネットワーク(イントラネット)と外部のパブリックネットワーク(インターネット)の間に「中立地帯」として挿入されたネットワークです。DMZにより、外部のユーザーが企業のイントラネット内のサーバーに直接アクセスすることを防ぐことができます。
DNSサーバー	DNSクライアント/サーバーモデルでは、DNSサーバーにインターネット全体で名前解決を行うのに必要なDNSデータベースに含まれている情報の一部を保持します。DNSサーバーは、このデータベースを使用して名前解決を要求するクライアントに対してコンピュータ名を提供します。

DR OS	<p>ディザスタリカバリを実行するオペレーティングシステム環境。Data Protectorに対して基本的な実行時環境(ディスク、ネットワーク、テープ、およびファイルシステムへのアクセス)を提供します。Data Protectorディザスタリカバリを実行する前に、DR OSをディスクにインストールするかメモリーにロードして、構成しておく必要があります。DROSには、一時DR OSとアクティブDR OSがあります。一時DR OSは、他のオペレーティングシステムの復元用ホスト環境として排他的に使用されます。このホスト環境には、ターゲットとなるオペレーティングシステムの構成データも置かれます。ターゲットシステムを元のシステム構成に復元し終えた後、一時DROSは削除されます。アクティブDR OSは、Data Protectorディザスタリカバリプロセスのホストとして機能するだけでなく、復元後のシステムの一部にもなります。その場合、DROSの構成データは元の構成データに置き換わります。</p>
DRイメージ	<p>一時ディザスタリカバリオペレーティングシステム(DR OS)のインストールおよび構成に必要なデータ。</p>
<p>EMC Symmetrix Agent (SYMA)(EMCSymmetrix 固有の用語)</p>	<p>EMC Symmetrix環境でのバックアップ操作と復元操作を可能にするData Protectorソフトウェアモジュール。</p>
<p>Event Log(Data Protector: イベント ログ)</p>	<p>イベントログには、Data Protector関連のすべての通知が書き込まれます。デフォルトの送信方法では、すべての通知がイベントログに送信されます。このイベントログにアクセスできるData Protectorユーザーは、Adminユーザーグループに所属しているか、または「レポートと通知」のユーザー権限が付与されているData Protectorユーザーだけです。イベントログ内のイベントは、すべてブラウズしたり削除することができます。</p>
<p>ExchangeReplication Service</p>	<p>(Microsoft Exchange Server固有の用語)ローカル連続レプリケーション(LCR)か、クラスター連続レプリケーション(CCR)テクノロジーのいずれかを使用して複製されたストレージグループを表すMicrosoft Exchange Serverのサービス。 「クラスター連続レプリケーションおよびローカル連続レプリケーション」を参照。</p>
FCブリッジ	<p>「Fibre Channelブリッジ」を参照。</p>
<p>Fibre Channelブリッジ</p>	<p>Fibre Channelブリッジ(マルチプレクサ)は、RAIDアレイ、ソリッドステートディスク(SSD)、テープライブラリなどの既存のパラレルSCSIデバイスをファイバーチャネル環境に移行できるようにします。ブリッジ(マルチプレクサ)の片側にはFibreChannelインタフェースがあ</p>

り、その反対側にはパラレルSCSIポートがあります。このブリッジ(マルチプレクサ)を通じて、SCSIパケットをFibreChannelとパラレルSCSIデバイスの間で移動することができます。

fnames.dat	IDBのfnames.datファイルには、バックアップしたファイルの名前に関する情報が格納されます。一般に、ファイル名が保存されている場合、それらのファイルはIDBの20%を占めます。
GUI	Data Protectorには、構成、管理、および操作に関するあらゆるタスクに簡単にアクセスできる、グラフィカルユーザーインターフェースが用意されています。Windows用のオリジナルのData Protector GUIの他に、Data Protectorには、さまざまなプラットフォームで実行できる、外観も操作も変わらないJavaベースのGUIも用意されています。
Holidaysファイル	休日に関する情報を格納するファイル。このファイルは、Data_Protector_program_data¥Config¥Server¥Holidaysディレクトリ(Windows Server 2008の場合)、Data_Protector_home¥Config¥Server¥Holidaysディレクトリ(その他のWindowsシステムの場合)、または/etc/opt/omni/server/Holidaysディレクトリ(UNIXシステムの場合)のCellManagerのHolidaysファイルを編集することで、各種の休日を設定できます。
HP Operations Manager SMART Plug-In(SPI)	ドメイン監視機能を強化する完全に統合されたソリューションで、HP Operations Managerに追加するだけですぐに使えます。HP Operations Manager SMART Plug-Inとして実装されるData Protector用統合ソフトウェアを使用して、ユーザーはHP Operations Managerの拡張機能として任意の数のData Protector Cell Managerを監視できます。
HP Operations Manager	ネットワーク内の多数のシステムとアプリケーションの運用管理を強力な機能でサポートするHP Operations Manager。Data Protectorには、この管理製品を使用するための統合ソフトウェアが用意されています。この統合ソフトウェアは、Windows、HP-UX、SolarisおよびLinux上のHP Operations Manager管理サーバー用のSMART Plug-Inとして実装されています。以前のバージョンのHP Operations Managerは、IT/Operation、Operations Center、およびVantage Point Operations、OpenView Operationsと呼ばれていました。
HP StorageWorks Disk Array XP LDEV	HP StorageWorks Disk Array XPの物理ディスクの論理パーティション。LDEVは、Continuous Access XP (CA)構成およびBusiness

Copy XP (BC)構成で複製することができるエンティティで、スタンドアロンのエンティティとしても使用できます。

「[BC](#)、[CA](#)(*HP StorageWorks*ディスクアレイXP固有の用語)、および複製」を参照。

HPStorageWorks EVA SMI-S Agent Data Protectorのソフトウェアモジュール。HP StorageWorks Enterprise VirtualArray用統合ソフトウェアに必要なタスクをすべて実行します。EVA SMI-S Agentを使用すると、受信した要求とCV EVA間のやり取りを制御するHPStorageWorks SMI-S EVAプロバイダを通じてアレイを制御できます。
「[CommandView \(CV\) EVA](#)および[HP StorageWorks SMI-SEVAプロバイダ](#)」を参照。

HPStorageWorks SMI-S EVAプロバイダ HP StorageWorks Enterprise Virtual Arrayを制御するために使用されるインタフェース。SMI-SEVAプロバイダはHPストレージマネジメントアプライアンスシステム上で個別のサービスとして動作し、受信した要求とCommand ViewEVA間のゲートウェイとして機能します。Data Protector HP StorageWorks EVA用統合ソフトウェアでは、SMI-SEVAプロバイダはEVA SMI-S Agentから標準化された要求を受け入れ、Command View EVAとやり取りして情報または方法呼び出し、標準化された応答を返します。
「[HPStorageWorks EVA SMI-S Agent](#)および[Command View \(CV\) EVA](#)」を参照。

HPStorageWorks Virtual Array LUN HP StorageWorks Virtual Array内の物理ディスクの論理パーティション。LUNはHP StorageWorksBusiness Copy VA 構成で複製することができるエンティティで、スタンドアロンのエンティティとしても使用できます。
「[BC VA](#)および複製」を参照。

ICDA (*EMC Symmetrix*固有の用語)EMCのSymmetrixの統合キャッシュディスクアレイ(ICDA)は、複数の物理ディスク、複数のFWDSCSIチャンネル、内部キャッシュメモリー、およびマイクロコードと呼ばれる制御/診断ソフトウェアを備えたディスクアレイデバイスです。

IDB Data Protector内部データベースは、Cell Manager上に維持される埋込み型データベースです。どのデータがどのメディアにバックアップされるか、バックアップセッションと復元セッションがどのように実行されるか、さらに、どのデバイス上やライブラリ上に構成されているかについての情報が格納されます。

IDB復旧ファイル IDBバックアップ、メディア、バックアップ用デバイスに関する情報を含むIDBファイル(obrindex.dat)。この情報により、IDBの復旧を大幅に簡素化できます。IDBトランザクションログと共にこのファイルを

他のIDBディレクトリとは別の物理ディスクに移動し、さらにこのファイルのコピーを作成することをお勧めします。

Inet	Data Protectorセル内の各UNIXシステムまたはWindowsシステム上で動作するプロセス。このプロセスは、セル内のシステム間の通信と、バックアップおよび復元に必要なその他のプロセスの起動を受け持ちます。システムにDataProtectorをインストールすると、Inetサービスが即座に起動されます。Inetプロセスは、inetdデーモンにより開始されます。
Informix Server	(<i>Informix Server固有の用語</i>)InformixDynamic Serverのことです。
Informix Server用のCMDスクリプト	(<i>Informix Server固有の用語</i>)InformixServerデータベースの構成時にINFORMIXDIR内に作成されるWindows CMDスクリプト。環境変数をInformixServerにエクスポートするコマンド一式が含まれています。
ISQL	(<i>Sybase固有の用語</i>)Sybaseのユーティリティの1つ。SybaseSQL Serverに対してシステム管理作業を実行できます。
Java GUIクライアント	Java GUIクライアントはJava GUIコンポーネントの1つで、UI関連のインタフェースのみで構成されており、機能するにはJavaGUIサーバーとの通信が必要です。
Java GUIサーバー	Java GUIコンポーネントの1つ。Data Protector Cell Managerシステムにインストールされています。JavaGUIサーバーは、Java GUIクライアントからの要求を受け取って処理し、応答をJava GUIクライアントに戻します。通信は、ポート5556でHypertextTransfer Protocol (HTTP)を通して行われます。
keychain	パスフレーズを手動で入力しなくても秘密キーを復号化できるようにするツールです。セキュアシェルを使用してリモートインストールを実行する場合、このツールをインストールサーバーにインストールして構成する必要があります。
KMS	キー管理サーバー(KMS)はData Protectorの暗号化機能のためのキー管理を提供する、Cell Managerで実行する集中サービス。このサービスは、DataProtectorがCell Manager上にインストールされるとすぐに開始されます。
LBO	(<i>EMC Symmetrix固有の用語</i>)LogicalBackup Object(論理バックアップオブジェクト)の略。LBOは、EMC Symmetrix/Fastrax環境内で保存/取得されるデータオブジェクトです。LBOは

	EMCSymmetrixによって1つのエンティティとして保存/取得され、部分的には復元できません。
LISTENER.ORA	(Oracle固有の用語)Oracleの構成ファイルの1つ。サーバー上の1つまたは複数のTNSリスナを定義します。
log_fullシェルスクリプト	(Informix Server UNIX固有の用語)ON-Barに用意されているスクリプトの1つで、InformixServerでlogfullイベント警告が発行された際に、論理ログファイルのバックアップを開始するために使用できます。InformixServerのALARMPROGRAM構成パラメータは、デフォルトで、INFORMIXDIR/etc/log_full.shに設定されます。ここで、INFORMIXDIRは、InformixServerホームディレクトリです。論理ログファイルを継続的にバックアップしたくない場合は、ALARMPROGRAM構成パラメータをINFORMIXDIR/etc/no_log.shに設定してください。
Lotus C API	(Lotus Domino Server固有の用語)LotusDomino ServerとData Protectorなどのバックアップソリューションの間でバックアップ情報および復元情報を交換するためのインタフェース。
LVM	LVM (Logical Volume Manager: 論理ボリュームマネージャ)は、HP-UXシステム上で物理ディスクスペースを構造化し、論理ボリュームにマッピングするためのサブシステムです。LVMシステムは、複数のボリュームグループで構成されます。各ボリュームグループには、複数のボリュームが含まれます。
Main ControlUnit (MCU)	(HP StorageWorksディスクアレイXP固有の用語)CAとBC構成用のプライマリボリュームを含み、マスターデバイスとしての役割を果たすHPStorageWorks XPディスクアレイ。 「BC(HP StorageWorksディスクアレイXP固有の用語)、CA(HP StorageWorksディスクアレイXP固有の用語)、およびHP StorageWorksディスクアレイXPLDEV」を参照。
make_net_recovery	make_net_recoveryは、Ignite-UXのコマンドの1つ。Ignite-UXサーバーまたはその他の指定システム上にネットワーク経由で復旧アーカイブを作成できます。ターゲットシステムは、Ignite-UXのmake_boot_tapeコマンドで作成したブート可能なテープからブートするか、またはIgnite-UXサーバーから直接ブートした後、サブネットを通じて復旧することができます。Ignite-UXサーバーからの直接ブートは、Ignite-UXのboot.sysコマンドで自動的に行うか、またはブートコンソールから対話的に指定して行うことができます。
make_tape_recovery	make_tape_recoveryは、Ignite-UXのコマンドの1つ。システムに応じてカスタマイズしたブート可能テープ(インストールテープ)を作

成できます。ターゲットシステムにバックアップデバイスを直接接続し、ブート可能な復旧テープからターゲットシステムをブートすることにより、無人ディザスタリカバリを実行できます。アーカイブ作成時とクライアント復旧時は、バックアップデバイスをクライアントにローカル接続しておく必要があります。

Manager-of-Managers (MoM)	「 MoM 」を参照。
MAPI	(<i>Microsoft Exchange Server</i> 固有の用語) MAPI (Messaging Application Programming Interface) は、アプリケーションおよびメッセージングクライアントがメッセージングシステムおよび情報システムと対話するためのプログラミングインタフェースです。
MCU	「 Main Control Unit (MCU) 」を参照。
Media Agent	デバイスに対する読み込み/書き込みを制御するプロセス。制御対象のデバイスはテープなどのメディアに対して読み込み/書き込みを行います。復元またはオブジェクト検証セッション中、Media Agent はバックアップメディア上のデータを探して、処理するために Disk Agent に送信します。復元セッションの場合、続いて Disk Agent はデータをディスクに書き込みます。Media Agent は、ライブラリのロボティクス制御も管理します。
Microsoft Exchange Server	多様な通信システムへの透過的接続を提供するクライアント/サーバー型のメッセージング/ワークグループシステム。電子メールシステムの他、個人とグループのスケジュール、オンラインフォーム、ワークフロー自動化ツールなどをユーザーに提供します。また、開発者に対しては、情報共有およびメッセージングサービス用のカスタムアプリケーション開発プラットフォームを提供します。
Microsoft SQL Server	分散型「クライアント/サーバー」コンピューティングのニーズを満たすように設計されたデータベース管理システム。
Microsoft Volume Shadow Copy Service (VSS)	VSS 対応アプリケーションのバックアップと復元をそのアプリケーションの機能に関係なく統合管理する統一通信インタフェースを提供するソフトウェアサービスです。このサービスは、バックアップアプリケーション、ライター、シャドウコピープロバイダ、およびオペレーティングシステムカーネルと連携して、ボリュームシャドウコピーおよびシャドウコピーセットの管理を実現します。 「 シャドウコピー 、 シャドウコピープロバイダ 、 複製 および ライター 」を参照。

Microsoft管理コンソール(MMC)	(Windows固有の用語)Windows環境における管理モデル。シンプルで一貫した統合型管理ユーザーインターフェースを提供します。同じGUIを通じて、さまざまなMMC対応アプリケーションを管理できます。
MMD	Media Management Daemon(メディア管理デーモン)の略。MMDプロセス(サービス)は、Data ProtectorCell Manager上で稼動し、メディア管理操作およびデバイス操作を制御します。このプロセスは、Data ProtectorをCellManagerにインストールしたときに開始されます。
MMDB	Media Management Database(メディア管理データベース)の略。MMDBは、IDBの一部です。セル内で構成されているメディア、メディアプール、デバイス、ライブラリ、ライブラリデバイス、スロットに関する情報と、バックアップに使用されているData Protectorメディアに関する情報を格納します。エンタープライズバックアップ環境では、データベースをすべてのセル間で共有できます。 「 CMMDB および CDB 」を参照。
MoM	複数のセルをグループ化して、1つのセルから集中管理することができます。集中管理用セルの管理システムが、MoM(Manager-of-Managers)です。他のセルはMoMクライアントと呼ばれます。MoMを介して、複数のセルを一元的に構成および管理することができます。
MSM	Data Protector Media Session Manager(メディアセッションマネージャ)の略。MSMは、CellManager上で稼動し、メディアセッション(メディアのコピーなど)を制御します。
MU番号	(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)ミラーユニット番号。ファーストレベルミラーを示すために使う整数(0、1または2)です。 「 ファーストレベルミラー 」を参照。
obdrindex.dat	「 IDB復旧ファイル 」を参照。
OBDR対応デバイス	ブート可能ディスクを装填したCD-ROMドライブをエミュレートできるデバイス。バックアップデバイスとしてだけでなく、ディザスタリカバリ用のブートデバイスとしても使用可能です。
ON-Bar	(Informix Server固有の用語)Informix Serverのためのバックアップと復元のシステム。ON-Barにより、Informix Serverデータのコピーを作成し、後でそのデータを復元することが可能になります。ON-Bar

のバックアップと復元のシステムには、以下のコンポーネントが含まれます。

- onbarコマンド
- バックアップソリューションとしてのData Protector
- XBSAインタフェース
- ON-Barカタログテーブル。これは、dbobjectをバックアップし、複数のバックアップを通してdbobjectのインスタンスをトラッキングするために使われます。

ONCONFIG	(<i>Informix Server固有の用語</i>)アクティブなONCONFIG構成ファイルの名前を指定する環境変数。ONCONFIG環境変数が存在しない場合、InformixServerがINFORMIXDIR/etc(Windowsの場合)、またはINFORMIXDIR/etc/(UNIXの場合)ディレクトリのONCONFIGファイルにある構成値を使います。
OpenSSH	さまざまな認証や暗号化方法を使用することにより、リモートマシンに安全にアクセスできるようにするネットワーク接続ツールのセット。セキュアシェルを使用してリモートインストールを実行する場合、インストールサーバーとクライアントにこれをインストールして構成する必要があります。
Oracle Data Guard	(<i>Oracle固有の用語</i>)Oracle DataGuardはOracleの主要なディザスタリカバリソリューションです。プロダクション(一次)データベースのリアルタイムコピーであるスタンバイデータベースを最大9個まで保持することにより、破損、データ障害、人為ミス、および災害からの保護を提供します。プロダクション(一次)データベースに障害が発生すると、フェイルオーバーによりスタンバイデータベースの1つを新しい一次データベースにすることができます。また、プロダクション処理を現在の一次データベースからスタンバイデータベースに迅速に切り替えたり、元に戻したりできるため、保守作業のための計画ダウンタイムを縮小することができます。
ORACLE_SID	(<i>Oracle固有の用語</i>)Oracle Serverインスタンスの一意的な名前。別のOracleServerに切り替えるには、目的のORACLE_SIDを指定します。ORACLE_SIDは、TNSNAMES.ORAファイル内の接続記述子のCONNECT DATA部分とLISTENER.ORAファイル内のTNSリスナの定義に含まれています。
Oracleインスタンス	(<i>Oracle固有の用語</i>)1つまたは複数のシステムにインストールされた個々のOracleデータベース。1つのコンピュータシステム上で、複数のデータベースインスタンスを同時に稼働させることができます。

Oracleターゲットデータベースへのログイン情報	<p>(OracleおよびSAP R/3固有の用語)ログイン情報の形式は、<code>user_name/password@service</code>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この場合、<code>user_name</code>は、OracleServerおよびその他のユーザーに対して公開されるユーザー名です。各ユーザーがOracleターゲットデータベースに接続するには、ユーザー名とパスワードの両方を入力しなければなりません。ここでは、OracleのSYS-DBA権限またはSYSOPER権限が付与されているユーザーを指定する必要があります。 ・ <code>password</code>には、Oracleパスワードファイル(oraclepwd)内に指定したのと同じパスワードを指定しなければなりません。パスワードは、データベースを管理するユーザーの認証に使用されます。 ・ <code>service</code>には、ターゲットデータベースのためのSQL*Netサーバープロセスの識別に使用される名前を指定します。
PISファイル	<p>PISファイルには、システムにインストールされているすべてのディスクを拡張自動ディザスタリカバリ(EADR)中にどのようにフォーマットするかに関する情報が格納されます。このファイルはフルバックアップ中に作成され、バックアップメディアとCellManagerに <code>recovery.pls</code> というファイル名で保存されます。保存場所は、<code>Data_Protector_program_data¥Config¥Sever¥dr¥pls</code> ディレクトリ(Windows Server 2008の場合)、<code>Data_Protector_home¥Config¥Server¥dr¥pls</code> ディレクトリ(その他のWindowsシステムの場合)、<code>/etc/opt/omni/server/dr/pls</code> ディレクトリ(UNIXシステムの場合)です。 .</p>
RAID Manager XP	<p>(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)RAIDManager XPアプリケーションには、CAおよびBCアプリケーションのステータスをレポートおよび制御するための広範なコマンドリストが用意されています。これらのコマンドは、RAIDManagerインスタンスを通じて、StorageWorks Disk Array XP Disk Control Unitと通信します。このインスタンスは、コマンドを一連の低レベルSCSIコマンドに変換します。</p>
RAID Managerライブラリ	<p>(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)Solarisシステム上のDataProtectorでは、RAID Managerライブラリを内部的に使用して、HP StorageWorks Disk ArrayXPの構成データ、ステータスデータ、およびパフォーマンスデータにアクセスします。さらに、一連の低レベルSCSIコマンドに変換される関数呼び出しを通じて、HPStorageWorks Disk Array XPの主要な機能にアクセスします。</p>
RAID	<p>Redundant Array of Independent Disksの略。</p>

rawディスクバックアップ	「ディスクイメージバックアップ」を参照。
RCU	「Remote ControlUnit (RCU)」を参照。
RDBMS	Relational Database Management System (リレーショナルデータベース管理システム)の略。
RDF1/RDF2	(EMC Symmetrix固有の用語)SRDFデバイスグループの一種。RDFグループにはRDFデバイスだけを割り当てることができます。RDF1グループタイプにはソースデバイス(R1)が格納され、RDF2グループタイプにはターゲットデバイス(R2)が格納されます。
RDS	Raima Database Serverの略。RDS(サービス)は、Data ProtectorのCell Manager上で稼動し、IDBを管理します。このプロセスは、DataProtectorをCell Managerにインストールしたときに開始されます。
Recovery Manager (RMAN)	(Oracle固有の用語)Oracleコマンド行インタフェース。これにより、OracleServerプロセスに接続されているデータベースをバックアップ、復元、および復旧するための指示がOracle Serverプロセスに出されます。RMANでは、バックアップについての情報を格納するために、リカバリカタログまたは制御ファイルのいずれかが使用されます。この情報は、後の復元セッションで使うことができます。
RecoveryInfo	Windows構成ファイルのバックアップ時、Data Protectorは、現在のシステム構成に関する情報(ディスクレイアウト、ボリューム、およびネットワークの構成に関する情報)を収集します。この情報は、ディザスタリカバリ時に必要になります。
REDOログ	(Oracle固有の用語)各Oracleデータベースには、複数のREDOログファイルがあります。データベース用のREDOログファイルのセットをデータベースのREDOログと呼びます。Oracleでは、REDOログを使ってデータに対するすべての変更を記録します。
Remote ControlUnit	(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)RemoteControl Unit (RCU)は、CA構成の中でMCU (Main Control Unit)のスレーブとしての役割を果たします。双方向の構成の中では、RCUはMCUとしての役割を果たします。
RMAN (Oracle固有の用語)	「Recovery Manager」を参照。
RSM	(Windows固有の用語)Removable StorageManagerの略。RSMは、アプリケーション、ロボティクスチェンジャ、およびメディアライブラリ

の間の通信を効率化するメディア管理サービスを提供します。これにより、複数のアプリケーションがローカルロボティクスメディアライブラリとテープまたはディスクドライブを共有でき、リムーバブルメディアを管理できます。

RSM	Data Protector Restore Session Managerの略。復元セッションおよびオブジェクト検証セッションを制御します。このプロセスは、常にCellManagerシステム上で稼動します。
SIBF	サーバーレス統合バイナリファイル(SIBF)は、IDBのうち、NDMPのrawメタデータが格納される部分です。これらのデータは、NDMPオブジェクトの復元に必要です。
SMB	「 スプリットミラーバックアップ 」を参照。
SMBF	セッションメッセージバイナリファイル(SMBF)は、IDBのうち、バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、およびメディア管理のセッション中に生成されたセッションメッセージが格納される部分です。1つのセッションにつき1つのバイナリファイルが作成されます。ファイルは年毎や月毎に分類されます。
sqlhostsファイルまたはレジストリ	(<i>Informix Server固有の用語</i>)InformixServerの接続情報ファイル(UNIX)またはレジストリ(Windows)。各データベースサーバーの名前の他、ホストコンピュータ上のクライアントが接続できるエイリアスが格納されます。
SRDF	(<i>EMC Symmetrix固有の用語</i>)EMC SymmetrixRemote Data Facilityの略。SRDFは、異なる位置にある複数の処理環境の間での効率的なリアルタイムデータ複製を実現するBusinessContinuationプロセスです。同じルートコンピュータ環境内だけでなく、互いに遠距離にある環境も対象となります。
SRDファイル	(<i>ディザスタリカバリ固有の用語</i>)Unicode(UTF-16)形式のテキストファイルで、WindowsシステムのCONFIGURATIONバックアップ中に生成されCellManagerに格納されます。このファイルには、障害発生時にターゲットシステムにオペレーティングシステムをインストールおよび構成するために必要なシステム情報が含まれています。 「 ターゲットシステム 」を参照。
SSE Agent	(<i>HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語</i>)スプリットミラーバックアップの統合に必要なタスクをすべて実行するDataProtectorソフトウェアモジュール。RAID Manager XPユーティリティ(HP-UXシステムおよびWindowsシステムの場合)またはRAIDManagerライ

ブライ(Solarisシステムの場合)を使い、HP StorageWorks Disk ArrayXPの保管システムと通信します。

sst.confファイル	<p>/usr/kernel/drv/sst.confファイルは、マルチドライブブライデバイスが接続されているDataProtector Sun Solarisクライアントのそれぞれにインストールされていなければならないファイルです。このファイルには、クライアントに接続されている各ライブデバイスのロボット機構のSCSIアドレスエントリが記述されていなければならない。</p>
st.confファイル	<p>/kernel/drv/st.confファイルは、バックアップデバイスが接続されているDataProtector Solarisクライアントのそれぞれにインストールされていなければならないファイルです。このファイルには、クライアントに接続されている各バックアップドライブのデバイス情報とSCSIアドレスが記述されていなければならない。シングルドライブデバイスについては単一のSCSIエントリが、マルチドライブブライデバイスについては複数のSCSIエントリが、それぞれ必要です。</p>
StorageTek ACSライブラリ	<p>(StorageTek固有の用語)ACS (Automated Cartridge System)は、1つのライブラリ管理ユニット(LMU)と、このユニットに接続された1~24個のライブラリ記憶域モジュール(LSM)からなるライブラリシステム(サイロ)です。</p>
Sybase Backup Server API	<p>(Sybase固有の用語)Sybase SQL ServerとDataProtectorなどのバックアップソリューションの間でのバックアップ情報および復旧情報交換用に開発された業界標準インターフェース。</p>
Sybase SQL Server	<p>(Sybase固有の用語)Sybaseの「クライアントサーバー」アーキテクチャ内のサーバー。Sybase SQL Serverは、複数のデータベースと複数のユーザーを管理し、ディスク上のデータの実位置を追跡します。さらに、物理データストレージ域に対する論理データ記述のマッピングを維持し、メモリー内のデータキャッシュとプロシージャキャッシュを維持します。</p>
System Backup to Tape	<p>(Oracle固有の用語)Oracleがバックアップ要求または復元要求を発行したときに正しいバックアップデバイスをロード、ラベリング、およびアンロードするために必要なアクションを処理するOracleインターフェース。</p>
SysVol	<p>(Windows固有の用語)ドメインのパブリックファイルのサーバーコピーを保存する共有ディレクトリで、ドメイン内のすべてのドメインコントローラ間で複製されます。</p>

TimeFinder	(EMC Symmetrix固有の用語)単一または複数のEMCSymmetrix論理デバイス(SLD)のインスタントコピーを作成するBusiness Continuationプロセス。インスタントコピーは、BCVと呼ばれる専用の事前構成SLD上に作成され、システムに対する別個のプロセスを経由してアクセスできます。
TLU	Tape Library Unit (テープライブラリユニット)の略。
TNSNAMES.ORA	(OracleおよびSAP R/3固有の用語)サービス名にマッピングされた接続記述子を格納するネットワーク構成ファイル。このファイルは、1か所で集中的に管理してすべてのクライアントで使用することも、また、ローカルに管理して各クライアントで個別に使用することもできます。
TSANDS.CFGファイル	(Novell NetWare固有の用語)バックアップを開始するコンテナの名前を指定するファイル。このファイルはテキストファイルで、TSANDS.NLMがロードされるサーバーのSYS:SYSTEM\TSAディレクトリにあります。
UIProxy	Java GUI Server(UIProxyサービス)はDataProtector Cell Managerで実行されます。Java GUI Serverでは、Java GUI ClientとCellManagerとの間の通信を行います。また、ビジネスロジック操作を実行し、重要な情報のみをクライアントに送信する必要があります。このサービスは、DataProtectorがCell Manager上にインストールされるとすぐに開始されます。
VMware管理クライアント	(VMware用統合ソフトウェア固有の用語)DataProtectorを使用してVMware Virtual Infrastructureと通信するクライアント。VirtualCenterServerシステム(VirtualCenter環境)、またはESX Serverシステム(スタンドアロンESX Server環境)のどちらかです。
VOLSER	(ADICおよびSTK固有の用語)ボリュームシリアル(VOLumeSERial)番号は、メディア上のラベルで、大容量ライブラリ内の物理テープの識別に使用されます。VOLSERは、ADIC/GRAUデバイスおよびStorageTekデバイス固有の命名規則です。
Volume Shadow Copy Service	「 Microsoft Volume Shadow Copy Service(VSS) 」を参照。
VSS	「 Microsoft Volume Shadow Copy Service(VSS) 」を参照。
VSS準拠モード	(HP StorageWorksディスクアレイXP VSSプロバイダ固有の用語)2種類あるXPVSSハードウェアプロバイダの操作モードの1つ。XPプロバイダがVSS準拠モードであると、ソースボリューム

(P-VOL)とその複製(S-VOL)は、バックアップ後、単純非対状態になります。したがって、ローテーションされる複製数(P-VOL当たりのS-VOL数)に制限はありません。このような構成でのバックアップからの復元は、ディスクの切り替えによってのみ可能となります。「[resyncモード](#)、[ソースボリューム](#)、[プライマリボリューム\(P-VOL\)](#)、[複製](#)、[セカンダリボリューム\(S-VOL\)](#)、および[複製セットローテーション](#)」を参照。

VxFS	Veritas Journal Filesystemの略。
VxVM (Veritas Volume Manager)	Veritas Volume Managerは、Solarisプラットフォーム上でディスクスペースを管理するためのシステムです。VxVMシステムは、論理ディスクグループに編成された1つまたは複数の物理ボリュームの任意のグループからなります。
Wake ONLAN	節電モードで動作しているシステムを同じLAN上の他のシステムからのリモート操作により電源投入するためのサポート。
Webレポート	Data Protectorの機能の1つ。バックアップステータス、オブジェクトコピーステータスおよびオブジェクト集約ステータスとData Protector構成に関するレポートをWebインタフェース経由で表示できます。
Windows 構成のバックアップ	Data Protectorでは、Windows CONFIGURATION(構成データ)をバックアップできます。Windowsレジストリ、ユーザープロファイル、イベントログ、WINSサーバーデータおよびDHCPサーバーデータ(システム上で構成されている場合)を1回の操作でバックアップできます。
Windowsレジストリ	オペレーティングシステムやインストールされたアプリケーションの構成情報を保存するため、Windowsにより使用される集中化されたデータベース。
WINSサーバー	Windowsネットワークのコンピュータ名をIPアドレスに解決するWindowsインターネットネームサービスソフトウェアを実行しているシステム。Data Protectorでは、WINSサーバーデータをWindowsの構成データの一部としてバックアップできます。
XBSAインタフェース	(<i>Informix Server固有の用語</i>)ON-BarとData Protectorの間の相互通信には、X/Open Backup Services Application Programmer's Interface (XBSA)が使用されます。
XCopyエンジン	(<i>ダイレクトバックアップ固有の用語</i>)SCSI-3のコピーコマンド。SCSIソースアドレスを持つストレージデバイスからSCSIあて先アドレスを持つバックアップデバイスにデータをコピーし、ダイレクトバック

アップを可能にします。データは、ソースデバイス(ブロックまたはストリーミング、つまりディスクまたはテープ)からあて先デバイス(ブロックまたはストリーミング)へ、XCOPYを介して流れていきます。これにより、データをストレージデバイスから読み込んであて先デバイスに書き込むまでの一連の処理が、制御サーバーをバイパスして行われます。

「[ダイレクトバックアップ](#)」を参照。

ZDB 「[ゼロダウンタイムバックアップ\(ZDB\)](#)」を参照。

ZDBデータベース (ZDB固有の用語)ソースボリューム、複製およびセキュリティ情報などのZDB関連情報を格納するIDBの一部。ZDBデータベースはZDB、インスタントリカバリ、スプリットミラー復元に使用されます。

「[ゼロダウンタイムバックアップ\(ZDB\)](#)」を参照。

アーカイブREDOログ (Oracle固有の用語)オフラインREDOログとも呼びます。OracleデータベースがARCHIVELOGモードで動作している場合、各オンラインREDOログが最大サイズまで書き込まれると、アーカイブ先にコピーされます。このコピーをアーカイブREDOログと呼びます。各データベースに対してアーカイブREDOログを作成するかどうかを指定するには、以下の2つのモードのいずれかを指定します。

- ・ ARCHIVELOG – 満杯になったオンラインREDOログファイルは、再利用される前にアーカイブされます。そのため、インスタンスやディスクにエラーが発生した場合に、データベースを復旧することができます。「ホット」バックアップを実行できるのは、データベースがこのモードで稼働しているときだけです。
- ・ NOARCHIVELOG – オンラインREDOログファイルは、いっぱいになってもアーカイブされません。

「[オンラインREDOログ](#)」を参照。

アーカイブロギング (Lotus Domino Server固有の用語)Lotus Domino Serverのデータベースモードの1つ。トランザクションログファイルがバックアップされて初めて上書きされるモードです。

アクセス権限 「[ユーザー権限](#)」を参照。

アプリケーションエージェント クライアント上でオンラインデータベース統合ソフトウェアを復元およびバックアップするために必要なコンポーネント。

「[DiskAgent](#)」を参照。

アプリケーションシステム	(ZDB固有の用語)このシステム上でアプリケーションやデータベースが実行されます。アプリケーションまたはデータベースデータは、ソースボリューム上に格納されています。「バックアップシステムおよびソースボリューム」を参照。
暗号化 KeyID-StoreID	Data Protector Key Management Serverが、Data Protectorで使用する暗号化キーの識別と管理に使用する複合識別子です。KeyIDは、キーストア内のキーを識別します。StoreIDは、Cell Manager上のキーストアを識別します。Data Protectorを暗号化機能付きの旧バージョンからアップグレードした場合、同じCell Manager上で使用されるStoreIDが複数存在する可能性があります。
暗号化キー	256ビットのランダムに生成された数値で、AES 256ビットソフトウェア暗号化またはドライブベースの暗号化が指定されたバックアップの際に、Data Protectorの暗号化アルゴリズムが情報をエンコードするために使用します。これに続く情報の復号化では、同じキーが使用されます。Data Protectorセルの暗号化キーは、Cell Manager上の中央キーストアに保存されます。
イベントログ	(Windows固有の用語)サービスの開始または停止、ユーザーのログオンとログオフなど、Windowsがすべてのイベントを記録したファイル。Data Protectorは、WindowsイベントログをWindows構成バックアップの一部としてバックアップできます。
インスタントリカバリ	(ZDB固有の用語)ディスクへのZDBセッションまたはディスク/テープへのZDBセッションで作成された複製を使用して、ソースボリュームの内容を複製が作成された時点の状態に復元するプロセスです。これにより、テープからの復元を行う必要がなくなります。関連するアプリケーションやデータベースによってはインスタントリカバリだけで十分な場合もあれば、完全に復旧するためにトランザクションログファイルを適用するなどその他にも手順が必要な場合もあります。「複製、ゼロダウンタイムバックアップ(ZDB)、ディスクへのZDB、およびディスク+テープへのZDB」を参照。
インストールサーバー	特定のアーキテクチャ用のData Protectorソフトウェアパッケージのレポジトリを保持するコンピュータシステム。インストールサーバーからData Protectorクライアントのリモートインストールが行われます。混在環境では、少なくとも2台のインストールサーバーが必要です。1台はUNIXシステム用で、1台はWindowsシステム用です。
インターネットインフォメーションサービス(IIS)	(Windows固有の用語)Microsoft Internet Information Servicesは、ネットワーク用ファイル/アプリケーションサーバーで、複数のプロトコルをサポートしています。IISでは、主に、

HTTP(HypertextTransport Protocol)によりHTML(Hypertext Markup Language)ページとして情報が転送されます。

インフォメーションストア	(<i>Microsoft Exchange Server固有の用語</i>)ストレージ管理を行うMicrosoftExchange Serverのサービス。Microsoft Exchange Serverのインフォメーションストアは、メールボックスストアとパブリックフォルダストアという2種類のストアを管理します。メールボックスストアは、個々のユーザーに属するメールボックスから成ります。パブリックフォルダストアには、複数のユーザーで共有するパブリックフォルダおよびメッセージがあります。 「 キーマネージメントサービス および サイト複製サービス 」を参照。
上書き	復元中のファイル名競合を解決するモードの1つ。既存のファイルの方が新しくても、すべてのファイルがバックアップから復元されず。 「 マージ 」を参照。
エクステンジャ	SCSIエクステンジャとも呼ばれます。 「 ライブラリ 」を参照。
エンタープライズバックアップ環境	複数のセルをグループ化して、1つのセルから集中管理することができます。エンタープライズバックアップ環境には、複数のDataProtectorセル内のすべてのクライアントが含まれます。これらのセルは、Manager of Managers (MoM)のコンセプトにより集中管理用のセルから管理されます。 「 MoM 」を参照。
オートチェンジャー	「 ライブラリ 」を参照。
オートマイグレーション	(<i>VLS固有の用語</i>)データのバックアップをまずVLSの仮想テープに作成し、それを物理テープ(1つの仮想テープが1つの物理テープをエミュレート)に移行する操作を、中間バックアップアプリケーションを使用せずに実行する機能。 「 仮想ライブラリシステム(VLS)と仮想テープ 」を参照。
オートローダ	「 ライブラリ 」を参照。
オブジェクト	「 バックアップオブジェクト 」を参照。
オブジェクトID	(<i>Windows固有の用語</i>)オブジェクトID(OID)を使用すると、システムのどこにファイルがあるかにかかわらず、NTFS5ファイルにアクセスできます。Data Protectorでは、ファイルの代替ストリームとしてOIDを扱います。

オブジェクトコピー	特定のオブジェクトバージョンのコピー。オブジェクトコピーセッション中またはオブジェクトミラーのバックアップセッション中に作成されます。
オブジェクトコピーセッション	異なるメディアセット上にバックアップデータの追加コピーを作成するプロセス。オブジェクトコピーセッション中に、選択されたバックアップオブジェクトがソースからターゲットメディアへコピーされます。
オブジェクトのコピー	選択されたオブジェクトバージョンを特定のメディアセットにコピーするプロセス。1つまたは複数のバックアップセッションから、コピーするオブジェクトバージョンを選択できます。
オブジェクトのミラーリング	バックアップセッション中に、いくつかのメディアセットに同じデータを書き込むプロセス。Data Protectorを使用すると、1つまたは複数のメディアセットに対し、すべてまたは一部のバックアップオブジェクトをミラーリングすることができます。
オブジェクトミラー	オブジェクトのミラーリングを使用して作成されるバックアップオブジェクトのコピー。オブジェクトのミラーは、通常、オブジェクトコピーと呼ばれます。
オブジェクト集約	1つのフルバックアップと1つ以上の増分バックアップで構成されたバックアップオブジェクトの復元チェーンを、新たな集約されたバージョンのオブジェクトとしてマージするプロセス。このプロセスは、合成バックアップの一部です。このプロセスの結果、指定のバックアップオブジェクトの合成フルバックアップが出力されます。
オブジェクト集約セッション	1つのフルバックアップと1つ以上の増分バックアップで構成されたバックアップオブジェクトの復元チェーンを、新たな集約されたバージョンのオブジェクトとしてマージするプロセス。
オブジェクト検証	Data Protectorの観点で見たバックアップオブジェクトのデータ整合性と、それらを必要なあて先に送信するData Protectorの機能を確認する処理です。このプロセスは、バックアップ、オブジェクトコピー、またはオブジェクト集約セッションによって作成されたオブジェクトバージョンを復元する機能に信頼レベルを付与するために使用できます。
オブジェクト検証セッション	指定のバックアップオブジェクトまたはオブジェクトバージョンのデータ整合性と、指定のホストにそれらを送信するための選択済みData Protectorネットワークコンポーネントの機能を確認するプロセスです。オブジェクト検証セッションは、対話式に実行することも、

自動ポストバックアップまたはスケジュール仕様の指定通りに実行することもできます。

オフラインREDOログ	「 アーカイブREDOログ 」を参照。
オフラインバックアップ	<p>実行中はアプリケーションデータベースがアプリケーションから使用できなくなるバックアップ。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 単純なバックアップ方法の場合(ZDBではない)、データベースはバックアップ中(数分から数時間)オフライン状態となり、バックアップシステムからは使用できますが、アプリケーションシステムからは使用できません。たとえばテープへのバックアップの場合、テープへのデータストリーミングが終わるまでの間となります。・ ZDBの方法を使うと、データベースはオフライン状態になりますが、所要時間はデータ複製プロセス中のわずか数秒間です。残りのバックアッププロセスでは、データベースは通常の稼動を再開できます。 <p>「ゼロダウンタイムバックアップ(ZDB)およびオンラインバックアップ」を参照。</p>
オフライン復旧	オフライン復旧は、ネットワーク障害などによりCell Managerにアクセスできない場合に行われます。オフライン復旧では、スタンドアロンデバイスおよびSCSIライブラリデバイスのみが使用可能です。CellManagerの復旧は、常にオフラインで行われます。
表領域	データベース構造の一部。各データベースは論理的に1つまたは複数の表スペースに分割されます。各表領域には、データファイルまたはrawボリュームが排他的に関連付けられます。
オリジナルシステム	あるシステムに障害が発生する前にData Protectorによってバックアップされたシステム構成データ。
オンラインREDOログ	(Oracle固有の用語)まだアーカイブされていないが、インスタンスでデータベースアクティビティを記録するために利用できるか、または満杯になっており、アーカイブまたは再使用されるまで待機しているREDOログ。 「 アーカイブREDOログ 」を参照。
オンラインバックアップ	データベースアプリケーションを利用可能な状態に維持したまま行われるバックアップ。データベースは、バックアップアプリケーションが元のデータオブジェクトにアクセスする必要がある間、特別なバックアップモードで稼動します。この期間中、データベースは完全に

機能しますが、パフォーマンスに多少影響が出たり、ログファイルのサイズが急速に増大したりする場合があります。

- ・ 単純なバックアップ方法の場合(ZDBではない)、バックアップモードはバックアップ期間全体(数分から数時間)必要となります。たとえばテープへのバックアップの場合、テープへのデータストリーミングが終わるまでの間となります。
- ・ ZDBの方法を使うと、バックアップモードに必要な時間はデータ複製プロセス中のわずか数秒間です。残りのバックアッププロセスでは、データベースは通常の稼動を再開できます。

場合によっては、データベースを整合性を保って復元するために、トランザクションログもバックアップする必要があります。

「[ゼロダウンタイムバックアップ\(ZDB\)](#)および[オフラインバックアップ](#)」を参照。

階層ストレージ管理 (HSM)	使用頻度の低いデータを低コストの光磁気プラッタに移動することで、コストの高いハードディスク記憶域を有効利用するための仕組み。移動したデータが必要になった場合は、ハードディスク記憶域に自動的に戻されます。これにより、ハードディスクからの高速読み取りと光磁気プラッタの低コスト性のバランスが維持されます。
拡張可能ストレージエンジン(ESE)	(<i>Microsoft Exchange Server固有の用語</i>)Microsoft Exchange Serverで情報交換用の記憶システムとして使用されているデータベーステクノロジー。
拡張増分バックアップ	従来の増分バックアップでは、前回のバックアップより後に変更されたファイルがバックアップされますが、変更検出機能に限界があります。これに対し、拡張増分バックアップでは、名前が変更されたファイルや移動されたファイルのほか、属性が変更されたファイルについても、信頼性のある検出とバックアップが行われます。
確認	指定したメディア上のData Protectorデータが読み取り可能かどうかをチェックする機能。また、CRC(巡回冗長検査)オプションをオンにして実行したバックアップに対しては、各ブロック内の整合性もチェックできます。
仮想コントローラソフトウェア (VCS)	(<i>HP StorageWorks EVA固有の用語</i>)HSVコントローラを介したCommandView EVAとの通信など、記憶システムの処理すべてを管理するファームウェア。 「 CommandView (CV) EVA 」を参照。
仮想サーバー	ネットワークIP名およびIPアドレスでドメイン内に定義されるクラスター環境の仮想マシンです。アドレスはクラスターソフトウェアによりキャッシュされ、仮想サーバーリソースを現在実行しているクラス

ターノードにマップされます。こうして、特定の仮想サーバーに対するすべての要求が特定のクラスターノードにキャッシュされます。

仮想ディスク	(<i>HP StorageWorks EVA固有の用語</i>)HPStorageWorks Enterprise Virtual Arrayストレージプールから割り当てられたストレージのユニット。仮想ディスクは、HPStorageWorks Enterprise Virtual Arrayのスナップショット機能により複製されるエンティティです。 「ソースボリュームおよびターゲットボリューム」を参照。
仮想テープ	(<i>VLS固有の用語</i>)テープに保存された場合と同様にディスクドライブにデータをバックアップするアーカイブ式ストレージテクノロジー。バックアップスピードおよびリカバリスピードの向上、運用コストの削減など仮想テープシステムとしての利点がある。 「仮想ライブラリシステム(VLS)および仮想テープライブラリ(VTL)」を参照。
仮想テープライブラリ(VTL)	(<i>VLS固有の用語</i>)従来のテープベースのストレージ機能を提供する、エミュレートされるテープライブラリ。 「仮想ライブラリシステム(VLS)」を参照。
仮想デバイスインタフェース	(<i>Microsoft SQL Server固有の用語</i>)MicrosoftSQL Serverのプログラミングインタフェースの1つ。大容量のデータベースを高速でバックアップおよび復元できます。
仮想フルバックアップ	コピーするのではなくポインタを使用してデータが集約される、効率の良い合成バックアップ。配布ファイルメディア形式を使用する1つのファイルライブラリにすべてのバックアップ(フルバックアップ、増分バックアップ、およびその結果である仮想フルバックアップ)が書き込まれる場合に実行されます。
仮想ライブラリシステム(VLS)	1つまたは複数の仮想テープライブラリ(VTL)をホストする、ディスクベースのデータストレージデバイス。
カタログ保護	バックアップデータに関する情報(ファイル名やファイルバージョンなど)をIDBに維持する期間を定義します。 「データ保護」を参照。
監査情報	Data Protectorセル全体に対し、ユーザーが定義した拡張期間にわたって実施された、全バックアップセッションに関するデータ。
監査レポート	監査ログファイルに保存されたデータから作成される、ユーザーが判読可能な形式の監査情報出力。
監査ログ	監査情報が保存されるデータファイル。

キーストア	すべての暗号化キーは、Cell Managerのキーストアに集中的に格納され、キー管理サーバー(KMS)により管理されます。
キーマネージメントサービス	(Microsoft Exchange Server固有の用語)拡張セキュリティのための暗号化機能を提供するMicrosoft Exchange Serverのサービス。「インフォメーションストアおよびサイト複製サービス」を参照。
共有ディスク	あるシステム上に置かれたWindowsのディスクをネットワーク上の他のシステムのユーザーが使用できるように構成したもの。共有ディスクを使用しているシステムは、Data Protector Disk Agentがインストールされていなくてもバックアップ可能です。
緊急ブートファイル	(Informix Server固有の用語)Informix Server構成ファイルixbar.server_id。このファイルは、INFORMIXDIR/etcディレクトリ(Windowsの場合)、またはINFORMIXDIR/etcディレクトリ(UNIXの場合)に置かれています。INFORMIXDIRはInformix Serverのホームディレクトリ、server_idはSERVERNUM構成パラメータの値です。緊急ブートファイルの各行は、1つのバックアップオブジェクトに対応します。
クライアントバックアップ	Data Protectorクライアントにマウントされているすべてのファイルシステムのバックアップ。 実際に何がバックアップされるかは、バックアップ仕様でどのようにオブジェクトを選択するかによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントシステム名の隣のチェックボックスを選択した場合、[クライアントシステム]の種類の1つのバックアップオブジェクトが作成されます。その結果、バックアップ時にData Protectorは選択されたクライアントにマウントされているすべてのボリュームを最初に検出してから、それらをバックアップします。Windowsクライアントの場合、CONFIGURATIONもバックアップされます。 ・ クライアントシステムにマウントされているすべてのボリュームを別々に選択する場合、Filesystemタイプの個別バックアップオブジェクトがボリュームごとに作成されます。その結果、バックアップ時に、選択されたボリュームのみがバックアップされます。バックアップ仕様が作成された後にクライアントにマウントされた可能性があるボリュームは、バックアップされません。
クライアントまたはクライアントシステム	セル内でData Protectorの機能を使用できるように構成された任意のシステム。
クラスター対応アプリケーション	クラスターアプリケーションプログラミングインタフェースをサポートしているアプリケーション。クラスター対応アプリケーションごとに、

クリティカルリソースが宣言されます。これらのリソースには、ディスクボリューム(Microsoft Cluster Serverの場合)、ボリュームグループ(MC/ServiceGuardの場合)、アプリケーションサービス、IP名およびIPアドレスなどがあります。

- クラスター連続レプリケーション** (*Microsoft Exchange Server 固有の用語*)クラスター連続レプリケーション(CCR)はクラスター管理とフェイルオーバーオプションを使用して、ストレージグループの完全なコピー(CCRコピー)を作成および維持する高可用性ソリューションです。ストレージグループは個別のサーバーに複製されます。CCRはExchangeバックエンドサーバーで発生した単発箇所の障害を取り除きます。CCRコピーが存在するパッシブExchangeServerノードでVSSを使用してバックアップを実行すれば、アクティブノードの負荷が軽減されます。CCRコピーへの切り替えは数秒で完了するため、CCRコピーはディザスタリカバリに使用されます。複製されたストレージグループは、Exchangeライターの新しいインスタンス(Exchange Replication Service)として表示され、元のストレージグループと同様にVSSを使用してバックアップできます。
「[Exchange Replication Service](#)および[ローカル連続レプリケーション](#)」を参照。
- グループ** (*Microsoft Cluster Server 固有の用語*)特定のクラスター対応アプリケーションを実行するために必要なリソース(ディスクボリューム、アプリケーションサービス、IP名およびIPアドレスなど)の集合。
- グローバルオプションファイル** Data Protectorをカスタマイズするためのファイル。このファイルでは、Data Protectorのさまざまな設定(特に、タイムアウトや制限)を定義でき、その内容はData Protectorセル全体に適用されます。このファイルは、Data_Protector_program_data¥Config¥Server¥Optionsディレクトリ(Windows Server 2008の場合)、Data_Protector_home¥Config¥Server¥Optionsディレクトリ(その他のWindowsシステム)、または/etc/opt/omni/server/optionsディレクトリ(HP-UX またはSolaris システムの場合)のCellManagerに置かれています。
- 合成バックアップ** データに関しては従来のフルバックアップと同じである合成フルバックアップを、生産サーバーやネットワークに負担をかけずに出力するバックアップソリューション。合成フルバックアップは、前回のフルバックアップと任意の数の増分バックアップを使用して作成されません。
- 合成フルバックアップ** バックアップオブジェクトの復元チェーンが新たな合成フルバージョンのオブジェクトにマージされる、オブジェクト集約処理の結果。合成フルバックアップは、復元速度の面では従来のフルバックアップと同じです。

コピーセット	(HP StorageWorks EVA 固有の用語)ローカルEVA上にあるソースボリュームとリモートEVA上にあるその複製とのペア。 「ソースボリューム、複製、およびCA+BCEVA」を参照。
コマンド行インタフェース(CLI)	CLIには、DOSコマンドやUNIXコマンドと同じようにシェルスクリプト内で使用できるコマンドが用意されています。これらを使用して、Data Protectorの構成、バックアップ、復元、および管理の各タスクを実行することができます。
再解析ポイント	(Windows 固有の用語)任意のディレクトリまたはファイルに関連付けることができるシステム制御属性。再解析属性の値は、ユーザー制御データをとることができます。このデータの形式は、データを保存したアプリケーションによって認識され、データの解釈用にインストールされており、該当ファイルを処理するファイルシステムフィルタによっても認識されます。ファイルシステムは、再解析ポイント付きのファイルを検出すると、そのデータ形式に関連付けられているファイルシステムフィルタを検索します。
再同期モード	(HP StorageWorks Disk Array XP VSSプロバイダ 固有の用語)2つのXPVSSハードウェアプロバイダ操作モードの1つ。XPプロバイダが再同期モードであると、ソースボリューム(P-VOL)とその複製(S-VOL)は、バックアップ後、中断ミラー関係になります。MU範囲が0-2(つまり、0、1、2)の場合、ローテーションされる最大複製数(P-VOL当たりのS-VOL数)は3となります。このような構成でのバックアップからの復元は、S-VOLをそのP-VOLと再同期することによってのみ可能となります。 「VSS準拠モード、ソースボリューム、プライマリボリューム(P-VOL)、複製、セカンダリボリューム(S-VOL)、MU番号、および複製セットローテーション」を参照。
サイト複製サービス	(Microsoft Exchange Server 固有の用語)Exchange Server 5.5ディレクトリサービスをエミュレートすることで、Microsoft Exchange Server 5.5と互換性のあるMicrosoft Exchange Server 2000/2003のサービス。 「インフォメーションストアおよびキー管理サービス」を参照。
差分同期(再同期)	(EMC Symmetrix 固有の用語)BCVまたはSRDF制御操作。BCV制御操作では、差分同期(Incremental Establish)により、BCVデバイスが増分的に同期化され、EMC Symmetrixミラー化メディアとして機能します。EMC Symmetrix デバイスは、事前にペアにしておく必要があります。SRDF制御操作では、差分同期(Incremental Establish)により、ターゲットデバイス(R2)が増分的に同期化され、

EMCSymmetrixミラー化メディアとして機能します。EMC Symmetrix デバイスは、事前にペアにしておく必要があります。

差分リストア

(EMC Symmetrix 固有の用語)BCVまたはSRDF制御操作。BCV制御操作では、差分リストアにより、BCVデバイスがペア内の2番目に利用可能な標準デバイスのミラーとして再割り当てされます。これに対し、標準デバイスの更新時には、オリジナルのペアの分割中にBCVデバイスに書き込まれたデータだけが反映され、分割中に標準デバイスに書き込まれたデータはBCVミラーからのデータで上書きされます。SRDF制御操作では、差分リストアにより、ターゲットデバイス(R2)がペア内の2番目に利用可能なソースデバイス(R1)のミラーとして再割り当てされます。これに対し、ソースデバイス(R1)の更新時には、オリジナルのペアの分割中にターゲットデバイス(R2)に書き込まれたデータだけが反映され、分割中にソースデバイス(R1)に書き込まれたデータはターゲットミラー(R2)からのデータで上書きされます。

システムデータベース

(Sybase 固有の用語)Sybase SQL Serverを新規インストールすると、以下の4種類のデータベースが生成されます。

- ・ マスターデータベース(master)
- ・ 一時データベース(tempdb)
- ・ システムプロシージャデータベース(sybsystemprocs)
- ・ モデルデータベース(model)

システムボリューム/ ディスク/ パーティション

オペレーティングシステムファイルが格納されているボリューム/ディスク/パーティション。ただし、Microsoftの用語では、ブートプロセスの開始に必要なファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティションをシステムボリューム/システムディスク/システムパーティションと呼んでいます。

システム復旧データ ファイル

「SRDファイル」を参照。

システム状態

(Windows 固有の用語)システム状態データには、レジストリ、COM+クラス登録データベース、システム起動ファイル、および証明書サービスデータベース(証明書サーバーの場合)が含まれます。サーバーがドメインコントローラの場合は、ActiveDirectoryサービスとSYSVOLディレクトリもシステム状態データに含まれます。サーバーがクラスターサービスを実行している場合、システム状態データにはリソースレジストリチェックポイントとクォーラムリソースリカバリログが含まれ、最新のクラスターデータ情報が格納されます。

事前割当てリスト	メディアプール内のメディアのサブセットをバックアップに使用する順に指定したリスト。
実行後	オブジェクトのバックアップ後、またはセッション全体の完了後にコマンドまたはスクリプトを実行するバックアップオプション。実行後コマンドは、DataProtectorで事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。 「 実行前 」を参照。
実行前	オブジェクトのバックアップ前、またはセッション全体の開始前にコマンドまたはスクリプトを実行するバックアップオプション。実行前コマンドおよび実行後コマンドは、DataProtectorで事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。 「 実行後 」を参照。
実行前コマンドと実行後コマンド	実行前コマンドおよび実行後コマンドは、バックアップセッションまたは復元セッションの前後に付加的な処理を実行する実行可能ファイルまたはスクリプトです。実行前コマンドおよび実行後コマンドは、DataProtectorで事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。
シャドウコピー	(<i>Microsoft VSS固有の用語</i>)特定の時点におけるオリジナルボリューム(元のボリューム)の複製を表すボリューム。オリジナルボリュームからではなく、シャドウコピーからデータがバックアップされます。オリジナルボリュームはバックアップ処理中も更新が可能ですが、ボリュームのシャドウコピーは同じ内容に維持されます。 「 Microsoft VolumeShadow Copy Service および 複製 」を参照。
シャドウコピーセット	(<i>Microsoft VSS固有の用語</i>)同じ時点で作成されたシャドウコピーのコレクション。 「 シャドウコピー および 複製セット 」を参照。
シャドウコピープロバイダ	(<i>Microsoft VSS固有の用語</i>)ボリュームシャドウコピーの作成と表現を行うエンティティ。プロバイダは、シャドウコピーデータを所有して、シャドウコピーを公開します。プロバイダは、ソフトウェア(シ

システムプロバイダなどで実装することも、ハードウェア(ローカルディスクやディスクアレイ)で実装することもできます。

「シャドウコピー」を参照。

ジュークボックス 「ライブラリ」を参照。

ジュークボックスデバイス 光磁気メディアまたはファイルメディアを格納するために使用する、複数のスロットからなるデバイス。ファイルメディアの格納に使用する場合、ジュークボックスデバイスは「ファイルジュークボックスデバイス」と呼ばれます。

集中型ライセンス Data Protectorでは、複数のセルからなるエンタープライズ環境全体にわたって集中型ライセンスを構成できます。すべてのData Protectorライセンスは、エンタープライズCell Managerシステム上にインストールされます。ライセンスは、実際のニーズに応じてエンタープライズCell Managerシステムから特定のセルに割り当てることができます。
「MoM」を参照。

循環ログ (Microsoft Exchange ServerおよびLotus Domino Server固有の用語)循環ログは、Microsoft Exchange ServerデータベースおよびLotus Domino Serverデータベースモードの1つ。このモードでは、トランザクションログファイルのコンテンツは、対応するデータがデータベースにコミットされると、定期的にも上書きされます。循環ログにより、ディスク記憶領域の要件が軽減されます。

証明書サーバー Windows 2000証明書サーバーをインストールして構成すると、クライアントに証明書を提供することができます。証明書サーバーは、エンタープライズ用の証明書を発行および管理するためのカスタマイズ可能なサービスを提供します。これらのサービスでは、公開キーベースの暗号化技術で使用されている証明書の発行、取り消し、および管理が可能です。

初期化 「フォーマット」を参照。

所有権 バックアップ所有権は、データを表示および復元するユーザーの機能に影響を与えます。各バックアップセッションとその中でバックアップされたすべてのデータはオーナーに割り当てられます。所有者は、対話型バックアップを開始するユーザー、CRSプロセスを実行するときに使用するアカウント、またはバックアップ仕様オプションで所有者として指定されたユーザーです。
ユーザーが既存のバックアップ仕様を修正せずにそのまま起動した場合、そのバックアップセッションは対話型とみなされません。

ユーザーがバックアップ仕様を修正して起動すると、以下の条件が成立しない限り、そのユーザーがオーナーになります。

- ・ そのユーザーが[セッションの所有権を切り替え]ユーザー権限を持っている。
- ・ バックアップ仕様内でバックアップセッションオーナーを明示的に定義するには、ユーザー名、グループ名またはドメイン名、およびシステム名を指定します。

UNIX Cell Manager上でスケジューリングしたバックアップの場合、上記の条件が成立しない限り、root: sysがセッションオーナーになります。

Windows Cell Manager上でスケジューリングしたバックアップの場合は、上記の条件が成立していない限り、インストール時に指定されたユーザーがセッションオーナーになります。

スイッチオーバー	「フェイルオーバー」を参照。
スキャン	デバイス内のメディアを識別する機能。これにより、MMDBを、選択した位置(たとえば、ライブラリ内のスロット)に実際に存在するメディアと同期させることができます。デバイスに含まれる実際のメディアをスキャンしてチェックすると、第三者がDataProtectorを使用せずにメディアを操作(挿入または取り出しなど)していないかどうかを確認できます。
スケジューラ	自動バックアップの実行タイミングと頻度を制御する機能。スケジューラを設定することで、バックアップの開始を自動化できます。
スタッカー	メディア記憶用の複数のスロットを備えたデバイス。通常は、1ドライブ構成です。スタッカーは、スタックからシーケンシャルにメディアを選択します。これに対し、ライブラリはレポジトリからメディアをランダムに選択します。
スタンドアロンファイルデバイス	ファイルデバイスとは、ユーザーがデータのバックアップに指定したディレクトリにあるファイルのことです。
ストレージグループ	(Microsoft Exchange Server固有の用語)同じログファイルを共有する複数のメールボックスストアとパブリックフォルダストアのコレクション。Exchange Serverでは、各ストレージグループを個別のサーバープロセスで管理します。
ストレージボリューム	(ZDB固有の用語)ストレージボリュームは、オペレーティングシステムまたはボリューム管理システム、ファイルシステム、または他のオブジェクトが存在可能なその他のエンティティに提供可能なオブジェクトを表します(たとえば仮想化技法)。ボリューム管理システム、

ファイルシステムはこの記憶域に構築されます。これらは通常、ディスクアレイなどの記憶システム内に作成または存在します。

スナップショット

(HP StorageWorks VAおよびHP StorageWorks EVA固有の用語)スナップショット作成技法を使用して作成された複製の形式。使用するアレイ/技法に応じて、特徴の異なるさまざまな種類のスナップショットが使用できます。このような複製は動的で、スナップショットの種類と作成からの経過時間によって、仮想コピーにあるか、ソースボリュームの内容に引き続き依存するか、または独立した正確な複製(クローン)になります。
「複製およびスナップショット作成」を参照。

スナップショットのバックアップ (HP StorageWorks VAおよびHP StorageWorks EVA固有の用語)

「テープへのZDB、ディスクへのZDB、およびディスク/テープへのZDB」を参照。

スナップショット作成

(HP StorageWorks VAおよびHP StorageWorks EVA固有の用語)複製を作成する技法で、ストレージ仮想化技法を使用して、ソースボリュームのコピーが作成されます。複製はある一時点で作成されたものとみなされ、事前構成することなく、即座に使用できます。ただし、通常は複製作成後もコピープロセスはバックグラウンドで継続されます。
「スナップショット」を参照。

スパースファイル

ブロックが空の部分を含むファイル。例として、データの一部または大部分にゼロが含まれるマトリクス、イメージアプリケーションからのファイル、高速データベースなどがあります。スパースファイルの処理を復元中に有効にしておかないと、スパースファイルを復元できなくなる可能性があります。

スプリットミラー

(EMC SymmetrixおよびHP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)スプリットミラー技法を使用して作成した複製。複製により、ソースボリュームの内容について独立した正確な複製(クローン)が作成されます。
「複製およびスプリットミラーの作成」を参照。

スプリットミラーの作成

(EMC SymmetrixおよびHP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)事前構成したターゲットボリュームのセット(ミラー)を、ソースボリュームの内容の複製が必要になるまでソースボリュームのセットと同期化し続ける複製技法。その後、同期を停止(ミラーを

分割)すると、分割時点でのソースボリュームのスプリットミラー複製はターゲットボリュームに残ります。
「[スプリットミラー](#)」を参照。

- スプリットミラーバックアップ**
(EMCSymmetrix固有の用語) 「[テープへのZDB](#)」を参照。
- スプリットミラーバックアップ(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)** 「[テープへのZDB](#)、[ディスクへのZDB](#)および[ディスク/テープへのZDB](#)」を参照。
- スプリットミラー復元** (EMC SymmetrixおよびHP StorageWorks DiskArray XP固有の用語)テープへのZDBセッションまたはディスク/テープへのZDBセッションでバックアップされたデータをテープメディアからスプリットミラー複製へ復元し、その後ソースボリュームに同期させるプロセス。この方法では、完全なセッションを復元することも個々のバックアップオブジェクトを復元することも可能です。
「[テープへのZDB](#)、[ディスク+テープへのZDB](#)および[複製](#)」を参照。
- スマートコピー** (VLS固有の用語)仮想テープから物理テープライブラリへ作成されたバックアップデータのコピー。スマートコピーのプロセスによって、DataProtectorではソースメディアとターゲットメディアを区別できるため、メディア管理が可能になります。
「[仮想ライブラリシステム\(VLS\)](#)」を参照。
- スマートコピープール** (VLS固有の用語)指定されたソース仮想ライブラリに対してどのコピー先ライブラリスロットをスマートコピーターゲットとして使用できるかどうかを定義するプール。
「[仮想ライブラリシステム\(VLS\)](#)および[スマートコピー](#)」を参照。
- スレッド** (Microsoft SQL Server固有の用語)1つのプロセスのみに属する実行可能なエンティティ。プログラムカウンタ、ユーザーモードスタック、カーネルモードスタック、および1式のレジスタ値からなります。同じプロセス内で複数のスレッドを同時に実行できます。
- スロット** ライブラリ内の機械的位置。各スロットがDLTテープなどのメディアを1つずつ格納できます。Data Protectorでは、各スロットを番号で参照します。メディアを読み取る際には、ロボット機構がメディアをスロットからドライブに移動します。

制御ファイル	(OracleおよびSAP R/3固有の用語)データベースの物理構造を指定するエントリが記述されたOracleデータファイル。復旧に使用するデータベース情報の整合性を確保できます。
セカンダリボリューム(S-VOL)	(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)セカンダリボリューム(S-VOL)は、別のLDEV(P-VOL)のセカンダリなCAミラーまたはBCミラーの役割を果たすXPLDEVです。CAの場合、S-VOLをMetroCluster構成内のフェイルオーバーデバイスとして使うことができます。S-VOLには、P-VOLによって使用されるアドレスとは異なる、個別のSCSIアドレスが割り当てられます。「プライマリボリューム(P-VOL)およびMain Control Unit(MCU)」を参照。
セッション	「バックアップセッション、メディア管理セッションおよび復元セッション」を参照。
セッションID	バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、またはメディア管理セッションの識別子で、セッションを実行した日付と一意の番号から構成されます。
セッションキー	実行前スクリプトおよび実行後スクリプト用の環境変数。Data Protectorプレビューセッションを含めたセッションを一意に識別します。セッションキーはデータベースに記録されず、omnimnt、omnistat、およびomniabort コマンドのオプション指定に使用されます。
セル	1台のCell Managerに管理されているシステムの集合。セルには、一般に、同じLANに接続されたサイトや組織エンティティ上のシステムが含まれます。集中管理によるバックアップおよび復元のポリシーやタスクの管理が可能です。
ゼロダウンタイムバックアップ(ZDB)	ディスクアレイにより実現したデータ複製技術を用いて、アプリケーションシステムのバックアップ処理の影響を最小限に抑えるバックアップアプローチ。バックアップされるデータの複製がまず作成されます。その後のすべてのバックアップ処理は、元のデータではなく複製データを使って実行し、アプリケーションシステムは通常の処理に復帰します。「ディスクへのZDB、テープへのZDB、ディスク+テープへのZDB、およびインスタントリカバリ」を参照。
増分1メールボックスバックアップ	増分1メールボックスバックアップでは、前回のフルバックアップ以降にメールボックスに対して行われた変更をすべてバックアップします。

増分ZDB	ファイルシステムZDBからテープへ、またはZDBからディスク+テープへのセッション。前回の保護されたフルバックアップまたは増分バックアップからの変更のみがテープにストリーミングされます。 「 フルZDB 」を参照。
増分バックアップ	(<i>Microsoft Exchange Server固有の用語</i>)前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降の変更だけをバックアップするMicrosoftExchange Serverデータのバックアップ。増分バックアップでは、バックアップ対象はトランザクションログだけです。 「 バックアップの種類 」を参照。
増分バックアップ	前回のバックアップ以降に変更があったファイルだけを選択するバックアップ。増分バックアップには複数のレベルがあり、復元チェーンの長さを細かく制御できます。 「 バックアップの種類 」を参照。
増分メールボックスバックアップ	増分メールボックスバックアップでは、前回の各種バックアップ以降にメールボックスに対して行われた変更をすべてバックアップします。
ソースデバイス(R1)	(<i>EMC Symmetrix固有の用語</i>)ターゲットデバイス(R2)とのSRDF操作に参加するEMCSymmetrixデバイス。このデバイスに対するすべての書き込みは、リモートEMC Symmetrixユニット内のターゲットデバイス(R2)にミラー化されます。R1デバイスは、RDF1グループタイプに割り当てる必要があります。 「 ターゲットデバイス(R2) 」を参照。
ソースボリューム	(<i>ZDB固有の用語</i>)複製されるデータを含むストレージボリューム。
ターゲットシステム	(<i>ディザスタリカバリ固有の用語</i>)コンピュータの障害が発生した後のシステム。ターゲットシステムは、ブート不能な状態になっていることが多く、そのような状態のシステムを元のシステム構成に戻すことがディザスタリカバリの目標となります。クラッシュしたシステムがそのままターゲットシステムになるのではなく、正常に機能していないハードウェアをすべて交換することで、クラッシュしたシステムがターゲットシステムになります。
ターゲットデータベース	(<i>Oracle固有の用語</i>)RMANでは、バックアップまたは復元対象のデータベースがターゲットデータベースとなります。
ターゲットデバイス(R2)	(<i>EMC Symmetrix固有の用語</i>)ターゲットデバイス(R1)とのSRDF操作に参加するEMCSymmetrixデバイス。リモートEMC Symmetrixユニット内に置かれます。ローカルEMC Symmetrixユニット内でソースデバイス(R1)とペアになり、ミラー化ペアから、すべての書き込み

データを受け取ります。このデバイスは、通常のI/O操作ではユーザーアプリケーションからアクセスされません。R2デバイスは、RDF2グループタイプに割り当てる必要があります。
「ソースデバイス(R1)」を参照。

ターゲットボリューム	(ZDB固有の用語)複製されるデータを含むストレージボリューム。
ターミナルサービス	(Windows固有の用語)Windowsのターミナルサービスは、サーバー上で実行されている仮想WindowsデスクトップセッションとWindowsベースのプログラムにクライアントからアクセスできるマルチセッション環境を提供します。
ダイレクトバックアップ	SCSI Extended Copy (Xcopy)コマンドを使用してディスクからテープ(または他の2次ストレージ)へのデータの直接移動を効率化する、SANベースのバックアップソリューション。ダイレクトバックアップは、SAN環境内のシステムへのバックアップI/O負荷を軽減します。ディスクからテープ(または他の2次ストレージ)へのデータの直接移動をSCSIExtended Copy (XCopy)コマンドで効率化します。このコマンドは、ブリッジ、スイッチ、テープライブラリ、ディスクサブシステムなど、インフラストラクチャの各要素でサポートされています。 「XCopyエンジン」を参照。
チャンネル	(Oracle固有の用語)Oracle RecoveryManagerリソース割り当て。チャンネルが割り当てられるごとに、新しいOracleプロセスが開始され、そのプロセスを通じてバックアップ、復元、および復旧が行われます。割り当てられるチャンネルの種類によって、使用するメディアの種類が決まります。 <ul style="list-style-type: none">・ diskタイプ・ sbt_tapeタイプ OracleがData Protectorと統合されており、指定されたチャンネルの種類がsbt_tapeタイプの場合は、上記のサーバープロセスがData Protectorに対してバックアップの読み取りとデータファイルの書き込みを試行します。
ディザスタリカバリ	クライアントのメインシステムディスクを(フル)バックアップの実行時に近い状態に復元するためのプロセスです。
ディザスタリカバリオペレーティングシステム(DR OS)	「DR OS」を参照。

ディザスタリカバリの段階0	ディザスタリカバリの準備(ディザスタリカバリを成功させるための必須条件)。
ディザスタリカバリの段階1	DR OSのインストールと構成(以前の記憶領域構造の構築)。
ディザスタリカバリの段階2	オペレーティングシステム(環境を定義する各種の構成情報を含む)とData Protectorの復元。
ディザスタリカバリの段階3	ユーザーデータとアプリケーションデータの復元。
ディスク+テープへのZDB	<p>(ZDB固有の用語)ゼロダウンタイムバックアップの1つの形式。ディスクへのZDBと同様に、作成された複製が特定の時点でのソースボリュームのバックアップとしてディスクアレイに保持されます。ただし、テープへのZDBと同様、複製データはバックアップメディアにもストリーミングされます。このバックアップ方法を使用した場合、同じセッションでバックアップしたデータは、インスタントリカバリ、Data Protector標準のテープからの復元を使用して復元できます。スプリットミラーアレイではスプリットミラー復元が可能です。</p> <p>「ゼロダウンタイムバックアップ(ZDB)、ディスクへのZDB、テープへのZDB、インスタントリカバリ、複製、および複製セットローテーション」を参照。</p>
ディスクイメージ (rawディスク)のバックアップ	<p>ディスクイメージのバックアップでは、ファイルがビットマップイメージとしてバックアップされるので、高速バックアップが実現します。ディスクイメージ(rawディスク)バックアップでは、ディスク上のファイルおよびディレクトリの構造はバックアップされませんが、ディスクイメージ構造がバイトレベルで保存されます。ディスクイメージバックアップは、ディスク全体か、またはディスク上の特定のセクションを対象にして実行できます。</p>
ディスククォータ	<p>コンピュータシステム上のすべてのユーザーまたはユーザーのサブセットに対してディスクスペースの消費を管理するためのコンセプト。このコンセプトは、いくつかのオペレーティングシステムプラットフォームで採用されています。</p>
ディスクグループ	<p>(Veritas Volume Manager固有の用語)NxVMシステムのデータストレージの基本ユニット。ディスクグループは、1つまたは複数の物理ボリュームから作成できます。同じシステム上に複数のディスクグループを置くことができます。</p>
ディスクステージング	<p>データをいくつかの段階に分けてバックアップする処理。これにより、バックアップと復元のパフォーマンスが向上し、バックアップデー</p>

タの格納費用が節減され、データの可用性と復元時のアクセス性が向上します。バックアップステージは、最初に1種類のメディア(たとえば、ディスク)にデータをバックアップし、その後データを異なる種類のメディア(たとえば、テープ)にコピーすることから構成されません。

- ディスクへのZDB** (ZDB固有の用語)ゼロダウンタイムバックアップの1つの形式。作成された複製が、特定の時点でのソースボリュームのバックアップとしてディスクアレイに保持されます。同じバックアップ仕様を使って別の時点で作成された複数の複製を、複製セットに保持することができます。テープにZDBした複製はインスタントリカバリプロセスで復元できます。
「[ゼロダウンタイムバックアップ\(ZDB\)](#)、[テープへのZDB](#)、[ディスク+テープへのZDB](#)、[インスタントリカバリ](#)、および[複製セットローテーション](#)」を参照。
- ディファレンシャルバックアップ** (Microsoft SQL Server固有の用語)前回のフルデータベースバックアップ以降にデータベースに対して加えられた変更だけを記録するデータベースバックアップ。
「[バックアップの種類](#)」を参照。
- ディファレンシャルバックアップ** 前回のフルバックアップより後の変更をバックアップする増分バックアップ。このバックアップを実行するには、増分1バックアップを指定します。
「[増分バックアップ](#)」を参照。
- ディレクトリ接合** (Windows固有の用語)ディレクトリ接合は、Windowsの再解析ポイントのコンセプトに基づいています。NTFS5ディレクトリ接合では、ディレクトリ/ファイル要求を他の場所にリダイレクトできます。
- データストリーム** 通信チャンネルを通じて転送されるデータのシーケンス。
- データファイル** (OracleおよびSAP R/3固有の用語)Oracleによって作成される物理ファイル。表や索引などのデータ構造を格納します。データファイルは、1つのOracleデータベースにのみ所属できます。
- データベースサーバー** 大規模なデータベース(SAP R/3データベースやMicrosoft SQLデータベースなど)が置かれているコンピュータ。サーバー上のデータベースへは、クライアントからアクセスできます。
- データベースの並列処理(数)** 十分な台数のデバイスが利用可能で、並列バックアップを実行できる場合には、複数のデータベースが同時にバックアップされます。

データベースの差分バックアップ	前回のフルデータベースバックアップ以降にデータベースに対して加えられた変更だけを記録するデータベースバックアップ。
データベーススライブラリ	Data Protectorのルーチンのセット。Oracle Serverのようなオンラインデータベース統合ソフトウェアのサーバーとData Protectorの間でのデータ転送を可能にします。
データ保護	メディア上のバックアップデータを保護する期間を定義します。この期間中は、データが上書きされません。保護期限が切れると、それ以降のバックアップセッションでメディアを再利用できるようになります。 「 カタログ保護 」を参照。
データ複製(DR)グループ	(<i>HP StorageWorks EVA固有の用語</i>)EVA仮想ディスクの論理グループ。共通の性質を持ち、同じCAEVAログを共有していれば、最大8組のコピー セットを含めることができます。 「 コピーセット 」を参照。
テープなしのバックアップ(ZDB固有の用語)	「 ディスクへのZDB 」を参照。
テープへのZDB	(<i>ZDB固有の用語</i>)ゼロダウンタイムバックアップの1つの形式。作成された複製が、バックアップメディア(通常はテープ)にストリーミングされます。このバックアップ形式ではインスタントリカバリはできませんが、バックアップ終了後にディスクアレイ上に複製を保持する必要がありません。バックアップデータはData Protector標準のテープからの復元を使用して復元できます。スプリットミラーアレイでは、スプリットミラー復元も使用することができます。 「 ゼロダウンタイムバックアップ(ZDB) 、 ディスクへのZDB 、 インスタントリカバリ 、 ディスク+テープへのZDB 、および 複製 」を参照。
デバイス	ドライブまたはより複雑な装置(ライブラリなど)を格納する物理装置。
デバイスグループ	(<i>EMC Symmetrix固有の用語</i>)複数のEMC Synnetrix デバイスを表す論理ユニット。デバイスは1つのデバイスグループにしか所属できません。デバイスグループのデバイスは、すべて同じ EMC Symmetrix 装置に取り付けられている必要があります。デバイスグループにより、利用可能な EMC Symmetrix デバイスのサブセットを指定し、使用することができます。
デバイスストリーミング	デバイスがメディアへ十分な量のデータを継続して送信できる場合、デバイスはストリーミングを行います。そうでない場合は、デバイスはテープを止めてデータが到着するのを待ち、テープを少し巻

き戻した後、テープへの書込みを再開します。言い換えると、テープにデータを書き込む速度が、コンピュータシステムがデバイスへデータを送信する速度以下の場合、デバイスはストリーミングを行います。ストリーミングは、スペースの使用効率とデバイスのパフォーマンスを大幅に向上します。

- デバイスチェーン** デバイスチェーンは、シーケンシャルに使用するよう構成された複数のスタンドアロンデバイスからなります。デバイスチェーンに含まれるデバイスのメディアで空き容量がなくなると、自動的に次のデバイスのメディアに切り替えて、バックアップを続けます。
- デルタバックアップ** ディファレンシャルバックアップ(delta backup)では、前回の各種バックアップ以降にデータベースに対して加えられたすべての変更がバックアップされます。
「[バックアップの種類](#)」を参照。
- 統合ソフトウェアオブジェクト** OracleまたはSAP DBなどのData Protector統合ソフトウェアのバックアップオブジェクト。
- 同時処理数** 「[Disk Agentの同時処理数](#)」を参照。
- ドメインコントローラ** ユーザーのセキュリティを保護し、別のサーバーグループ内のパスワードを検証するネットワーク内のサーバー。
- ドライブ** コンピュータシステムからデータを受け取って、磁気メディア(テープなど)に書き込む物理装置。データをメディアから読み取って、コンピュータシステムに送信することもできます。
- ドライブのインデックス** ライブラリデバイス内のドライブの機械的な位置を識別するための数字。ロボット機構によるドライブアクセスは、この数に基づいて制御されます。
- ドライブベースの暗号化** Data Protectorのドライブベースの暗号化では、ドライブの暗号化機能が使用されます。バックアップの実行中、ドライブではメディアに書き込まれるデータとメタデータの両方が暗号化されます。
- トランザクション** 一連のアクションを単一の作業単位として扱えるようにするためのメカニズム。データベースでは、トランザクションを通じて、データベースの変更を追跡します。
- トランザクションバックアップ** (SybaseおよびSQL固有の用語)トランザクションログをバックアップすること。トランザクションログには、前回のフルバックアップまたはトランザクションバックアップ以降に発生した変更が記録されません。

トランザクションバックアップ	トランザクションバックアップは、一般に、データベースのバックアップよりも必要とするリソースが少ないため、データベースのバックアップよりもより高い頻度で実行できます。トランザクションバックアップを適用することで、データベースを問題発生以前の特定の時点の状態に復旧することができます。
トランザクションログ	(Data Protector 固有の用語)IDBに対する変更を記録します。IDB復旧に必要なトランザクションログファイル(前回のIDBバックアップ以降に作成されたトランザクションログ)が失われることがないように、トランザクションログのアーカイブを有効化しておく必要があります。
トランザクションログテーブル	(Sybase 固有の用語)データベースに対するすべての変更が自動的に記録されるシステムテーブル。
トランザクションログバックアップ	トランザクションログバックアップは、一般に、データベースのバックアップよりも必要とするリソースが少ないため、データベースのバックアップよりもより高い頻度で実行できます。トランザクションログバックアップを用いることにより、データベースを特定の時点の状態に復旧できます。
トランザクションログファイル	データベースを変更するトランザクションを記録するファイル。データベースが破損した場合にフォールトトレランスを提供します。
トランスポートابلスナップショット	(Microsoft VSS 固有の用語)アプリケーションシステム上に作成されるシャドウコピー。このシャドウコピーは、バックアップを実行するバックアップシステムに提供できます。 「 Microsoft VolumeShadow Copy Service (VSS) 」を参照。
ハートビート	特定のクラスターノードの動作ステータスに関する情報を伝達するタイムスタンプ付きのクラスターデータセット。このデータセット(パケット)は、すべてのクラスターノードに配布されます。
ハードリカバリ	(Microsoft Exchange Server 固有の用語)トランザクションログファイルを使用し、データベースエンジンによる復元後に実行されるMicrosoft Exchange Serverのデータベース復旧。
配布ファイルメディア形式	ファイルライブラリで利用できるメディア形式。仮想フルバックアップと呼ばれる容量効率のいい合成バックアップをサポートしています。この形式を使用することは、仮想フルバックアップにおける前提条件です。 「 仮想フルバックアップ 」を参照。

バックアップAPI	Oracleのバックアップ/復元ユーティリティとバックアップ/復元メディア管理層の間にあるOracleインタフェース。このインタフェースによってルーチンのセットが定義され、バックアップメディアのデータの読み書き、バックアップファイルの作成や検索、削除が行えるようになります。
バックアップID	統合ソフトウェアオブジェクトの識別子で、統合ソフトウェアオブジェクトのバックアップのセッションIDと一致します。バックアップIDは、オブジェクトのコピー、エクスポート、またはインポート時に保存されます。
バックアップオーナー	IDBの各バックアップオブジェクトにはオーナーが定義されています。デフォルトのオーナーは、バックアップセッションを開始したユーザーです。
バックアップオブジェクト	<p>1つのディスクボリューム(論理ディスクまたはマウントポイント)からバックアップされた項目すべてを含むバックアップ単位。バックアップ項目は、任意の数のファイル、ディレクトリ、ディスク全体またはマウントポイントの場合が考えられます。また、バックアップオブジェクトはデータベース/アプリケーションエンティティまたはディスクイメージ(rawディスク)の場合もあります。</p> <p>バックアップオブジェクトは以下のように定義されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアント名:バックアップオブジェクトが保存されるData Protectorクライアントのホスト名 ・ マウントポイント: ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合—バックアップオブジェクトが存在するクライアント(Windowsではドライブ、UNIXではマウントポイント)上のディレクトリ構造におけるアクセスポイント。統合オブジェクトを対象とする場合—バックアップストリームID。バックアップされたデータベース項目/アプリケーション項目を示します。 ・ 説明: ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合—同一のクライアント名とマウントポイントを持つオブジェクトを一意に定義します。統合オブジェクトを対象とする場合—統合の種類を表示します(例:SAPまたはLotus)。 ・ 種類:バックアップオブジェクトの種類。ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合—ファイルシステムの種類(例:WinFS)。統合オブジェクトを対象とする場合—「Bar」
バックアップシステム	(ZDB固有の用語)1つ以上のアプリケーションシステムのターゲットボリュームに接続しているシステム。典型的なバックアップシステム

ムは、バックアップデバイスに接続され、複製内のデータのバックアップを実行します。

「[アプリケーションシステム](#)、[ターゲットボリューム](#)および[複製](#)」を参照。

- バックアップセッション** データのコピーを記憶メディア上に作成するプロセス。バックアップ仕様に処理内容を指定することも、対話式に操作を行うこと(対話式セッション)もできます。1つのバックアップ仕様の中で複数のクライアントが構成されている場合、すべてのクライアントが同じバックアップの種類(フルまたは増分)を使って、1回のバックアップセッションで同時にバックアップされます。バックアップセッションの結果、1式のメディアにバックアップデータが書き込まれます。これらのメディアは、バックアップセットまたはメディアセットとも呼ばれます。「[バックアップ仕様](#)、[増分バックアップ](#)、および[フルバックアップ](#)」を参照。
- バックアップセット** (Oracle固有の用語)RMANバックアップコマンドを使用して作成したバックアップファイルの論理グループ。バックアップセットは、バックアップに関連したすべてのファイルのセットです。これらのファイルはパフォーマンスを向上するため多重化することができます。バックアップセットにはデータファイルまたはアーカイブログのいずれかを含めることができますが、両方同時に使用できません。
- バックアップセット** バックアップに関連したすべての統合ソフトウェアオブジェクトのセットです。
- バックアップチェーン** 「[復元チェーン](#)」を参照。
- バックアップデバイス** 記憶メディアに対するデータの読み書きが可能な物理デバイスをData Protectorでできるように構成したもの。たとえば、スタンダードアロンDDS/DATドライブやライブラリなどをバックアップデバイスとして使用できます。
- バックアップの種類** 「[増分バックアップ](#)、[ディファレンシャルバックアップ](#)、[トランザクションバックアップ](#)、[フルバックアップ](#)および[デルタバックアップ](#)」を参照。
- バックアップビュー** Data Protectorでは、バックアップ仕様のビューを切り替えることができます。
[種類別]を選択すると、バックアップ/テンプレートで利用できるデータの種類に基づいたビューが表示されます。(デフォルト)
[グループ別]を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの所属先のグループに基づいたビューが表示されます。

[名前別]を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの名前に基づいたビューが表示されます。

[Manager別](MoMの実行時のみ有効)を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの所属先のCell Managerに基づいたビューが表示されます。

- バックアップ世代** 1つのフルバックアップとそれに続く増分バックアップを意味します。次のフルバックアップが行われると、世代が新しくなります。
- バックアップ仕様** バックアップ対象オブジェクトを、使用するデバイスまたはドライブのセット、仕様内のすべてのオブジェクトに対するバックアップオプション、およびバックアップを行いたい日時とともに指定したリスト。オブジェクトとなるのは、ディスクやボリューム全体、またはその一部、たとえばファイル、ディレクトリ、Windowsレジストリなどです。インクルードリストおよびエクスクルードリストを使用して、ファイルを選択することもできます。
- パッケージ** (MC/ServiceGuardおよびVeritas Cluster固有の用語)特定のクラスター対応アプリケーションを実行するために必要なリソース(ボリュームグループ、アプリケーションサービス、IP名およびIPアドレスなど)の集合。
- パブリック/プライベートバックアップデータ** バックアップを構成する際は、バックアップデータをパブリックまたはプライベートのいずれにするかを選択できます。
- ・ パブリックデータ - すべてのData Protectorユーザーに対してアクセスと復元が許可されます。
 - ・ プライベートデータ - バックアップの所有者および管理者に対してのみ表示と復元が許可されます。
- パブリックフォルダストア** (Microsoft Exchange Server固有の用語)インフォメーションストアのうち、パブリックフォルダ内の情報を維持する部分。パブリックフォルダストアは、バイナリリッチテキスト、edbファイルと、ストリーミングネイティブインターネットコンテンツを格納する、stmファイルから構成されます。
- ファーストレベルミラー** (HP StorageWorksディスクアレイXP固有の用語)HPStorageWorks Disk Array XPでは、プライマリボリュームのミラーコピーは3つまで作成することができ、このコピー1つごとにさらに2つのコピーを作成できます。最初の3つのミラーコピーはファーストレベルミラーと呼ばれます。
「[プライマリボリューム](#)および[MU番号](#)」を参照。

ファイバーチャネル	ファイバーチャネルは、高速のコンピュータ相互接続に関するANSI標準です。光ケーブルまたは銅線ケーブルを使って、大容量データファイルを高速で双方向送信でき、数km離れたサイト間を接続できます。ファイバーチャネルは、ノード間を3種類の物理トポロジー（ポイントツーポイント、ループ、スイッチ式）で接続できます。
ファイルシステム	ハードディスク上に一定の形式で保存されたファイルの集まり。ファイルシステムは、ファイル属性とファイルの内容がバックアップメディアに保存されるようにバックアップされます。
ファイルジュークボックスデバイス	ファイルメディアを格納するために使用する、複数のスロットからなるディスク上に存在するデバイス。
ファイルツリーウォーク	(Windows固有の用語)どのオブジェクトが作成、変更、または削除されたかを判断するためにファイルシステムを巡回する処理。
ファイルデポ	バックアップからファイルライブラリデバイスまでのデータを含むファイル。
ファイルバージョン	フルバックアップや増分バックアップでは、ファイルが変更されている場合、同じファイルが複数回バックアップされます。バックアップのロギングレベルとして[すべてログに記録]を選択している場合は、ファイル名自体に対応する1つのエントリとファイルの各バージョンに対応する個別のエントリがIDB内に維持されます。
ファイルライブラリデバイス	複数のメディアからなるライブラリをエミュレートするディスク上に存在するデバイス。ファイルデポと呼ばれる複数のファイルが格納されます。
ファイル複製サービス(FRS)	Windowsサービスの1つ。ドメインコントローラのストアログオンスク립トとグループポリシーを複製します。また、分散ファイルシステム(DFS)共有をシステム間で複製したり、任意のサーバーから複製作業を実行することもできます。
ブートボリューム/ディスク/パーティション	ブートプロセスの開始に必要なファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティション。Microsoftの用語では、オペレーティングシステムファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティションをブートボリューム/ブートディスク/ブートパーティションと呼んでいます。
フェイルオーバー	(HP StorageWorks EVA固有の用語)CA+BCEVA構成におけるソースとあて先の役割を逆にする操作。 「CA+BC、EVA」を参照。

フェイルオーバー	あるクラスターノードから別のクラスターノードに最も重要なクラスターデータ(Windowsの場合はグループ、UNIXの場合はパッケージ)を転送すること。フェイルオーバーは、主に、プライマリノードのソフトウェア/ハードウェア障害発生時や保守時に発生します。
フォーマット	メディアをData Protectorで使用できるように初期化するプロセス。メディア上の既存データはすべて消去されます。メディアに関する情報(メディアID、説明、場所)は、IDBおよび該当するメディア(メディアヘッダー)に保存されます。Data Protectorのメディアは、保護の期限が切れるか、またはメディアの保護が解除されるかメディアがリサイクルされるまで、フォーマットされません。
負荷調整	デフォルトでは、デバイスが均等に使用されるように、バックアップ用に選択されたデバイスの負荷(使用率)が自動的に調整されます。負荷調整では、各デバイスに書き込まれるオブジェクトの個数を調整することで、使用率を最適化します。負荷調整はバックアップ時に自動的に実行されるので、データが実際にどのようにバックアップされるかを管理する必要はありません。使用するデバイスを指定する必要があるだけです。負荷調整機能を使用しない場合は、バックアップ仕様に各オブジェクトに使用するデバイスを選択できます。Data Protectorは、指定した順にデバイスにアクセスします。
復元セッション	バックアップメディアからクライアントシステムにデータをコピーするプロセス。
復元チェーン	特定の時点までのバックアップオブジェクトの復元に必要なバックアップすべて。復元チェーンは、オブジェクトのフルバックアップ1つと、任意の数の増分バックアップで構成されます。
複製	(ZDB固有の用語)ユーザー指定のバックアップオブジェクトを含む、特定の時点におけるソースボリュームのデータのイメージ。イメージは、作成するハードウェアまたはソフトウェアによって、物理ディスクレベルでの記憶ブロックの独立した正確な複製(クローン)になる(スプリットミラーやスナップクローンなど)場合もあれば、仮想コピーになる(スナップショットなど)場合もあります。基本的なオペレーティングシステムの観点からすると、バックアップオブジェクトを含む物理ディスク全体が複製されます。しかし、UNIXでボリュームマネージャを使用するときは、バックアップオブジェクトを含むボリュームまたはディスクグループ全体が複製されます。Windowsでパーティションを使用する場合、選択したパーティションを含む物理ボリューム全体が複製されます。 「 スナップショット 、 スナップショット作成 、 スプリットミラー 、および スプリットミラーの作成 」を参照。

複製セット	(ZDB固有の用語)同じバックアップ仕様を使って作成される複製のグループ。 「複製および複製セットローテーション」を参照。
複製セットローテーション	(ZDB固有の用語)通常のバックアップ作成のために継続的に複製セットを使用すること。複製セットの使用を必要とする同一のバックアップ仕様が実行されるたびに、新規の複製がセットの最大数になるまで作成され、セットに追加されます。その後、セット内の最も古い複製は置き換えられ、セット内の複製の最大数が維持されます。 「複製および複製セット」を参照。
物理デバイス	ドライブまたはより複雑な装置(ライブラリなど)を格納する物理装置。
プライマリボリューム(P-VOL)	(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)CAとBC構成用のプライマリボリュームとしての役割を果たす標準HPStorageWorks XP Disk Array XP LDEV。P-VOLはMCU内に配置されています。 「セカンダリボリューム(S-VOL)およびMain Control Unit (MCU)」を参照。
フラッシュリカバリ領域	(Oracle固有の用語)フラッシュリカバリ領域は、バックアップと復旧に関するファイル(リカバリファイル)の集中管理ストレージ領域として機能する、Oracle10g/11gによって管理されるディレクトリ、ファイルシステム、または自動ストレージ管理のディスクグループです。 「リカバリファイル」を参照。
フリープール	フリープールは、メディアプール内のすべてのメディアが使用中になっている場合にメディアのソースとして補助的に使用できるプールです。ただし、メディアプールでフリープールを使用するには、明示的にフリープールを使用するように構成する必要があります。
フルZDB	前回のバックアップから変更がない場合でも選択されたすべてのオブジェクトをテープにストリーミングする、テープへのZDBセッションまたはディスク+テープへのZDBセッション。 「増分ZDB」を参照。
フルデータベースバックアップ	最後に(フルまたは増分)バックアップした後に変更されたデータだけではなく、データベース内のすべてのデータのバックアップ。フルデータベースバックアップは、他のバックアップに依存しません。
フルバックアップ	フルバックアップでは、最近変更されたかどうかに関係なく、選択されたオブジェクトをすべてバックアップします。 「バックアップの種類」を参照。

フルメールボックス バックアップ	フルメールボックスバックアップでは、メールボックス全体の内容をバックアップします。
分散ファイルシステム(DFS)	複数のファイル共有を単一の名前空間に接続するサービス。対象となるファイル共有は、同じコンピュータに置かれていても、異なるコンピュータに置かれていてもかまいません。DFSは、リソースの保存場所の違いに関係なくクライアントがリソースにアクセスできるようにします。
ペアステータス	<p>(<i>HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語</i>)ミラー化されたディスクのペアは、そのペア上で実行されるアクションによって、さまざまなステータス値を持ちます。最も重要なステータス値は以下の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コピー - ミラー化されたペアは、現在再同期中。データは一方のディスクからもう一方のディスクに転送されます。2つのディスクのデータは同じではありません。 ・ ペア - ミラー化されたペアは完全に同期され、両方のディスク(プライマリボリュームとミラー化されたボックス)に同じデータが格納されます。 ・ 中断 - ミラー化されたディスク間のリンクは中断されています。両方のディスクが別々にアクセスされ、更新されています。ただし、ミラー関係はまだ保持されており、このペアは、ディスク全体を転送することなく、再同期することができます。
並行復元	単一のMedia Agentからデータを受信するDisk Agentを複数実行して、バックアップされたデータを同時に複数のディスクに(並行して)復元すること。並行復元を行うには、複数のディスクまたは論理ボリュームに置かれているデータを選択し、同時処理数を2以上に設定してバックアップを開始し、異なるオブジェクトのデータを同じデバイスに送信する必要があります。並行復元中には、復元対象として選択した複数のオブジェクトがメディアから同時に読み取られるので、パフォーマンスが向上します。
並列処理	1つのオンラインデータベースから複数のデータストリームを読み取ること。
保護	「 データ保護 および カタログ保護 」を参照。
補助ディスク	必要最小限のオペレーティングシステムファイル、ネットワークファイル、およびData Protector Disk Agentがインストールされたブート可能ディスク。ディスクデリバリーでUNIXクライアントを障害から復旧するときの段階1では、補助ディスクをターゲットシステムのブートに使用することができます。

ホストシステム	Data Protector Disk Agentがインストールされており、ディスクデリバリーによるディザスタリカバリに使用される稼働中のData Protectorクライアント。
ボリュームグループ	LVMシステムにおけるデータストレージ単位。ボリュームグループは、1つまたは複数の物理ボリュームから作成できます。同じシステム上に複数のボリュームグループを置くことができます。
ボリュームマウントポイント	(Windows固有の用語)ボリューム上の空のディレクトリを他のボリュームのマウントに使用できるように構成したもの。ボリュームマウントポイントは、ターゲットボリュームへのゲートウェイとして機能します。ボリュームがマウントされていれば、ユーザーやアプリケーションがそのボリューム上のデータをフル(マージ)ファイルシステムパスで参照できます(両方のボリュームが一体化されている場合)。
マージ	復元中のファイル名競合を解決するモードの1つ。復元するファイルと同じ名前のファイルが復元先に存在する場合、変更日時の新しい方が維持されます。既存のファイルと名前が重複しないファイルは、常に復元されます。 「 上書き 」を参照。
マウントポイント	ディレクトリ構造内において、ディスクまたは論理ボリュームにアクセスするためのアクセスポイント(/optやd:など)。UNIXでは、bdfコマンドまたはdfコマンドを使ってマウントポイントを表示できます。
マウント要求	マウント要求時には、デバイスにメディアを挿入するように促す画面が表示されます。必要なメディアを挿入して確認することでマウント要求に応答すると、セッションが続行されます。
マジックパケット	「 Wake ONLAN 」を参照。
ミラー(EMC SymmetrixおよびHP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)	「 ターゲットボリューム 」を参照。
ミラーローテーション(HP StorageWorks Disk Array XP固有の用語)	「 複製セットローテーション 」を参照。

無人操作 (lights-outoperation またはunattended operation)	オペレータの介在なしで、通常の営業時間外に実行されるバックアップ操作または復元操作。オペレータが手動で操作することなく、バックアップアプリケーションやサービスのマウント要求などが自動的に処理されます。
無人操作	「 lights-outoperation 」を参照。
メールボックス	(Microsoft Exchange Server 固有の用語)電子メールが配信される場所。管理者がユーザーごとに設定します。電子メールの配信場所として複数の個人用フォルダが指定されている場合は、メールボックスから個人用フォルダに電子メールがルーティングされます。
メールボックスストア	(Microsoft Exchange Server 固有の用語)インフォメーションストアのうち、ユーザーメールボックス内の情報を維持する部分。メールボックスストアは、バイナリデータを格納するリッチテキスト.edbファイルと、ストリーミングネイティブインターネットコンテンツを格納する.stmファイルからなります。
メディアID	Data Protectorがメディアに割り当てる一意な識別子。
メディアセット	バックアップセッションでは、メディアセットと呼ばれるメディアのグループにデータをバックアップします。メディアの使用法によっては、複数のセッションで同じメディアを共有できます。
メディアのインポート	メディアに書き込まれているバックアップセッションデータをすべて再読み込みして、IDBに取り込むプロセス。これにより、メディア上のデータにすばやく、簡単にアクセスできるようになります。 「 メディアのエクスポート 」を参照。
メディアのエクスポート	メディアに格納されているすべてのバックアップセッション情報(システム、オブジェクト、ファイル名など)をIDBから削除するプロセス。メディア自体に関する情報やメディアとプールに関する情報もIDBから削除されます。メディア上のデータは影響されません。 「 メディアのインポート 」を参照。
メディアのポールの ルーティング	メディアを安全な別の場所に収納すること。メディアが復元に必要になった場合や、今後のバックアップにメディアを再使用する場合は、メディアをデータセンターに戻します。ポールのルーティング手順は、会社のバックアップ戦略やデータ保護/信頼性ポリシーに依存します。
メディアの使用法	メディアの使用法は、既に使用されているメディアに対してバックアップをどのように追加するかを制御します。メディアの使用法は、

[追加可能]、[追加不可能]、[増分のみ追加可能]のいずれかに設定できます。

メディアの位置	バックアップメディアが物理的に収納されている場所を示すユーザー定義の識別子。“building 4”や“off-sitestorage”のような文字列です。
メディアの種類	メディアの物理的な種類(DDSやDLTなど)。
メディアの状態	メディア状態要素から求められるメディアの品質。テープメディアの使用頻度が高く、使用時間が長ければ、読み書きエラーの発生率が高くなります。状態が[不良]になったメディアは交換する必要があります。
メディアプール	同じ種類のメディア(DDSなど)のセット。グループとして追跡されません。フォーマットしたメディアは、メディアプールに割り当てられません。
メディアラベル	メディアに割り当てられるユーザー定義の識別子。
メディア割り当てポリシー	メディアをバックアップに使用する順序を決定します。[Strict]メディア割り当てポリシーでは、特定のメディアに限定されます。[Loose]ポリシーでは、任意の適切なメディアを使用できます。[フォーマットされていないメディアを先に割り当てる]ポリシーでは、ライブラリ内に利用可能な非保護メディアがある場合でも、不明なメディアが優先されます。
メディア管理セッション	初期化、内容のスキャン、メディア上のデータの確認、メディアのコピーなどのアクションをメディアに対して実行するセッション。
メディア状態要素	使用回数のしきい値と上書きのしきい値。メディアの状態の判定基準となります。
ユーザーアカウント (Data Protector ユーザーアカウント)	Data Protectorおよびバックアップデータに対する無許可のアクセスを制限するために、Data Protectorユーザーとして許可を受けたユーザーにしかData Protectorを使用できないようになっています。Data Protector 管理者がこのアカウントを作成するときには、ユーザーログオン名、ユーザーのログオン元として有効なシステム、およびData Protectorユーザーグループのメンバーシップを指定します。ユーザーがData Protectorのユーザーインターフェースを起動するか、または特定のタスクを実行するときには、このアカウントが必ずチェックされます。

ユーザーアカウント制御(UAC)	Windows VistaおよびWindows Server 2008のセキュリティコンポーネント。管理者が権限レベルを上げるまで、アプリケーションソフトウェアを標準のユーザー権限に限定します。
ユーザーグループ	各Data Protectorユーザーは、ユーザーグループのメンバーです。各ユーザーグループには1式のユーザー権限があり、それらの権限がユーザーグループ内のすべてのユーザーに付与されます。ユーザー権限を関連付けるユーザーグループの数は、必要に応じて定義できます。Data Protectorには、デフォルトでAdmin、Operator、Userの3つのユーザーグループが用意されています。
ユーザーディスク割り当て	NTFSの容量管理サポートを使用すると、共有ストレージボリュームに対して、拡張された追跡メカニズムの使用およびディスク容量に対する制御が行えるようになります。Data Protectorでは、システム全体にわたるユーザーディスク割り当てが、すべてのユーザーに対して一度にバックアップされます。
ユーザープロファイル	<i>(Windows固有の用語)</i> ユーザー別に維持される構成情報。この情報には、デスクトップ設定、画面表示色、ネットワーク接続などが含まれます。ユーザーがログオンすると、そのユーザーのプロファイルがロードされ、Windows環境がそれに応じて設定されます。
ユーザー権限	特定のData Protectorタスクの実行に必要なパーミッションをユーザー権限またはアクセス権限と呼びます。主なユーザー権限には、バックアップの構成、バックアップセッションの開始、復元セッションの開始などがあります。ユーザーには、そのユーザーの所属先ユーザーグループに関連付けられているアクセス権限が割り当てられます。
ライター	<i>(Microsoft VSS固有の用語)</i> オリジナルボリューム上のデータの変更を開始するプロセス。主に、永続的なデータをボリューム上に書き込むアプリケーションまたはシステムサービスがライターとなります。ライターは、シャドウコピーの同期化プロセスにも参加し、データの整合性を保証します。
ライブラリ	オートチェンジャー、ジュークボックス、オートローダー、またはエクスチェンジャーとも呼ばれます。ライブラリには、複数のレポジトリスロットがあり、それらにメディアが格納されます。各スロットがメディア(DDS/DATなど)を1つずつ格納します。スロット/ドライブ間でのメディアの移動は、ロボット機構によって制御され、メディアへのランダムアクセスが可能です。ライブラリには、複数のドライブを格納できます。

リカバリカタログ	<p>(Oracle固有の用語)Recovery ManagerがOracleデータベースについての情報を格納するために使用するOracleの表とビューのセット。この情報は、RecoveryManagerがOracleデータベースのバックアップ、復元、および復旧を管理するために使用されます。リカバリカタログには、以下の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracleターゲットデータベースの物理スキーマ • データファイルおよびアーカイブログのバックアップセット • データファイルのコピー • アーカイブREDOログ • ストアドスクリプト
リカバリカタログデータベース	<p>(Oracle固有の用語)リカバリカタログスキーマを格納するOracleデータベース。リカバリカタログはターゲットデータベースに保存しないでください。</p>
リカバリカタログデータベースへのログイン情報	<p>(Oracle固有の用語)リカバリカタログデータベース(Oracle)へのログイン情報の形式は<code>user_name/password@service</code>で、ユーザー名、パスワード、サービス名の説明は、OracleターゲットデータベースへのOracleSQL*Net V2ログイン情報と同じです。ただし、この場合の<code>service</code>はOracleターゲットデータベースではなく、リカバリカタログデータベースに対するサービス名となります。ここで指定するOracleユーザーは、Oracleのリカバリカタログのオーナーでなければならないことに注意してください。</p>
リカバリファイル	<p>(Oracle固有の用語)リカバリファイルはフラッシュリカバリ領域に存在するOracle10g/11g固有のファイルで、現在の制御ファイル、オンラインREDOログ、アーカイブREDOログ、フラッシュバックログ、制御ファイル自動バックアップ、データファイルコピー、およびバックアップピースがこれにあたります。 「フラッシュリカバリ領域」を参照。</p>
リサイクルまたは保護解除	<p>メディア上のすべてのバックアップデータのデータ保護を解除して、以降のバックアップで上書きできるようにするプロセス。同じセッションに所属しているデータのうち、他のメディアに置かれているデータも保護解除されます。リサイクルを行っても、メディア上のデータ自体は変更されません。</p>
リムーバブル記憶域の管理データベース	<p>(Windows固有の用語)Windowsサービスの1つ。リムーバブルメディア(テープやディスクなど)と記憶デバイス(ライブラリ)の管理に使用されます。リムーバブル記憶域により、複数のアプリケーションが同じメディアリソースを共有できます。</p>

ローカル復旧とリモート復旧	<p>リモート復旧は、SRDファイルで指定されているMedia Agentホストがすべてアクセス可能な場合にのみ実行されます。いずれかのホストがアクセス不能になっていると、ディザスタリカバリプロセスがローカルモードにフェイルオーバーされます。これは、ターゲットシステムにローカルに接続しているデバイスが検索されることを意味します。デバイスが1台しか見つからない場合は、そのデバイスが自動的に使用されます。複数のデバイスが見つかった場合は、デバイスが選択できるプロンプトが表示され、ユーザーが選択したデバイスが復元に使用されます。</p>
ローカル連続レプリケーション	<p>(<i>Microsoft Exchange Server固有の用語</i>)ローカル連続レプリケーション(LCR)はストレージグループの完全コピー(LCRコピー)を作成および維持するシングルサーバーソリューション。LCRコピーは元のストレージグループと同じサーバーに配置されます。LCRコピーが作成されると、変更伝播(ログリプレイ)テクノロジーで最新に保たれます。LCRの複製機能では未複製のログが削除されません。この動作の影響により、ログを削除するモードでバックアップを実行しても、コピー中のログと複製に十分な余裕がある場合、実際にはディスクの空き容量が解放されない場合があります。LCRコピーへの切り替えは数秒で完了するため、LCRコピーはディザスタリカバリに使用されます。元のデータとは異なるディスクに存在するLCRコピーをバックアップに使用すると、プロダクションデータベースの入出力の負荷が最小になります。複製されたストレージグループは、Exchangeライターの新しいインスタンス(Exchange ReplicationService)として表示され、通常のストレージグループのようにVSSを使用してバックアップできます。「クラスター連続レプリケーションおよびExchange Replication Service」を参照。</p>
ロギングレベル	<p>ロギングレベルは、バックアップ、オブジェクトのコピー、またはオブジェクトの集約時にファイルとディレクトリに関する情報をどの程度まで詳細にIDBに記録するかを示します。バックアップ時のロギングレベルに関係なく、データの復元は常に可能です。Data Protectorには、[すべてログに記録]、[ディレクトリレベルまでログに記録]、[ファイルレベルまでログに記録]、および[ログなし]の4つのロギングレベルがあります。ロギングレベル設定によって、IDBのサイズ増加、バックアップ速度、および復元データのブラウザのしやすさが影響を受けます。</p>
ログインID	<p>(<i>Microsoft SQL Server固有の用語</i>)Microsoft SQL Serverにログインするためにユーザーが使用する名前。Microsoft SQL Serverのsysloginシステムテーブル内のエントリに対応するログインIDが有効なログインIDとなります。</p>

ロック名	別のデバイス名を使うことで同じ物理デバイスを違う特性で何度も構成することができます。そのようなデバイス(デバイス名)が複数同時に使用された場合に重複を防ぐ目的で、デバイス構成をロックするためにロック名が使用されます。ロック名はユーザーが指定する文字列です。同一の物理デバイスを使用するデバイス定義には、すべて同じロック名を使用します。
論理演算子	オンラインヘルプシステムの全文検索には、AND、OR、NOT、NEARの各ブール演算子を使用できます。複数の検索条件をブール演算子で組み合わせて指定することで、検索対象をより正確に絞り込むことができます。複数単語の検索に演算子を指定しなければ、ANDを指定したものとみなされます。たとえば、「manualdisaster recovery」という検索条件は、「manual AND disasterAND recovery」と同じ結果になります。
論理ログファイル	論理ログファイルは、オンラインデータベースバックアップの場合に使用されます。変更されたデータがディスクにフラッシュされる前に書き込まれるファイルです。障害発生時には、これらの論理ログファイルを使用することで、コミット済みのトランザクションをすべてロールフォワードするとともに、コミットされていないトランザクションをロールバックすることができます。
ワイルドカード文字	1文字または複数文字を表すために使用できるキーボード文字。たとえば、通常、アスタリスク(*)は1文字以上の文字を表し、疑問符(?)は1文字を示します。ワイルドカード文字は、名前により複数のファイルを指定するための手段としてオペレーティングシステムで頻繁に使用されます。

索引

C

CLI, 63

G

GUI、開く, 37

GUIを開く, 37

H

HP

技術サポート, 23

HP Data Protector Granular Recovery
Extension

インストール,

設定の変更, 60

インストール, 27, 80

削除, 80

I

IISアプリケーションプール、構成の確認,
34

Internet Information Services

「IIS」を参照。

M

Microsoft SharePointファームの情報, 68

O

Office SharePointファームの情報, 68

W

Webサイト

HP,

HPメールニュース配信登録, 23

製品マニュアル, 13

い

インストール, 27, 80

HP Data Protector Granular Recovery
Extension, 27, 80

インポート

コンテンツデータベース, 41, 45

コンテンツデータベースからのアイテ
ム, 68

バックアップ, 41

バックアップからのコンテンツデー
タベース, 41

ファイルシステム, 45

ファイルシステムからのコンテンツデー
タベースの, 45

インポートジョブ、監視, 59

え

エクスポートするアイテム、一覧表示, 68

エクスポートするアイテムの一覧表示, 68

か

関連ドキュメント, 13

き

規則

表記, 21

キャッシュ

管理, 41

コンテンツデータベースの削除, 59, 67

こ

構成, 31

Data Protectorバックアップ仕様, 32

ユーザー権限, 31

構成の確認

IISアプリケーションプール, 34

復旧Webアプリケーション, 31

高度な検索, 54

コマンド行リファレンス, 63

コンテンツデータベース, 25

復元, 64

アイテムのインポート, 68

アイテムのエクスポート, 67

インポート, 41, 45

キャッシュからの削除, 59, 67

ディスクからの削除, 67

情報の表示, 68

バックアップからのインポート, 45

ファイルシステムからのインポート, 45

コンテンツデータベースからのエクスポート, 67

コンテンツの復旧タスク, 48

コンテンツの復旧タスクの実行, 48

さ

サイト

一覧表示, 69

サイトアイテム

高度な検索, 54

復旧, 49

ネットワーク共有への復旧, 58

元のサイトへの復旧, 66

別のファームへの復旧, 57

別の場所への復旧, 57, 66

フォルダへの復旧, 58

サイトアイテムの復旧, 49

オリジナルサイト, 66

ネットワーク共有, 58

別の場所, 57, 66

別のファーム, 57

フォルダ, 58

サイトの参照, 69

削除, 80

HP Data Protector Granular Recovery
Extension, 80

コンテンツデータベース

キャッシュ, 59, 67

ディスク, 67

復元ジョブ, 66

サポート

HP, 23

利用, 23

し

詳細復旧

開始, 37

インポートジョブの監視, 59

キャッシュ管理, 41

エラーメッセージ Data Protector

サービスが実行されていない, 78

リンクにアクセスできない, 73, 74

ジョブ、監視, 64

ジョブの監視, 64

せ

設定

コンテンツデータベース

ディスク, 67

設定、変更, 60
設定の変更, 60
前提条件
 インストール前, 28
 サイトアイテムの復旧, 49

た

対象読者, 13
タスク、コンテンツの復旧, 48
単位, 25

ち

遅延
 HP Data Protector Granular Recovery
 Extension, 77
 コマンド行, 76

て

テクニカルサポート
 サービスロケータWebサイト, 23
ディスク容量、確認, 65

と

ドキュメント
 HP Webサイト, 13
 関連ドキュメント, 13
 フィードバックの提供, 23
トラブルシューティング, 71

は

バックアップ仕様, 35
 構成, 32
バックアップ、コンテンツデータベースの
インポート, 41
バックアップソリューション, 25
 詳細, 28
バージョン, 69

ひ

表記
 規則, 21
表示, 69

ふ

ファイルシステム、コンテンツデータベー
スのインポート, 45
ファームの情報, 68
復元
 失敗, 71
 ジョブ、復元, 66
復元先のディスク容量の確認, 65
復旧, 37
復旧Webアプリケーション
 構成の確認, 31
 設定, 31
復旧単位機能, 25

ま

マウントの失敗, 71

め

メールニュース配信登録、HP, 23

ゆ

ユーザー権限, 31

